

1	安全安心生活デザイン概論 LS-A-101		必修 2単位 1年前期
	Introduction for Social Planning and Housing Design		
1年全組 学科全教員			
授業の達成目標			授業形態
豊かな人間生活をかたちづくる具体的状況としての「地域」における「くらし」や「住まい」に関する基礎知識を養い、その安全・安心を実現するための倫理・科学・技術・文化の諸相を学ぶ。現代社会の状況をふまえながら将来の進路開拓について考え、そのための具体的な学習指針をたてることを目標とする。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input checked="" type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
安全安心生活デザイン学科の教育目標と内容を体系的に理解し、今後の学習意欲を高める。地域のくらしと住まいにおける問題解決を共通テーマとし、具体的フィールドとして仙台・宮城・東北地方を例示して、心身の健康から住まい・まちづくりまで、学科所属教員全員が各専門の立場から概説する。			<input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目
実務経験を活かした教育について			<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	地域と福祉の今日的課題 (共通1)	地域と福祉に関する今日的課題を考察し、東北・宮城・仙台のくらしと住まいを考える。(予習:福祉とは何か、その語義から、講義内容を想定して考察を深めておく/復習:くらしと住まいの具体的な課題について考える)	4
第2回	ライフデザイン学のあゆみ (共通2)	学部学科の歴史および社会的意義を理解し、東北・宮城・仙台での実践史を紹介する。(予習:学部全体のカリキュラム体系を予習する/復習:学習関心を学外に広げ、行動計画をたてる)	4
第3回	地域と防災 (くらし1)	くらしのデザインと防災について関心を深め、東北・宮城・仙台の事例を再考する。(予習:日常生活の安全安心に関わる疑問点を記録しておく/復習:今日の防災計画の改善点について考察する)	4
第4回	高齢化社会と支え合い (くらし2)	高齢化社会と支え合いに関する基礎知識を東北・宮城・仙台の実践例をふまえて学ぶ。(予習:身の回り的高齢者の生活について観察する/復習:支え合いのあり方について考察する)	4
第5回	福祉コミュニティのデザイン (くらし3)	障がい者福祉に関する基礎知識を養う。(予習:身の回りの障がい者の生活について観察する/復習:支え合いのあり方について考察する)	4
第6回	社会心理と市民行動 (くらし4)	社会心理に関する基礎知識を養う。(予習:社会問題となった事故・災害の記事について予習する/復習:市民行動とその心理構造について考察する)	4
第7回	産業社会と企業 (くらし5)	産業社会と企業に関する基礎知識を養う。(予習:気になる企業を一つ選び、その沿革や業態を予習する/復習:産業社会での労働について考え、就職について考える)	4
第8回	くらしのデザイン・まとめワークショップ	前6回の内容と相互連関性について理解する。(予習:当該講義内容を復習しておく/復習:討論の要点と持論についてレポートを作成する)	4
第9回	住まいの意匠と性能 (住まい1)	住まいのデザインに関わる学問体系を理解する。(予習:身の回りの住環境の特徴を記録しておく/復習:身の回りの住環境の改善点を考察する)	4
第10回	現代の住まいとインテリア (住まい2)	現代の住まい・インテリアへの興味関心を深める。(予習:興味ある住まい・インテリアの事例調査を行う/復習:住まい・インテリアの部位名を復習する)	4
第11回	現代住宅の性能論 (住まい3)	省エネルギーの住環境とその必要性を理解する。(予習:省エネ住宅に関する新聞記事等を抽出する/復習:これからの住宅性能について考察する)	4
第12回	地域の歴史と住まい (住まい4)	住まいの歴史や地域性への興味関心を深める。(予習:出身地域の歴史について予習しておく/復習:仙台旧市街を歩き、歴史性を確認する)	4
第13回	住まいのデザイン・まとめワークショップ	前4回の内容と相互連関性について理解する。(予習:当該講義内容を復習しておく/復習:討論の要点と持論についてレポートを作成する)	4
第14回	くらしと住まいの体系的理解 (共通3)	地域のくらしと住まいに関わる学問体系を理解し、基礎的内容の重要性を理解する。(予習:カリキュラム科目名にあるキーワードを調べる/復習:4年間の学習計画を構想する)	4
第15回	くらしと住まいの学術的実践 (共通4)	地域のくらしと住まいに関わる学問・技術の可能性を探り、学科の実践事例と将来的な探求課題について考察する。(予習:学科の実践事例にあるキーワードを調べる/復習:3年次以降の学術的探求課題について考える)	4
教科書・参考書等			
指定しない。オムニバス講義ごとに、当該年度に適した参考図書を推薦する。			
成績評価方法・基準			
毎回とも、講義+レポート記入時間で授業を構成し、提出されたレポートの内容理解度にもとづく得点を合計し、総合的見地から成績評価を行う。			

2	地域防災論 LS-A-111	必修 2単位 2年前期	
	Studies of Local Disaster Mitigation		
2年全組 准教授 畠山 雄豪			
授業の達成目標		授業形態	
都市や農山漁村など地域の防災について学び、その知識をわが身の安全・安心や地域社会に活かせるようにすることをめざす。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
災害発生の原因、拡大の背景、応急対応のしくみなど災害発生から対応までについて東日本大震災における仙台など東北の事例、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震など主に過去の地震災害事例から解説する。またグループディスカッションなどを通して災害について自ら考えられるようにする。これらを通して災害の地域構造について理解を深めていく。		○ 教職科目 (工業)	
		○ 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		○ 実務経験のある教員担当	
担当教員は、自治体において防災面を含めた地域社会の課題活動に従事しており、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。		○ アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	災害とは (ガイダンス)	災害とはどのような条件、要素で発生するかについて考える。(予習:各自で考えてくこと/復習:授業の内容をふまえて東日本大震災などでも当てはまるか確認する)	4
第2回	災害の種類	地震、水害、土砂災害、雪害などの特徴について (予習:ハザードの違いについて調べておく/復習:宮城県など東北地方で過去に発生した災害について確認しておく)	4
第3回	災害発生と対応の流れ	災害発生に関する一連の対応について学ぶ(予習:自分の身の回りどどんな対応が必要か考えておくこと/復習:講義で作成したノートを見直し、災害発生から次の災害への備えまでの流れを確認しておくこと)	4
第4回	災害対応力	自助、共助、公助などの備え、助け合い・支え合いについて (予習:過去の災害における自助、共助、公助の事例を調べておく/復習:自分自身で行える自助の事例を考え、講義ノートに書き加える)	4
第5回	大規模災害の特徴	東日本大震災などでのような被害や問題が生じたか(予習:東日本大震災で受講学生自身が体験した被災状況を整理、箇条書きしておく/復習:板書を筆写した講義ノートを読み返し、自身の体験以外の被災形態や問題について理解する)	4
第6回	都市災害の特徴	都市災害について阪神・淡路大震災や東日本大震災における仙台市の事例などから学ぶ(予習:「帰宅困難者」とはどのような意味か調べておく/復習:大学から自宅まで徒歩による経路や距離、休憩場所等を地図で確認する)	4
第7回	農山漁村における災害の特徴	中山間地域など非都市部における災害の特徴について (予習:新潟県中越地震、岩手・宮城内陸地震の被害特徴について調べる/復習:都市災害と比較したときの共通点と相違点を整理しておくこと)	4
第8回	災害対応 (災害対策本部の役割)	地域における初動対応の拠点となる災害対策本部について (予習:災害対策本部とは何を行う場所、機能なのか調べておく/復習:住んでいる地域の地域防災計画から災害対策本部がどのように記述、位置づけられているか確認する)	4
第9回	災害対応 (医療など)	情報収集や発信、救急・救命医療など災害発生直後に重要な対応について (予習:トリアージの意味について調べておく/復習:消防や救急の広域ネットワーク、相互応援などについて自分の住んでいる地域ではどのようにしているか調べる)	4
第10回	災害対応 (避難所について)	避難所の開設と運営について (予習:自宅の周辺ではどこが指定避難所になっているか調べる/復習:避難所の開設から運営についての流れを復習しておくこと)	4
第11回	災害弱者について	災害弱者への配慮、対応について (予習:災害弱者とはどのような人を対象としているのか調べておく/復習:作成したノートなどから福祉避難所とはいつ頃から登場し、どのような特徴や課題があるか説明できるようにしておく)	4
第12回	災害ボランティアについて	災害ボランティアの活動内容や環境整備、留意点など (予習:各自が経験した災害ボランティアの内容をまとめておく/復習:ボランティアコーディネーターの役割について説明できるようにする)	4
第13回	仮住まい (応急仮設住宅) について	住宅を失った被災者が住宅再建が行われるまでの生活について理解する (予習:みなし仮設住宅とはどのようなものか調べておく/復習:仮住まいで留意すべき点についてまとめる)	4
第14回	災害への備え	これまでの講義を振り返る(予習:自分自身で行う災害への備えなどについてまとめておくこと/復習:地域全体を通して備えておく必要性について作成したノートなどから理解の定着に努めること)	4
第15回	地域防災の総括	全体のまとめ(予習:これまで作成した講義ノートを読み返しておくこと/復習:災害発生から一連の流れについて自分自身の言葉で説明できるようにしておく)	4
教科書・参考書等			
『被災地デイズ』(弘文堂)			
成績評価方法・基準			
学期末の筆記試験、レポート、各回の予復習(ノートの整理等)を総合的に評価する。			

3	ランドスケープ論 LS-A-201	必修 2単位 2年後期	
	Regional Landscape		
2年全組 教授 大沼 正寛			
授業の達成目標		授業形態	
公共空間をはじめ地域環境を設計するランドスケープデザインが我が国においても認知されてきた。また、日本の造園学は、ランドスケープアーキテクチャと訳される。昨今の環境・社会の変容を念頭におき、ライフデザインの広い見地に立つと、造園建築学や環境社会学といった諸分野を捉え直し、眼前の地域とその風景を、広い視野のもとに正しく読み解くことが、ますます重要になってきている。本講義では、こうした学術的諸分野を地域風土論と環境デザイン論に再統合し、主に仙台・宮城・東北の事例を採り上げ、地域固有の風景とその基本的構造を読み解く力を養う。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一組に担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
眼前の地域とその風景は、そこにくらす人々の生活・生業・コミュニティや、背景となる建築・産業社会・自然環境の複合事象からなる。地域風土論では、こうした複合事象の成立をひも解いていく。一方、住まいや生活要素を実測・図面化し、有形資源・実存空間を科学的に把握する測量学的な知識・技術と、これらを活かし地域風土の醸成に結びつける環境デザインの実践アプローチも重要である。本講義は、このように地域風土論と環境デザイン論の2編で構成し、理論と実践の双方に配慮して概説していく。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。		○ 教職科目(工業)	
		○ 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		○ 実務経験のある教員担当	
本科目では、受講者の多様性に鑑みて、当該領域により深い関心をもつ受講者向けに、一級建築士として関わった実務経験をもとにした事例紹介を交え、測量術・設計術につながるような技術的知識を加えていく。		○ アクティブラーニング	
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(予習・復習)	時間(時)
第1回	風土と風景と景観	地域風土論・第1講として、風土・風景・景観に関連する基礎用語の意味や違い、本講義の位置づけや意義を理解する。(予習:シラバス記載の基礎用語について辞書等を用いて調べる/復習:東北の風土の特徴について考察を深める)	4
第2回	東北の地理と植生	地域風土論・第2講として、東北地方の地理を復習し、気候と植生の特徴を理解する。(予習:東北の山脈・河川・湖沼・主要都市について、マップ等を用いて調べておく/復習:東北の植生の特徴について実例が身の回りにないか観察し、考察を深める)	4
第3回	緑の生活環境ー野草園の見学ー	地域風土論・第3講として、キャンパス近傍にある仙台市野草園を訪れ、植生・植栽と緑の生活環境について考える。(予習:野草園の成立や特徴について既往資料等を用いて調べておく/復習:野草園に植栽された樹木・山野草の事例をスケッチし理解を深める)	4
第4回	東北歴史紀行	地域風土論・第4講として、東北の人文的風土とその歩みに関心をもち、その基礎知識を修得するとともに特徴を理解する。(予習:東北の歴史をひもとく旧跡等について調べておく/復習:講義で示した参考図書を読み、東北の歴史とその課題・可能性について考察を深める)	4
第5回	近代東北の都市と農山漁村	地域風土論・第5講として、東北の近代史と都市・農山漁村の変容過程に関心をもち、基礎知識を修得するとともに特徴を理解する。(予習:近世から幕末の東北について参考図書等を読解しておく/復習:講義で示した参考図書を読み、東北の近代史とその課題・可能性について考察を深める)	4
第6回	東北の住環境と形態論	環境デザイン論・第1講として、東北の住環境とその形態および風景に関心をもち、基礎知識を修得するとともに特徴を理解する。(予習:身の回りの住宅、外構および町並みを観察しておく/復習:講義で示した事例を含め、身の回りの住環境形態の特徴について考察を深める)	4
第7回	住環境の形態と実測	環境デザイン論・第2講として、民家や寺社の実測術を事例として採り上げ、形態の特徴の捉え方や表現・計測・撮影手法を学ぶ。(予習:身の回りの寺社仏閣を訪れ、特徴を観察しておく/復習:講義で示した事例を含め、身の回りの住環境の実測手法を考える)	4
第8回	住環境の寸法・比例と実測	環境デザイン論・第3講として、民家や寺社の実測術を事例として採り上げ、モジュールや比例、設計意図を洞察する考え方を学ぶ。(予習:身の回りの住環境において、主要な寸法を計測してみる/復習:講義で示した事例を含め、身の回りの住環境の測量手法を考える)	4
第9回	地理情報システムの基礎	環境デザイン論・第4講として、測量学と地図の基礎、さらに地域的な分布、広がり記録分析できる地理情報システムの基礎について学ぶ。(予習:地図と座標の基本を学ぶため、数学における60進法について復習しておく/復習:汎用ツールとなったGoogleMapを使って地理的な課題を考察する)	4
第10回	地域景観の構造	環境デザイン論・第5講として、住環境レベルおよび地域レベルでの空間情報をもとに、科学的な分析を行う方法を学ぶ。(予習:居住地域における商店の分布など、分析対象の事象を列挙しておく/復習:講義をもとに、現状の地域環境を地理地理等の面から考察する)	4
第11回	生活景の実像	地域風土+環境デザイン統合編・第1講として、和辻哲郎「風土論」を手引せに、生活者と生活景の相補的現象について考える。(予習:和辻風土論について、同著やWEB資料等を用いて予習しておく/復習:風景の成立について考察し、身の回りの生活景を撮影するなどして熟考する)	4
第12回	家並みと町並み	地域風土+環境デザイン統合編・第2講として、家並みや町並みについて学び、その多様性や歴史的背景を考える。(予習:近隣の商店街等を訪れ、その屋根の向きや形態を観察しておく/復習:自分が関心をもった家並み・町並みの事例の一つ選び、その形成過程について考察する)	4
第13回	町並みの活用保全計画	地域風土+環境デザイン統合編・第3講として、伝統的建造物群保存地区の事例を学び、町並みの活用と保全の現場について学ぶ。(予習:東北の伝建地区についてWEBなどで事例を把握しておく/復習:身の回りの町並みの特徴がどのようにしたら維持継承されるかを考察する)	4
第14回	農山漁村における多世代共創の場	地域風土+環境デザイン統合編・第4講として、東北の農山漁村における多世代共創の事例を学び、その場づくりについて考察する。(予習:東北各地のまちづくり事例を資料・新聞等から抽出し、記録しておく/復習:生活景を育む現場としての多世代共創の場について、講義をもとに考察を深める)	4
第15回	生きているランドスケープ	地域風土+環境デザイン統合編・第5講として、ソフト・ハード両面からみた生活景と、これを活かす環境デザインについて総合的に考える。(予習:これまでの講義を振り返り、論点を整理しておく/復習:生きているランドスケープのあり方について考察を深め、持論を整理する)	4
教科書・参考書等			
「地域環境デザインと継承」日本建築学会編 彰国社 「東北歴史紀行」高橋富雄 岩波文庫 「風土にみる東北のかたち(東北学文庫(2))」塚本哲人ほか 河北新報社			
成績評価方法・基準			
期末試験および講義中に出席するレポート等の得点をもとに、総合的に評価する。			

4	健康と生活支援 LS-A-107	必修 2単位 1年後期	
	Human Health Care and Life Support		
1年全組 准教授 伊藤美由紀			
授業の達成目標		授業形態	
健康な方、疾患や障害をかかえる方に対して、心と身体の健康を維持するため、健康を取り戻すための安全で安心な生活を提供できるように、看護や介護について理解を深め、考えることができる。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
現代は、高齢者や病気を抱えた人の看護や介護に携わる人間や施設、システム、住環境などが著しく変化している。これからは、専門の医療・福祉施設に任せるだけではなく、職場や家庭・地域でも、看護や介護についての基礎的な知識を持った人が、それぞれの立場で適切に対応することが求められる。この講義では、それらの考え方と技術をグループワークや実習を通してわかりやすく実践的に学ぶ。		○ 教職科目 (工業)	
		○ 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		○ 実務経験のある教員担当	
総合病院で看護師の実務経験のある教員が、様々な疾病や障害のある個人や家族を支援した経験を活かし、健康寿命を延ばすための支援方法を建築や生活具のデザインにつなげられるよう教授する。		○ アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	看護とデザインとは	看護とは、個人や家族・地域社会が健康で、できる限り質の高い生活ができるための支援的活動であることを学び、デザインと関連付ける。少子高齢社会について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第2回	健康と看護；病気や障害とは!?	高齢化社会の現状と課題を知り、健康や病気について関心を持ち社会問題に関連付ける。健康問題について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第3回	食への援助	消化器の機能と障害について学び、食に関する健康問題に関心を持ち社会問題に関連付ける。食生活や消化器について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第4回	動作や移動への援助	運動器の機能と障害について学び、身体の動きや運動に関心を持ち社会問題に関連付ける。運動器について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第5回	高齢者の健康と支援 (1)：加齢に伴う変化とは!?	高齢化社会と個々の心身の変化について関心を持ち、加齢による心身の変化を知る。高齢者問題について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第6回	高齢者の健康と支援 (2)：加齢に伴う変化と看護	加齢による心身の変化と日常生活の変化、それに対する支援方法を考える。高齢者問題について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第7回	高齢者の健康と支援 (3)：高齢者体験実習ガイダンス	加齢による心身の変化と日常生活に対する実習をイメージし、具体的な計画を立案する。高齢者問題について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第8回	高齢者の健康と支援 (4)：高齢者体験実習	実習計画内容と加齢による心身の変化を対応させて考え、実際に行った実習内容での理解をまとめる。高齢者問題について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第9回	成人の健康と支援 (1)：がんとは!?	がんについて関心を持ち、がんを抱える患者や社会について学ぶ。悪性新生物 (がん) について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第10回	成人の健康と支援 (2)：がん患者への支援	がんを抱える患者やその家族への支援方法について考える悪性新生物 (がん) について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第11回	成人の健康と支援 (3)：生活習慣病と看護	生活習慣病について関心を持ち、生活習慣病を抱える患者や社会について学び、支援方法を考える。生活習慣病について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第12回	こどもの健康と支援 (1)：こどもの発達	こどもの発達や生活や行為に関心を持ち、実際の行動と発達課題を当てはめて考える。少子化について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第13回	こどもの健康と支援 (2)：発達課題と支援	こどもの発達や生活、実際の行動と発達課題から支援方法を考える。子どもの発達について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第14回	ヒューマンエラーとリスクマネジメント	日常生活の中での事故を具体的に考え、事故を分析することを学ぶ。事故事例について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第15回	まとめと試験	こどもから高齢者の発達や心身の変化、病気や障害、個人や社会の抱える課題とその支援についてふりかえり、具体的な提案をする。	4
教科書・参考書等			
自作資料。参考書はその都度紹介する。			
成績評価方法・基準			
授業レポートや体験実習実施前中後レポートを用いて総合的に評価する。			

5	福祉住環境 LS-A-202	必修 2単位 2年前期	
	Welfare Housing Design		
2年全組 准教授 伊藤美由紀 非常勤講師 野津 弘 ほか			
授業の達成目標		授業形態	
高齢者や障がい者、子どもなどの生活と住まいの現状における課題および少子高齢社会の進展について理解し、安全で安心できる住環境について考えることができる。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
高齢者や障がい者、子どもなど現代の多様な人々が共生する社会において、保健・福祉・医療・建築・環境などの連携の必要性を概説する。生活者を地域で支える仕組み・取り組みの改善案が提案できるよう、介護保険制度の活用方法、住宅整備手法、東北地方における代表的なまちづくり活動について話す。そのことにより地域での個人や集団の連携の必要性を理解し、宮城や仙台の地域の特徴を捉えた生活や住まいをグループディスカッションやグループワークを通してプレゼンテーションを行う。 授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	少子高齢社会の現状と課題	少子高齢社会について予習する。配付プリントを読み返し少子高齢社会の現状と課題について不確実な部分を復習する。	4
第2回	介護保険制度の概要としくみ	介護保険制度について予習する。配付プリントを読み返し介護保険制度の概要としくみについて不確実な部分を復習する。	4
第3回	介護保険施設とサービス	介護保険施設とサービスについて予習する。配付プリントを読み返し介護保険施設とサービスについて不確実な部分を復習する。	4
第4回	高齢者や障がい者の自立生活	ヘルスプロモーションについて予習する。配付プリントを読み返し高齢者や障がい者の自立生活について不確実な部分を復習する。	4
第5回	バリアフリーとユニバーサルデザイン	バリアフリーとユニバーサルデザインについて予習する。配付プリントを読み返しバリアフリーとユニバーサルデザインについて不確実な部分を復習する。	4
第6回	共用品と福祉用具	共用品と福祉用具について予習する。配付プリントを読み返し共用品と福祉用具について不確実な部分を復習する。	4
第7回	移動・起居・就寝・排泄・入浴の用具	福祉用具について予習する。配付プリントを読み返し移動・起居・就寝・排泄・入浴の用具について不確実な部分を復習する。	4
第8回	住宅整備における段差解消、手すりの設置、在来木造住宅の問題点	住宅整備における問題点について予習する。配付プリントを読み返し住宅整備における段差解消、手すりの設置、在来木造住宅の問題点について不確実な部分を復習する。	4
第9回	住宅整備における家具配置、色彩計画、照明計画、冷暖房	住宅整備について予習する。配付プリントを読み返し住宅整備における家具配置、色彩計画、照明計画、冷暖房について不確実な部分を復習する。	4
第10回	生活行為とアプローチ・玄関・廊下・階段の整備	生活行為と住まい (玄関・廊下・階段の整備) について予習する。配付プリントを読み返し生活行為とアプローチ・玄関・廊下・階段の整備について不確実な部分を復習する。	4
第11回	生活行為と便所・洗面所・浴室の整備	生活行為と住まい (便所・洗面所・浴室の整備) について予習する。配付プリントを読み返し生活行為と便所・洗面所・浴室の整備について不確実な部分を復習する。	4
第12回	生活行為と台所・寝室の整備	生活行為と住まい (台所・寝室の整備) について予習する。配付プリントを読み返し生活行為と台所・寝室の整備について不確実な部分を復習する。	4
第13回	ライフスタイルの多様化と住まい	現代の家族形態について予習する。配付プリントを読み返しライフスタイルの多様化と住まいについて不確実な部分を復習する。	4
第14回	人にやさしいまちづくり	まちづくり事例について予習する。配付プリントを読み返し人にやさしいまちづくりについて不確実な部分を復習する。	4
第15回	まとめと試験	これまでに配付したプリント全てに目を通して自分自身でも全体のまとめを行い予習する。試験に出たところ、特に試験でわからなかったところをプリントで確認し、本講義全体の復習をする。	4
教科書・参考書等			
講義の時間に毎回プリントを配付する。 参考書 「福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト」 東京商工会議所編			
成績評価方法・基準			
授業レポートやまとめの試験で総合的に評価する。			

6	ユニバーサルデザイン LS-A-203	必修 2単位 2年後期	
	Universal Design		
2年全組 教授 中島 敏 ほか			
授業の達成目標		授業形態	
わが国は、もののデザインや品質、さらに安全性での評価の高いことで諸外国から受け入れている。そして高齢化社会を迎えている現代社会では、高齢者と福祉、障がい者と福祉の概念のもとに、安全性やユニバーサルデザインの手法が大きく関わっている。この授業では、ものの安全の考え方とユニバーサルデザインを理解できることを目標とする。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
高齢者社会の生活空間では、生活に必要な道具とそれらを取り込んでいる外部空間や内部空間が存在しているが、高齢者や障がい者にとって決して使いやすい道具や空間のデザインが十分に備わっているとは言い難い。従って、これから益々弱者に相応しい道具や空間のデザインが要求される。講義では生活の中で使用している様々な道具とそれらを取り囲んでいる空間を紹介しつつ、ものの安全とユニバーサル型のデザインに相応しいかを解説する。真に安全で安心で豊かな社会形成のためのあるべき姿の基礎をここでは学ぶ。 授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
担当教員には、民間企業とデザイン事務所において長きに渡り実務経験に従事した実績と経験を活かして、授業において実務への対応力を養成する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	高齢者や障がい者の生活道具に関する概論	製品の安全とその事業者の責任についての関係を予習 / 高齢者や障がい者の実態調査と実際の道具との関係を復習する。	4
第2回	製品の安全の考え方と事業者の責任	製品による事故防止のための事業者の対応についての予習 / 製品の安全とその事業者の責任についての関係を復習する。	4
第3回	製品による事故防止のための事業者のあり方	製品による事故防止のための消費者の対応についての予習 / 製品による事故防止のための事業者のあり方を復習をする。	4
第4回	製品事故の具体的な事例の分析と対応策	製品による事故防止のための消費者のあり方についての予習 / 製品事故の具体的な事例の分析と対応策についての復習をする。	4
第5回	製品による事故防止のための消費者のあり方	「PL検定」の予習 / 製品による事故防止のための消費者の対応についての復習をする。	4
第6回	製品の事故防止のまとめと「PL検定」学習	道具とバリアフリーの実態調査と実際の道具とPLの関係性を予習 / 「PL検定」の復習をする。	4
第7回	道具のユニバーサルデザインとそのPLとは	道具とバリアフリーの実態調査と実際の道具との関係を予習 / 道具とバリアフリーの実態調査と実際の道具とPLの関係を復習する。	4
第8回	道具のバリアフリーとは	移動式日用品の実態把握と日用品を使用した際の関係を予習 / 道具とバリアフリーの実態調査と実際の道具との関係を復習する。	4
第9回	移動式日用品の事例	固定式日用品の実態把握と日用品を使用した際の関係を予習 / 移動式日用品の実態把握と日用品を使用した際の関係を復習する。	4
第10回	固定式日用品の事例	高齢者や障がい者の生活する空間についての関係を予習 / 固定式日用品の実態把握と日用品を使用した際の関係を復習する。	4
第11回	高齢者や障がい者の生活空間に関する概論	生活空間のバリアフリーを自分の生活との関係での予習 / 高齢者や障がい者の生活する空間についての関係を復習する。	4
第12回	生活空間のバリアフリーとは	生活空間のユニバーサルデザインを居住生活との関係での予習 / 生活空間のバリアフリーを自分の生活との関係での復習をする。	4
第13回	生活空間のユニバーサルデザインとは	外部公共空間をバリアフリーにする道具との関係を予習 / 生活空間のユニバーサルデザインを居住生活との関係での復習をする。	4
第14回	生活空間 (外部公共空間) と道具との関係事例	全体を振り返り、試験についての予習 / 外部公共空間をバリアフリーにする道具との関係を復習する。	4
第15回	まとめと試験	全体を振り返りまとめを行う。	4
教科書・参考書等			
「ユニバーサルデザインの教科書」中川 聡 日経P B社 「住環境のBF / UD」野村歡編者 彰国社			
成績評価方法・基準			
課題レポート、まとめの試験を総合的に評価する。			

7	心の理解とケア LS-B-102	必修 2単位 1年前期	
	Psychological Human Care		
1年全組 講師 中井 周作			
授業の達成目標		授業形態	
安全安心生活デザイン学科での教育目標と内容を具体的に理解し、学習の動機付けを高める。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一括に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
意識と無意識の世界について学び、神経症や心身症の原因や予防法を理解する。さらに様々な心理検査の実習を通して自己理解を深めていく。具体的には、ロールシャッハテストなどの性格診断テストを行いながら潜在意識についての理解を深め、心の病の原因と予防・治療法を学ぶ。いじめやニートなど、現代社会における心の病は、その原因を理解することによってはじめて解決可能となる。さまざまな心理検査の実習を通して自己理解を図り、心の安定と健康の基礎作りを学んでいく。		教職科目 (工業)	
		地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	序章 (講義内容紹介)	心理学について予習を行う。心理学の分野に関心を持ち、講義ノートを作成し復習を行う。	4
第2回	心理学の諸領域	臨床心理学について予習を行う。臨床心理学の概要を学び、講義ノートを作成し復習を行う。	4
第3回	性格の理解 (ビッグファイブ理論)	心理テストについて予習を行う。心理テストを通し自分の性格を知り、講義ノートを作成し復習を行う。	4
第4回	性格の理解 (ロールシャッハテスト)	ロールシャッハテストについて予習を行う。心身症の検査を学び、自分の健康に当てはめる。講義ノートを作成し復習を行う。	4
第5回	性格の理解 (ガスフーテスト)	ガスフーテストについて予習を行う。心理テストを通し自分の性格を知り、講義ノートを作成し復習を行う。	4
第6回	アイデンティティ	アイデンティティについて予習を行う。青年期の自我について学び、講義ノートを作成し復習を行う。	4
第7回	エゴグラム実習	エゴグラムについて予習を行う。性格判断テストを通し、自分の性格を深く理解する。講義ノートを作成し復習を行う。	4
第8回	人間関係とストローク欲求と葛藤	欲求や葛藤について予習を行う。人間関係を心理学的アプローチより学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	4
第9回	欲求不満	欲求不満について予習を行う。欲求不満の状態を学び、その解決策を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	4
第10回	防衛機制	防衛機制について予習を行う。防衛機制について学び、その重要性和危険性を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	4
第11回	ストレスコーピング	ストレスコーピングについて予習を行う。ストレスについて学び、その解決策を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	4
第12回	心身症とは何か	心身症について予習を行う。心身症について実態を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	4
第13回	心身症の原因	心身症について予習を行う。心身症の原因を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	4
第14回	心身症の予防と治療	心身症について予習を行う。心身症の予防方法とその治療方法について学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	4
第15回	理解のまとめ	これまで学んだ知識を講義ノートを通して予習した上で、総復習し理解を深める。	4
教科書・参考書等			
自作資料。			
成績評価方法・基準			
授業中のレポート課題と試験の成績により評価する。			

8	地域のくらしと生産 LS-B-108	必修 2単位 1年後期	
	Regional Works and Industry		
1年全組 教授 菊地 良寛			
授業の達成目標		授業形態	
地域風土にねざしたくらしと、これを支える生産の意味を理解するとともに、有形無形の地域資源を評価することができる。また、その資源を活用した実践的事例についての知識を深め、とくに仙台・宮城・東北における活用展開を構想することができる。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input checked="" type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
現代の地域社会では、地域内外の人々がくらしや生産の場面で協働しながら、豊かなコミュニティを形成することが求められており、とりわけ、少子高齢化・人口減少が課題となっている地域においては、周囲の自然環境までを含めた持続可能性が喫緊の課題となっている。本講義では、国内外における有形無形の地域資源の活用事例を紹介し、主に農山漁村のくらしの実像、その可能性と課題について、基礎知識を養う。事例は、主に仙台・宮城・東北の各地から求め、今後の地域資源活用方法についても考察を深めていく。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。		<input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	持続可能な地域社会における「くらしと生産」	講義の導入として、くらしと生産を複眼的に学ぶ意義を考える。予習：くらしと生産とは何かを考察しておく／復習：講義をもとに対象地域を地図等で確認する	4
第2回	有形無形の地域資源とその活用実践	くらしと生産を構築するための有形無形の地域資源について概説する。予習：地域資源として考えられるものを列挙する／復習：講義をもとに地元の有形無形資源を情報整理する	4
第3回	山林・中山間地域－地域資源と活用実践の事例的学習(1)	山林・中山間地域の資源と活用実践について事例的に学習する。予習：山林・中山間地域とは何かを調べておく／復習：講義内容を確認し参考図書の山林・中山間地域についてを一読する	4
第4回	里山地域－地域資源と活用実践の事例的学習(2)	里山地域の資源と活用実践について事例的に学習する。予習：里山地域とは何かを調べておく／復習：講義内容を確認し参考図書の里山地域についてを一読する	4
第5回	田園地域－地域資源と活用実践の事例的学習(3)	田園地域の資源と活用実践について事例的に学習する。予習：田園地域とは何かを調べておく／復習：講義内容を確認し参考図書の田園地域についてを一読する	4
第6回	漁村地域－地域資源と活用実践の事例的学習(4)	漁村地域の資源と活用実践について事例的に学習する。予習：漁村地域とは何かを調べておく／復習：講義内容を確認し参考図書の漁村地域についてを一読する	4
第7回	中心市街地－地域資源と活用実践の事例的学習(5)	中心市街地の資源と活用実践について事例的に学習する。予習：中心市街地とは何かを調べておく／復習：講義内容を確認し参考図書の中心市街地についてを一読する	4
第8回	歴史的まちなみ－地域資源と活用実践の事例的学習(6)	歴史的まちなみの資源と活用実践について事例的に学習する。予習：歴史的まちなみとは何かを調べておく／復習：講義内容を確認し参考図書の歴史的まちなみについてを一読する	4
第9回	海外の市街地－地域資源と活用実践の事例的学習(7)	海外の市街地における資源と活用実践について事例的に学習する。予習：海外の市街地について関心を広げておく／復習：講義内容を確認し参考図書の海外の市街地についてを一読する	4
第10回	海外の農山漁村－地域資源と活用実践の事例的学習(8)	海外の農山漁村における資源と活用実践について事例的に学習する。予習：海外の農山漁村について関心を広げておく／復習：講義内容を確認し参考図書の海外の農山漁村についてを一読する	4
第11回	仙台・宮城・東北－地域資源と活用実践の事例的学習(9)	仙台・宮城・東北における資源と活用実践について事例的に学習する。予習：仙台・宮城・東北について関心を広げておく／復習：講義内容を確認し参考図書の仙台・宮城・東北についてを一読する	4
第12回	地域資源の活用方法	これまでの事例的学習をもとに、地域資源の活用方法について比較考察を行う。予習：これまでの学習事例を列挙整理しておく／復習：定性的データの比較法について復習する	4
第13回	地域のソフト的価値と「見える化」	これまでの事例的学習をもとに、地域のソフト的価値をどう伝えるかを考察・演習する。予習：各事例のソフト的データを整理しておく／復習：演習したソフト的データの視覚的表現を改善する	4
第14回	地域のハード的価値と「見える化」	これまでの事例的学習をもとに、地域のハード的価値をどう伝えるかを考察・演習する。予習：各事例のハード的データを整理しておく／復習：演習したハード的データの視覚的表現を改善する	4
第15回	地域のくらしと生産・まとめ	これまでの学習をもとに、地域資源を活用することで成立しているくらしと生産の実態および相互連関について、総合的に考察しまとめる。予習：これまでの学習内容をふりかえっておく／復習：学習内容を総括し期末試験等に備える	4
教科書・参考書等			
毎回の講義において次週以降の講義に関する資料および文献検索等の指示を行う。			
成績評価方法・基準			
講義で行うミニレポートと期末試験等により総合的に評価する。			

9	生活と素材 LS-B-109	必修 2単位 1年後期	
	Products and Materials of Living Environment		
1年全組 教授 中島 敏 ほか			
授業の達成目標		授業形態	
生活の中で使われる様々な素材特性を知り「つかい方」と「つくり方」の両面からの知識を習得し、且つ、ものの上がるまでのプロセスを知りデザインの理解度を高める。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
仙台・宮城・東北地方を対象とした素材ごとに、物理的特性や感覚的特性をサンプル及び観察を通して知ってもらう。またどのような生産プロセスで作られるかを知識と体験より習得し、デザイン知識の幅を広げる。さらにソーシャルデザインにおけるサスティナブル（持続可能社会）の解説とその重要性にも触れる。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。		○ 教職科目（工業）	
		○ 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	授業の概要説明	技術や生活の変化に伴う、各種素材の歴史とその背景を予習、生活の中でどのような素材が存在するかを復習をする。	4
第2回	素材と歴史について	金属材料の種類とその加工方法について予習、技術や生活の変化に伴う、各種素材の歴史とその背景を復習する。	4
第3回	金属材料とその加工方法について	金属材料の種類とその表面処理方法を予習、金属材料の種類とその加工方法について復習する。	4
第4回	金属材料とその表面処理方法について	金属加工製品の事前調査とその素材と加工方法を予習、金属材料の種類とその表面処理方法を復習する。	4
第5回	金属加工商品の加工例とその解説	木材の種類とその加工方法を予習、金属加工製品の事前調査とその素材と加工方法を復習する。	4
第6回	木材とその加工方法について	木材の素材による表面処理についての予習、木材の種類とその加工方法を復習する。	4
第7回	木材の表面処理方法について	木材加工製品の事前調査とその素材と加工方法を予習、木材の素材による表面処理について復習する。	4
第8回	木材加工製品の加工例とその解説	生活の中にある工業製品の素材とその生産方法を予習、木材加工製品の事前調査とその素材と加工方法を復習する。	4
第9回	工業製品の素材とその生産技術	プラスチック製品の事前調査とその素材と加工方法を予習、生活の中にある工業製品の素材とその生産方法を復習する	4
第10回	プラスチック商品の加工例とその解説	再生可能素材の概念とその材料について予習、プラスチック製品の事前調査とその素材と加工方法を復習する。	4
第11回	再生可能素材の概念とその材料について	消費社会と持続可能社会の概念とその実態について予習、再生可能素材の概念とその材料について復習する。	4
第12回	消費社会と持続可能社会の概念とその実態	各種素材の加工方法の予習、消費社会と持続可能社会の概念とその実態について復習する。	4
第13回	素材サンプルについて	各種素材の加工方法の予習、各種素材の加工方法（素材サンプルについて）の復習をする。	4
第14回	素材サンプルの作成	試験の予習、各種素材の加工方法（素材サンプルの作成について）を復習する。	4
第15回	まとめと試験	全体を振り返りポイントをまとめ、全体の復習をする。	4
教科書・参考書等			
参考書 「ソーシャルデザインの教科書」 村田智明 生産性出版 「工業デザインのための材料知識」 岩井正二・青木弘行 日刊工業新聞社			
成績評価方法・基準			
課題レポート、まとめの試験を総合的に評価する。			

10	福祉コミュニティ LS-B-206	必修 2単位 2年前期	
	Welfare Community Design 2年全組 講師 谷本裕香子		
授業の達成目標		授業形態	
現代日本社会におけるコミュニティの福祉的な課題を理解する。地域福祉に関する基礎的な理論と方法を習得する。福祉にかかわる基礎自治体の取り組みの概要を理解する。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
現在、日本は少子高齢化社会に本格的に突入しており、それに伴いコミュニティにおける福祉に関するニーズは増大し、かつ多様化している。また施設ケアに力点を置いた従来型の福祉施策の限界が問われ、共生社会やノーマライゼーションの高まりとともに、コミュニティにおける生活を支える取り組みへとシフトしつつある。本講義では、地域福祉に関する理論や施策内容を参照しつつ、時代状況が変化していくなかで、いかなる課題が表出してきたか、それらにどう取り組むべきかを実践例をもとに学んでいく。		教職科目 (工業)	
		地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	地域福祉の源流と歴史的展開	欧米における地域福祉の実践の歴史と日本への導入例について学ぶ。	4
第2回	地域福祉におけるコミュニティの理念	地域社会の捉え方の基礎的な考え方を予習する。講義で説明した様々な統計的指標をもとに現代日本のコミュニティの姿を復習する。	4
第3回	地域福祉に関する法律と制度	社会福祉法を中心に、地域福祉に関する法律や制度について予習する。講義で説明した自治体が制定している特徴のある条例について復習する。	4
第4回	地域福祉に関する計画	地域福祉計画の簡単な内容について予習する。自治体が策定する地域福祉計画の策定方法やその内容について復習する。	4
第5回	コミュニティーワーク	ソーシャルワーカーとはどのような職種か予習する。講義で説明したコミュニティーワークの考え方とその効果について復習する。	4
第6回	地域福祉における主体とその役割	社会福祉協議会とはどのような組織か予習する。行政、社会福祉協議会、NPOなどの地域福祉を支える組織の仕組みと成り立ちについて復習する。	4
第7回	地域福祉に関する主体のネットワーク化	地域にどのようなNPO法人があるか予習する。様々な主体をネットワーク化する各種協議会の内容や、その影響と効果について復習する。	4
第8回	コミュニティ・オーガナイゼーション	コミュニティについて簡単な知識を予習する。住民や当事者を組織化するための手法とその影響と効果について復習する。	4
第9回	高齢者と福祉コミュニティ	高齢者の生活での課題について予習する。高齢者の地域生活のなかでのニーズと課題解決に向けた取り組みを復習する。	4
第10回	障害者と福祉コミュニティ	住宅のバリアフリーについて予習する。住まいや移動支援といった障害者の地域での生活を支える仕組みを復習する。	4
第11回	子供と福祉コミュニティ	現代社会における子供の保育の課題を簡単に予習する。子供の教育や発達への地域社会の役割を復習する。	4
第12回	コミュニティにおける住まいの場づくり	グループホームの制度について簡単に予習する。グループホームや共同住居などの福祉的なサポートが受けられる住宅について復習する。	4
第13回	コミュニティにおける居場所づくり	デイケアサービスについて簡単に予習する。フォーマルな福祉サービスの仕組みと、インフォーマルな居場所についてその仕組みと実践例を復習する。	4
第14回	コミュニティにおける防災	過去の災害時の事例における社会的弱者の課題について予習する。災害時要支援者対策について理解し、実際の防災におけるコミュニティの役割を復習する。	4
第15回	福祉コミュニティ論についてのまとめ	これまでの講義内容をまとめて予習する。今後の福祉コミュニティのありかたについて復習する。	4
教科書・参考書等			
[地域福祉の展開] 平野隆之、原田正樹 放送大学教育振興会 2014 [地域福祉の理論と方法] 市川一宏ら ミネルヴァ書房 2014			
成績評価方法・基準			
講義内容の理解度をはかるため、期末テストを実施する。			

11	住まいの計画 LS-C-103	必修 2単位 1年前期	
	Housing Theory 1年全組 教授 武山 倫		
授業の達成目標		授業形態	
住まいづくりに関する基本的な知識やプロセスを理解するとともに、戸建て住宅のプラン（空間計画）を読み解き、計画することができる。また、現代日本および東北地方における住まいづくりの問題点とこれからの課題について理解し、これをふまえた理想の家をプランニングすることができる。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
1) 住まいづくりに関する基本的な知識とプロセスについての講義 2) 戸建て住宅のグリッドプランニング手法の解説と演習 3) 現代日本および東北地方における住まいづくりの問題点とこれからの課題についての講義 当科目は、一級建築士として多くの建築設計実務に携わった教員が担当する。すなわち、プランニングから基本的性能まで、現実の住まいを計画するうえで必要な知見・技術を数多く含めながら、実践的・事例的に解説する。		○ 教職科目（工業）	
		○ 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		○ 実務経験のある教員担当	
当科目は、一級建築士としての建築設計実務に携わった教員が担当する。クライアントからの要求など住まいの計画に関わる実際的な知見・技術を含めながら、事例的に解説する。		○ アクティブラーニング	
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	住まいづくりの原点	住まいとは何か。住まいをつくることの意味はなにか。その意義・魅力と課題を考える。(予習：住まいの自己体験をメモしておく/復習：講義のなかで関心をもった事項を参考図書等で深く考察する)	4
第2回	デザインと計画	デザインと計画は、建築や住宅の分野では異なる概念であり、これを考え、また正確に把握する。(予習：計画とは何かを下調べしておく/復習：講義をもとに自分の住まいがどう計画されたかを考察する)	4
第3回	住まいの要点を発見する	住まいは、生活そのものを包み込む重要な器であり、幾つもの要点がある。これを想起し、考えていく。(予習：住まいの体験のうち良かったことや悪かったことをメモしておく/復習：講義内容のなかで関心をもった事項を参考図書等で深く考察する)	4
第4回	住まいの基礎用語	住まいの魅力や課題を考えると、幾つものキーワードに直面する。本講義では、これを学び会得する。(予習：住まいの用語の不明点をメモしておく/復習：講義のなかで触れた用語についてノートを整理し記憶する)	4
第5回	住まいをつくる、チームでつくる	住まいを一人で建てることはまずない。どんな人々が関わり、どんなコミュニケーションをとるのかを考え、理解する。(予習：建築家や大工など、住まいづくりを職業とする人々を列挙しておく/復習：講義のなかで未知だった職能や立場について深く考察する)	4
第6回	住まいづくりのルール	住まいは社会的な存在であり、法的・道義的に公正なものをつくる必要がある。これを学び考える。(予習：建築基準法とは何かを下調べしておく/復習：法体系を確認し、高学年次の学習計画を考える)	4
第7回	住まいのなりたちー構成部位	住まいを構成する部位・部材等について学び、考える。(予習：住まいの構成要素を複数スケッチしてくる/復習：住まいの構成部位が、なぜそのような造形となっているのかを考察する)	4
第8回	住まいのなりたちー屋根と壁	住まいを構成する屋根や壁等について学び、考える。(予習：住まいの屋根や壁をスケッチしてくる/復習：住まいの屋根や壁が、なぜそのような造形となっているのかを考察する)	4
第9回	住まいのなりたちー居間から寝室まで	住まいを構成する空間について学び、考える。(予習：住まいの間取をスケッチしてくる/復習：住まいの間取りが、なぜそのような形となっているのかを考察する)	4
第10回	住まいのなりたちー水回り	住まいのなかの水回り空間について学び、考える。(予習：住まいの構成要素を複数スケッチしてくる/復習：住まいの間取りが、なぜそのような形となっているのかを考察する)	4
第11回	住まいのプランニング	これまでの知識を総動員して、住まいを計画してみる。(予習：住まいの間取りや空間構成について構想を練ってくる/復習：住まいの間取りや法体系を確認し、自分の図面を修正する)	4
第12回	住まいと建築	住宅と建築は異なる存在である。ここではその違いをもとに、住まい特有の課題について学び、考える。(予習：住宅と大型施設やビルとの違いを考えてくる/復習：建築学の関係書籍を一読しながら住宅特有の課題を知る)	4
第13回	住まいと環境ー健康なくらしとともに	健康なくらしを包む住まいのあり方について考える。(予習：住まいの健康被害について調べてくる/復習：健康な住まいとは何かを考察する)	4
第14回	住まいと環境ー地球と自然にやさしく	エコロジカルな住まいのあり方について考える。(予習：住まいづくりの環境負荷について調べてくる/復習：エコハウスの基礎概念を学び、考察する)	4
第15回	住まいの計画・総まとめ	これまでの学習内容を総括し、魅力あるくらしと住まいを構想、計画することの意義と課題を考える。(予習：これまでの受講ノートを復習しておく/復習：期末試験に備え基礎用語の確認や講義内容について復習する)	4
教科書・参考書等			
教科書 よむ住宅プランニング 株式会社学芸出版社 ISBN4-7615-2200-3			
成績評価方法・基準			
期末試験および講義中に出題するレポート等の得点をもとに、総合的に評価する。			

12	住まいの構造と材料 LS-C-112		必修	2単位	2年前期
	Structure and Material for Residence				
2年全組 教 授 小山 祐司 非常勤講師 野津 弘 小山が第1回から第6回及び第15回を担当、第7回から第15回を非常勤講師が担当する。					
授業の達成目標			授業形態		
建築物の様々な構造・工法（柱・梁構造や組積構造、剛接合構造など）とその建築材料を理解すること。さらに、木造建物の各部構法（基礎、床組、軸組、小屋組）及び外部仕上げや内部仕上げ構法を学び、建築物が構築されるしくみを理解すること。			<input type="checkbox"/>	単独 (1人が全回担当)	
			<input type="checkbox"/>	複数 (1回の授業を2人以上が一組に担当)	
			<input type="checkbox"/>	オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
			<input type="checkbox"/>	クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要			該当科目		
先ず伝統的な石の建築物と木の建築物などを構成する構造・工法、近代以降の鉄とコンクリートによる剛接合構造・工法について学ぶ。次に、現代の木造住宅における各部構法（地業・床組・軸組・小屋組、内装、外装）の基礎を学ぶ。そして、建築物を構成する建築構造と造作材（インテリア・エクステリア）を理解し、建築デザインの基本を学ぶ。 授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。			<input type="checkbox"/>	教職科目（工業）	
			<input type="checkbox"/>	地域志向科目	
実務経験を活かした教育について			<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員担当	
担当教員は、建築士として、また建築設計事務所における設計実務に従事した実績と経験を活かして、授業において企画・設計・デザイン等の建築設計にかかわる実務への対応力を養成する。			<input type="checkbox"/>	アクティブラーニング	
授業計画（各回の学習内容等）					
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)		
第1回	石の建築物の構造 古代エジプトのピラミッドからローマのドームまで	予習：ヨーロッパ古代の石造の建築物について参考書などを利用して調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4		
第2回	石の建築物の構造 ビザンチン建築のペンデンティブから中世キリスト教会堂の建築まで	予習：講義要録や参考書を基に、リントル&ポスト工法やアーチ・ヴォールト・ドーム構法について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4		
第3回	木の建築物の構造 日本の伝統建築 軸組と小屋組の構成	予習：講義要録や参考書を基に、伝統工法による軸組構成と屋根構造について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4		
第4回	木の建築構造 日本の近代以降の建築西洋技術の導入による構造の変化、筋交いやトラスについて	予習：講義要録や参考書を基に、筋交いやトラスについて調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4		
第5回	木の建築構造 現在の木造建築の工法について 2×4、在来工法など	予習：講義要録や参考書を基に、2×4工法や在来工法について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4		
第6回	剛接合構造 柱と梁の剛接合（ラーメン構造）鉄骨造	予習：講義要録や参考書を基に、ラーメン構造と鉄骨造について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4		
第7回	柱と梁の剛接合（ラーメン構造）RC造	予習：講義要録や参考書を基に、RC造について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4		
第8回	剛接合構造 その他の構造	予習：講義要録や参考書を基に、鉄骨鉄筋コンクリート造について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4		
第9回	現代木造住宅の各部構法 地業、基礎の構法	予習：講義要録や参考書を基に、地業と基礎について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4		
第10回	現代木造住宅の各部構法 床組、軸組の構法	予習：講義要録や参考書を基に、床組と軸組について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4		
第11回	現代木造住宅の各部構法 開口部、建具の構法	予習：講義要録や参考書を基に、開口部、建具について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4		
第12回	現代木造住宅の各部構法 小屋組の構法	予習：講義要録や参考書を基に、小屋組について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4		
第13回	現代木造住宅の各部構法 内部仕上げの構法（床、壁、天井、階段）	予習：講義要録や参考書を基に、インテリア内装について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4		
第14回	現代木造住宅の各部構法 外部仕上げの構法（屋根、壁）	予習：講義要録や参考書を基に、エクステリア外装について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4		
第15回	まとめと試験	予習：第14回までの講義内容を復習し試験の準備を行うこと。復習：試験の講評を参考に不十分だった内容を復習すること。	4		
教科書・参考書等					
教科書 特に指定しない。適時、教員自作資料を配付する。 参考書 「木造建築の科学」高層建築研究会編 日刊工業新聞社					
成績評価方法・基準					
まとめの試験（定期試験）により評価を行う。					

13	住環境の基礎科学 LS-C-209		必修	2単位	2年後期
	Basic Science of Building Environment				
2年全組 准教授 高木 理恵					
授業の達成目標			授業形態		
建築環境工学の基礎として、住まいの環境に影響を及ぼす自然環境の特性、住まいの環境に関わる物理現象とその基本法則、快適な環境条件について理解する。また、暖かくて涼しい住まい、湿気のない住まいを実現するための手法、暖冷房と換気の計画の重要性、省エネルギー計画の必要性などを考察する。			○	単独 (1人が全回担当)	
				複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
				オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
				クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要			該当科目		
住まいは過酷な自然環境の中につくられる一種のシェルターと捉えることができ、生活空間に適切な物理的環境をデザインするための学問が「建築環境工学」である。本講では、住まいを取り巻く自然環境に対する理解を深めるとともに、自然環境の物理的環境要素である熱や空気をどのように利用または制御して快適で健康的な住まいの環境を作り出すのかを取り上げながら、建築環境工学の基礎となる事項を学ぶ。			○	教職科目 (工業)	
				地域志向科目	
実務経験を活かした教育について				実務経験のある教員担当	
				アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)					
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)		
第1回	建築環境工学とは？	予習として、自分の身の周りの環境要素について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、講義の目的と建築環境工学についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4		
第2回	自然環境の利用と制御 (1) 気候要素と生活	予習として、自分の身の周りの自然環境の要素について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、自然環境の利用と制御の意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4		
第3回	自然環境の利用と制御 (2) 太陽エネルギーと太陽位置	予習として、太陽位置を学ぶことの意義について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、太陽位置の求め方についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4		
第4回	自然環境の利用と制御 (3) 日照と日影	予習として、日照と日影について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、住まいの計画で日照と日影を考える意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4		
第5回	自然環境の利用と制御 (4) 日照調整計画とブリーズソレイユ	予習として、冬の日差し確保と夏の日射遮への意義について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、ブリーズソレイユの種類と効果についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4		
第6回	暖かくて涼しい住まい (1) 熱環境と生活	予習として、自分の身の周りの熱環境問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、住まいの熱環境を学習する意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4		
第7回	暖かくて涼しい住まい (2) 伝熱の3つのプロセス	予習として、伝熱の基本法則について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、伝熱の3つのプロセスについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4		
第8回	暖かくて涼しい住まい (3) 熱伝達と熱貫流	予習として、住まいで生じている伝熱について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、壁体を貫流する熱量と室内側の壁表面温度の計算方法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4		
第9回	暖かくて涼しい住まい (4) 熱負荷	予習として、室内の熱損失と熱取得について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、熱負荷および暖房と室温の関係についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4		
第10回	暖かくて涼しい住まい (5) 暖冷房計画とパッシブデザイン	予習として、パッシブデザインを含む暖冷房の方法について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、省エネルギーを実現する暖冷房計画についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4		
第11回	暖かくて涼しい住まい (6) 暖かくて涼しい住まいに関する考察	予習として、暖かくて涼しい住まいを実現する手法について考える。復習として、授業で配付された資料を再読み、暖かくて涼しい住まいを実現する手法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4		
第12回	湿気のない住まい (1) 相対湿度と絶対湿度	予習として、自分の身の周りの湿度環境問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、湿り空気の定義と湿度の表し方についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4		
第13回	湿気のない住まい (2) 結露防止	予習として、水の状態変化と結露のメカニズムについて調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、空気線図の読み方と結露を防止するための方法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4		
第14回	湿気のない住まい (3) 湿気のない住まいに関する考察	予習として、湿気のない住まいを実現する手法について考える。復習として、授業で配付された資料を再読み、湿気のない住まいを実現する手法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4		
第15回	まとめと試験	予習として、全ての授業内容を整理する。復習として、試験問題をおさらいする。	4		
教科書・参考書等					
参考書 田中俊六ほか：最新建築環境工学 井上書院					
成績評価方法・基準					
課題レポートの提出と試験で総合的に判断する。					

14	生活学演習 LS-D-104	必修 2単位 1年前期	
	Basic Practice of Life Science		
1年全組 教授 菊地 良覺 准教授 伊藤美由紀			
授業の達成目標		授業形態	
身近な生活に関する道具とその素材の背景や基礎的なデザインを学ぶとともに、実体験を通じてそれらを用いる方法を理解し、実際に作成する実習を通じて、道具づくりや環境づくりに関する基礎的な理解と技術を習得する。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当)	
		<input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
		<input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		<input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
安全安心な生活の実現には、日常的な生活環境をきちんとかたちづくることは欠かせない。本演習では、様々な生活場面において登場する各種の道具やモノを、それをかたちづくる素材と共に、豊かで安全安心な生活づくりの基礎として捉える。演習では、道具やモノのデザインの仕方や素材との関係を理解し、道具やモノの作成の実習を通して、それらが人間の生活に与える影響やその効果を実践的に学ぶ。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業)	
		<input type="checkbox"/> 地域志向科目	
		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当	
実務経験を活かした教育について		<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	木を用いた道具の理解	身の回りにある木でつくられた道具について理解し予習する。そのかたちやデザインの描写し、それを復習する。	2
第2回	木を用いた道具の制作	木を素材とした道具のデザインを考え予習する。切る削るといった作業を通じて道具を作成し、その作成方法を復習する。	2
第3回	木を用いた道具の使用	作成した木の道具を実際の生活場面で用いたかを予習。その実用の度合いを評価し改善点を考えて、それを復習する。	2
第4回	粘土を用いたモノの理解	身の回りにある粘土でつくられた道具について理解し予習する。そのかたちやデザインを描写し、それを復習する。	2
第5回	粘土を用いたモノの制作	粘土を素材とした道具のデザインを考えて予習する。捏ねる、伸ばす、整形するといった作業を通じて道具を作成し、その作成方法を復習する。	2
第6回	粘土を用いたモノの使用	作成した粘土でつくられた道具を実際の生活場面で用いてみて、その実用の度合いを評価し改善点を考え、それを復習する。	2
第7回	布を用いたモノの理解	身の回りにある布でつくられたモノについて理解し予習する。そのかたちやデザインを描写し、それを復習する。	2
第8回	布を用いたモノの制作	布を素材としたモノのデザインを考えて予習する。切る、結ぶ、縫うといった作業を通じて道具を作成、その作成方法を復習する。	2
第9回	布を用いたモノの利用	作成した布でつくられたモノを実際の生活場面で用いてみて予習する、その実用の度合いを評価し改善点を考え、それを復習する。	2
第10回	紙を用いた道具の理解	身の回りにある紙でつくられたモノについて理解し予習する、そのかたちやデザインを描写し、それを復習する。	2
第11回	紙を用いた道具の制作	紙を素材としたモノのデザインを考え、切る、折る、貼るといった作業を通じて道具を作成し、その作成方法を復習する。	2
第12回	紙を用いた道具の使用	作成した紙でつくられたモノを実際の生活場面で用いて予習する。その実用の度合いを評価し改善点を考え、それを復習する。	2
第13回	石を用いた道具の理解	身の回りにある紙、石でつくられた道具について理解し予習する、そのかたちやデザインを描写する。	2
第14回	石を用いた道具の制作	石を素材としたモノのデザインを考え予習する、砕く、削る、貼るといった作業を通じて道具を作成、その作成方法を復習する。	2
第15回	石を用いた道具の使用	作成した石でつくられたモノを実際の生活場面で用いてみて、その実用の度合いを評価し改善点を考え、それを復習する。	2
教科書・参考書等			
プリント等参考資料を必要に応じて配付予定。			
成績評価方法・基準			
レポートや作成した作品による評価を行う。			

15	地域調査演習 LS-D-106	必修	2単位	1年後期
	Basic Practice of Field Survey			
1年全組		教授 小山 祐司 准教授 高木 理恵 准教授 伊藤美由紀	准教授 畠山 雄豪 講師 中井 周作 山口 茂	
授業の達成目標			授業形態	
本学科で対象とする空間やモノを把握する際の概念を理解し、これらを客観的に表現できる基礎的手法を習得する。この演習では、学校周辺等の仙台市や三陸沿岸等の宮城県、東北地方を対象とする。			<input type="checkbox"/>	単独 (1人が全回担当)
			<input type="checkbox"/>	複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)
			<input type="checkbox"/>	オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)
			<input type="checkbox"/>	クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目	
調べるための手法とその表現を中心に扱う。具体的には「正しく読み取り、測ることができる」、「数値等を用いて客観的に表現することができる」ことなどに重点をおく。実践的調査ではグループワークもとり入れ、学んだ表現方法を用いてプレゼンテーションを行う。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。			<input type="checkbox"/>	教職科目 (工業)
			<input type="checkbox"/>	地域志向科目
実務経験を活かした教育について			<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員担当
			<input type="checkbox"/>	アクティブラーニング
授業計画 (各回の学習内容等)				
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)		時間(時)
第1回	調べることの意味	本学科で扱う領域 (調べることの必要性)、度量衡などについて (予習: 度量衡の歴史や単位について調べる / 復習: 度量衡の換算ができるようになる)		2
第2回	三角スケールの基礎	三角スケールの基礎的知識と実践 (予習: 三角スケールとはどういうものか調べておく / 復習: 度量衡換算したものを三角スケールを用いて表現する)		2
第3回	三角スケールの応用	課題について三角スケールを用いて表現する (予習: 三角スケールを使いこなせるようにしておく / 復習: 複雑な縮尺でも表現できるようにする)		2
第4回	モノを実測し図面に表現する	前回までの知識と手法を定着させるため、実物を計測し、指定された縮尺で表現する (予習: 前回までの課題をこなせるようにしておく / 復習: 実測に関する基本的な知識と表現ができているか確認しておく)		2
第5回	室内空間 (インテリア等) の計測	前回よりもやや大きい家具什器、室内空間 (設備) 等について図面で表現する (予習: 前回までの課題をこなせるようにしておく / 復習: 決められた時間内で作図できるようにする)		2
第6回	室内空間 (環境的側面) の計測	快適な室内環境を維持するための熱、光などの環境要素についての知識と調査手法 (予習: 温度や照度を測る方法を調べておく / 復習: 室内環境の基本的な用語、概念について説明できるようにしておく)		2
第7回	測定結果を表現する (環境調査の表現方法)	前回行った測定結果を的確に表現できるようにする (予習: 前回調査した結果を効果的に表現する方法について考えておく / 復習: 室内環境の基本的事項について調査、表現できるようにする)		2
第8回	地域空間の把握 (読図)	地域を表現する地図の基本的事項の確認 (予習: 地図記号など基本的な地図情報の確認 / 復習: 地図から実際の様子がイメージできるか確認する)		2
第9回	地図による表現	身近な地域を対象とした主題図の作成 (予習: 自分の自宅周辺等の確認 / 復習: 効果的な主題図作成の留意点について振り返る)		2
第10回	地域情報について	人口など地域を把握する統計情報収集方法と表現について (予習: 国勢調査や住民基本台帳の記載情報について調べておく / 復習: 自分が表現したい内容に関する統計情報の収集と作図)		2
第11回	課題の設定	自ら興味・関心に基づき何を調べるのか、どのように表現するか検討する (予習: 何をとり上げたいか考えておく / 復習: 効果的な表現方法の事例を調べる)		2
第12回	測定等調査の実施	前回、自ら設定した内容についての調査 (予習: 測定等調査方法の確認と準備 / 復習: 調査した結果に間違いがないか確認)		2
第13回	調査結果の表現 (主題図の作成)	調査結果の表現方法についての検討と作図 (予習: これまで学んだ表現方法の振り返り / 復習: 伝えたい内容が作図できているか第三者にみってもらう)		2
第14回	調査結果の表現 (主題図の解説)	主題図に関する説明 (予習: 参考となる主題図を調べておく / 復習: 主題図を通して伝わったことと伝わらなかったことなど反省点、課題の整理)		2
第15回	全体の振り返り	これまで学んだ調査方法、表現方法についての総括 (予習: これまで学んだことを確認しておく / 復習: 課題に応じて適切な調査、表現方法が提示できるようにする)		2
教科書・参考書等				
必要に応じて紹介する。				
成績評価方法・基準				
時間終了時等の試験、提出された課題。				

16	造形基礎演習 LS-E-105	必修	2単位	1年前期
	Basic Practice of Shape and Modelling			
1年1組 教授 菊地 良覺 1年2組 教授 中島 敏				
授業の達成目標			授業形態	
実線・鎖線／太・中・細線と文字を描き分け、立体造形と図面の関係を製図できる。生活環境要素の形態的特徴（寸法・質量・形状・素材・色彩）と物理的特徴を捉え、定性的・定量的に記録し、素描に表わすことができる。上記の基礎的技術を修得したうえで、課題・テーマに沿った造形的創作表現をまとめることができる。			単独 (1人が全回担当)	
			複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
			オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
			<input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要			該当科目	
ものや空間を理解し、図面（三角法）やイラスト（アイソメトリックやパースペクティブ）を正しく測定し表現することが出来ること、また自分で創造し作成したイラストや図面に基づき、立体的に形を表現することが出来るようになる。 授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。			<input type="radio"/> 教職科目（工業）	
			地域志向科目	
実務経験を活かした教育について			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）		時間(時)
第1回	授業の概要説明	ものをイメージしデザインして表現するまでのプロセス調査を行う。		2
第2回	人の手の観察と計測	手を測定する際の道具とその表現仕方を予習し、人の手の観察と計測について復習する。		2
第3回	人の立ち姿の観察と計測	人を測定する際の道具とその表現仕方を予習し、人の立ち姿の観察と計測について復習する。		2
第4回	器の観察と計測	器を測定する際の道具とその表現仕方を予習し、器の観察と計測について復習する。		2
第5回	器の立体図（アイソメトリック）	アイソメトリック手法とはどのような表現方法かを予習し、器の立体図について復習する。		2
第6回	器の製図（三角法）	三角法とはどのような作図方法かを予習し、器の製図について復習する。		2
第7回	自転車の観察と計測	自転車の測定する際の道具とその表現仕方を予習し、自転車の観察と計測について復習する。		2
第8回	自転車の立体図（アイソメトリック）	アイソメトリック手法とはどのような表現方法かを予習し、自転車の立体図について復習する。		2
第9回	自転車の製図（三角法）	三角法とはどのような作図方法かを予習し、自転車の製図について復習する。		2
第10回	室内の観察と計測	室内の測定する際の道具とその表現仕方を予習し、室内の観察と計測について復習する。		2
第11回	室内のアイソメトリック表現	アイソメトリック手法とはどのような表現方法かを予習し、室内のアイソメトリック表現について復習する。		2
第12回	室内のパースペクティブの表現	パースペクティブ手法とはどのような表現方法かを予習し、室内のパースペクティブの表現について復習する。		2
第13回	室内の平面図の作成	室内の平面図とはどのような作図方法かを予習し、室内の平面図の作成について復習する。		2
第14回	室内の断面図の作成	室内の断面図とはどのような作図方法かを予習し、室内の断面図の作成について復習する。		2
第15回	作品のまとめ	全体を振り返りポイントをまとめる。振り返った内容をもとに復習を行う。		2
教科書・参考書等				
「建築製図」朝倉書店				
成績評価方法・基準				
提出作品の完成度での評価とする。				

17	くらしのデザイン実習 I LS-D-404		選択 3単位 2年後期
	Social Planning Practice I		
2年全組		教授 菊地 良寛 教授 中島 敏 准教授 伊藤美由紀	准教授 畠山 雄豪 講師 中井 周作 講師 谷本裕香子
授業の達成目標			授業形態
生活者（使用者）の視点に立ったデザインを行うために、生活者の心身や生活環境に関する安全安心問題を正しく明らかに把握するための調査や分析の方法を学び、改善策を考え提案することができる。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
調査対象を自分や自分たちが生活する地域とし、学内や学外に出向き、実際に体験をしながら課題を発見し調査や提案を行う。自分の生活域である、宮城や仙台の地域の特徴を捉えたくらしをグループディスカッションやグループワークを通して考え、プレゼンテーションを行う。			<input type="checkbox"/> 教職科目（工業） <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング
実務経験を活かした教育について			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	ガイダンス：生活者のための調査とデザイン展開	予習：生活学演習・地域調査演習・造形基礎演習を振り返り調査と提案について考えてのぞむ。復習：配付された資料や教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う。	3
第2回	生活行動と生活具や空間の調査方法と計画	予習：生活行動と生活具について考えてのぞむ。復習：調査方法と計画について配付された資料や教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う。	3
第3回	生活具や空間の調査にむけての文献調査	予習：生活具や空間とその課題について考えてのぞむ。復習：収集した文献や教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う。	3
第4回	生活具や空間の調査の実施	予習：生活行動と生活具等に関する文献を振り返る。復習：実施した調査データや教員のアドバイスをまとめる。	3
第5回	生活具や空間の調査データの整理	予習：文献や調査データを関連付けてのぞむ。復習：調査データの整理について教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う。	3
第6回	生活具や空間の調査データの分析評価	予習：文献や調査データを関連付けてのぞむ。復習：調査データの分析評価について教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う。	3
第7回	生活行為と生活具や空間の課題と提案	予習：生活具や空間の課題と提案について考えてのぞむ。復習：課題と提案について教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う。	3
第8回	生活具や空間に関する提案：プレゼンテーション	予習：発表の準備を行う。復習：プレゼンテーションについて学生とのディスカッションや教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う。	3
第9回	大学生活に関する調査に向けて体験実習	予習：大学生活と課題を考えてのぞむ。復習：体験実習について配付された資料や教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う。	3
第10回	大学生活に関する体験実習の結果分析と質問紙調査の作成	予習：大学生活に関する調査の目的について考えてのぞむ。復習：体験実習の結果分析についてグループワークで出た意見や教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う。	3
第11回	大学生活に関する質問紙調査の作成と実施	予習：大学生活に関する課題について考えてのぞむ。復習：質問紙調査の作成と実施についてグループワークで出た意見や教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う。	3
第12回	大学生活に向けての質問紙調査のデータ整理と結果の発表	予習：発表の準備を行う。復習：データ整理と結果の発表について学生とのディスカッションや教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う。	3
第13回	自分が生活する地域に関する調査：ガイダンスと計画立案	予習：生活する地域について情報収集をしておく。復習：ガイダンスと計画立案について配付された資料や教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う。	3
第14回	自分が生活する地域に関する調査：計画の実施と可視化	予習：生活する地域の現状と調査内容を振り返る。復習：計画の実施と可視化について配付された資料や教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う。	3
第15回	自分の生活する地域に関する調査結果の発表	予習：発表の準備を行う。復習：発表に対する教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う。	3
教科書・参考書等			
教員が作成するオリジナル資料を配付する。			
成績評価方法・基準			
提出物（作品またはレポート）とその発表の内容をもとに評価を行う。			

18	くらしのデザイン実習Ⅱ LS-D-406		選択 3単位 3年前期
	Social Planning Practice Ⅱ		
3年全組		教授 岸本 誠司 教授 中島 敏 准教授 伊藤美由紀	准教授 畠山 雄豪 講師 中井 周作 講師 谷本裕香子
授業の達成目標			授業形態
仙台・宮城・東北地方を対象に地域の暮らしに焦点を当て、ヒト、モノ、コト、場をキーワードに障害者、高齢者、バリアフリーなどの様々な視点から問題・課題を明らかにする知識、それに加え課題を解決するための知識を身につける。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏めに担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
目標に達するため、フィールドに実際に足を運び実践的に調査を行い、その結果を分析し、最終的にはポスターセッションにより結果を客観的に人に伝えるプレゼンテーションを行う。			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目
実務経験を活かした教育について			<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス	くらし計画系の研修テーマを事前に調べ学び予習し、ガイダンスを通し概要を知る。概要を復習する。	3
第2回	課題説明・文献調査	くらし計画系の概要をもとに課題を調べ予習する。くらしの分野の課題を理解すること。課題に関連する文献調査結果に対する教員のアドバイスを基に基礎的事項を理解し、復習すること。	3
第3回	文献調査・現地調査計画	文献調査・現地調査の方法を調べ予習する。文献調査より課題を明らかにするとともに調査場所の選定、調査実施計画の草案を立て教員のアドバイスを基に調査計画を練る。調査計画をもとに復習を行う。	3
第4回	事前調査	調査計画を用いて予習を行う。調査計画を基に事前調査を行う。事前調査後にはプレゼンテーションを行い、グループディスカッションにより計画を精査する。精査した計画をもとに復習を行う。	3
第5回	現地調査	調査計画をもとに現地調査の予習を行う。精査した調査計画をもとに調査を実施する。実施した内容をまとめ復習を行う。	3
第6回	現地調査 (予備日)・データの集計	調査結果をもとに集計の予習を行う。調査で収集したデータの集計を行う。集計と並行し分析方法やデータを扱う際の倫理観に関する知識を習得する。習得した知識を復習する。	3
第7回	データの集計・分析	集計に関する知識をもとに分析方法について予習する。データを分析方法を身につける。またその分析結果より教員のアドバイスのもと考察を行う。分析結果をもとに復習する。	3
第8回	プレゼンテーションの準備	プレゼンテーションについて予習を行う。調査計画からその実施、データの分析結果と考察をまとめ、プレゼンテーション資料の作成を行う。作成した資料をもとに復習を行う。	3
第9回	プレゼンテーションの準備・練習	プレゼンテーションについて予習を行う。プレゼンテーション資料をもとにプレゼンテーションの練習を行う。練習の結果より、プレゼンテーションの資料を精査する。資料をもとに復習を行う。	3
第10回	ポスターセッションによるプレゼンテーション (前半)	プレゼンテーション資料をもとに質疑応答の予習を行う。ポスターセッションでの質疑応答を行い、実習全体の評価を行う。前半の評価をもとに復習を行う。	3
第11回	ポスターセッションによるプレゼンテーション (後半)	プレゼンテーション資料をもとに質疑応答の予習を行う。ポスターセッションでの質疑応答を行い、実習全体の評価を行う。後半の評価をもとに復習を行う。	3
第12回	グループディスカッション	グループディスカッションについて予習を行う。ポスターセッション後に、調査計画から実施、結果の分析に関してグループディスカッションを行い、ディスカッションの結果をフィードバックする。フィードバックした内容を復習する。	3
第13回	レポート作成	これまでの実習を振り返り予習を行う。フィードバックされた内容を含めたレポートを作成する。作成したレポートをもとに総復習を行う。	3
第14回	4年生の卒業研究中間発表会の聴講及びレポート提出	事前周知される発表テーマの下調べを行い予習する。中間発表会(前半)聴講後発表内容をまとめる。まとめた資料をもとに復習を行う。	3
教科書・参考書等			
教科書なし、参考書は自作のものとする。			
成績評価方法・基準			
ポスターセッションによるプレゼンテーションとレポートなどの成果物により総合的に評価を行う。			

19	住まいのデザイン実習 I		LS-D-405	選択	3単位	2年後期
	Housing Design Practice I					
2年全組		教授 大沼 正寛 教授 小山 祐司 非常勤講師 由利 収	非常勤講師 渡邊 武海 非常勤講師 佐藤 充			
授業の達成目標				授業形態		
木造住宅の構法・部位・部材を理解し、実物製作を想定した伏図・矩計図をまとめることができる。出題内容をもとに、職住のあり方、家族構成、地域性などに配慮した住宅設計提案をまとめ、各種図面に加えてパースペクティブ図面等に表現し、魅力的なプレゼンテーション・ボードを仕上げることができる。				<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)		
授業の概要				該当科目		
我が国において木造住宅は建築物の主たる要素であり、昨今再び注目されている。比較的小規模な建築に用いられるため簡易な構法と思われがちだが、実は奥深い。本実習ではまず、簡易な伝統木造屋台の実作を通して木造構造物の特徴を体感し、伏図・矩計図の意味を理解して、以降の設計製図学習の一助とする(第1部)。次いで、職・住、家族構成や、仙台・宮城・東北の地域性に立脚した特徴ある住宅設計課題を通して、住まいのデザインの魅力と本質の課題に触れ、これを一つの作品に統合し、プレゼンテーションを行う(第2部)。				<input type="checkbox"/> 教職科目(工業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング		
実務経験を活かした教育について						
本科目では、一級建築士ら、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。						
授業計画(各回の学習内容等)						
	学習内容(授業方法)		学習課題(予習・復習)		時間(時)	
第1回	第1部(1) 住まいづくりの体制と木組み屋台の設計		製作する伝統木造屋台の使い方を計画し、役割分担を考慮したチーム編成を行い、カスタマイズ部分の設計を進める。(予習:参考図書を用い、住まいづくりのステークホルダーについて考える/復習:製作に備え、大工道具類の呼称を覚え、手入れ・準備を行う)		3	
第2回	第1部(2) 木組み屋台の製作計画と部材加工		木拾い表に従って部材加工を進め、一連の過程を記録係が撮影していく。(予習:チーム毎に必要な部材の種類と本数を拾い出し(木拾い)、計画書を作成する/復習:記録内容をチーム構成員で振り返り、問題点や次回の留意点を話し合う)		3	
第3回	第1部(3) 木組み屋台の製作と上棟		引き続き部材加工・組立てを進め、上棟をめざす。また、これを記録係が撮影していく。(予習:建て方、上棟に向けてのクリティカルパスを考え、施工計画をたてる/復習:記録内容をチーム構成員で振り返り、問題点や次回の留意点を話し合う)		3	
第4回	第1部(4) 木組み屋台の仕上		チーム毎に異なる付加部品や仕上について進め、これを記録係が撮影、完成させる。(予習:仕上に向けて、必要な製作箇所を洗い出し、道具の準備をしておく/復習:対外的な使用可能性について検討し、その運搬方法、解体方法を話し合う)		3	
第5回	第1部(5) 木組み屋台の解体保管と構法製図		施工の際に生じた問題解決を行い記録する。一連の経過をもとに伏図・矩計図を作成し、一般木造住宅と比較する。(予習:部材数や断面、形態的特徴を考慮し、解体保管方法の計画をたてる/復習:予習時に計画した方法に則って、屋台を解体保管する。学外使用時の運搬方法なども考慮する)		3	
第6回	第1部(6) 木組み屋台のプロセス表現と講評会		共有情報をもとに、チーム毎にプレゼンテーションを行い、相互に講評する。(予習:一連の製作プロセスに関する記録情報をまとめ、チーム内で共有しておく/復習:木造に対する興味関心を再考するとともに、矩計図等における未知部分を抽出し、別途科目で後に学ぶ際のノートを作成する)		3	
第7回	第2部(1) 地域木造住宅の基本計画		出題内容を読み込み、諸条件を理解してコンセプトを立て、基本計画を進めていく。(予習:当日に先立設計系の演習科目における自己の作品履歴をまとめておく/復習:基本計画の長所・短所を履修者同士で議論し、次回の設計ワークに備えてメモを作成しておく)		3	
第8回	第2部(2) 地域木造住宅の空間設計		スタディ模型の製作と調整を行いながら空間設計の内容を確定し、設計図に記していく。(予習:平面・断面を総合的に検討できるよう、スタディ模型を製作しておく/復習:設計家の長所・短所を履修者同士で議論し、次回の設計ワークに備えてメモを作成しておく)		3	
第9回	第2部(3) 地域木造住宅の立面と外構配置計画		プランニング・断面計画を念頭におきながら立面、外構、開口部の調整を進める。(予習:立面、配置を総合的に検討できるよう、外構を含むスタディ模型を製作しておく/復習:設計家の長所・短所を履修者同士で議論し、次回の設計ワークに備えてメモを作成しておく)		3	
第10回	第2部(4) 地域木造住宅の構法計画再検討と製図		安全安心な住宅計画となっているか構法や環境面から再検討を行い、修正を行う。問題解決後、製図に移行する。(予習:設計した図面にトレバを伏せ、構法上の課題などをチェックしておく/復習:製図作業の進捗度を確認し、遅れている場合にはこれを取り戻す)		3	
第11回	第2部(5) 地域木造住宅の設計製図1		局所的に仕上げず、平面・断面・立面・外構と、全体に目配せをしながら製図を進めて行く。(予習:木造住宅の製図表記法を再確認しておく/復習:図面同士の不整合がないかを確認する)		3	
第12回	第2部(6) 地域木造住宅の設計製図2		構法的な問題がないか、配置や外構の表記、文字表現などに留意して製図を進める。(予習:木造住宅の製図表記法を再確認しておく/復習:各種図面を電子情報化し、レイアウト用コンテンツとしておく)		3	
第13回	第2部(7) 地域木造住宅のプレゼンボード作成1		パースペクティブ、模型写真など、独自の立体的表現を進める。(予習:最終的なプレゼンボードのレイアウト案を構想しておく/復習:各種図面を電子情報化し、レイアウト用コンテンツとしておく)		3	
第14回	第2部(8) 地域木造住宅のプレゼンボード作成2		コンセプトやタイトルを構想し、前週までに得られたコンテンツを利用して、美しいプレゼンボードを仕上げます。(予習:DTPソフトを用いたプレゼンボードのデザイン手法を復習しておく/復習:次回の講評会における発表練習を進めておく)		3	
第15回	第2部(9) 地域木造住宅の総合講評会		コンセプトやタイトルを構想し、前週までに得られたコンテンツを利用して、美しいプレゼンボードを仕上げます。(予習:DTPソフトを用いたプレゼンボードのデザイン手法を復習しておく/復習:次回の講評会における発表練習を進めておく)		3	
教科書・参考書等						
教科書 松本正富, 政木哲也, 半海宏一, 鯨坂誠之「建築デザイン製図」学芸出版社, 2018 参考図書 増田奏「住まいの解剖図鑑」エクスナレッジ, 2009 日本建築学会編「第2版コンパクト建築設計資料集成 <住居>」丸善, 2006						
成績評価方法・基準						
第2フェーズの住宅設計作品の完成度に関する評価、第1フェーズの屋台製作における取組み姿勢と構法理解度を中心とし、これに各回の学習・創作態度に関する評価を加え、総合的に評価する。						

20	住まいのデザイン実習Ⅱ LS-D-407		選択 3単位 3年前期
	Housing Design Practice II		
3年全組	教 授 武山 倫 准 教 授 高木 理恵 非常勤講師 亀岡 真彦	非常勤講師 由利 収	
授業の達成目標			授業形態
<p>集住に関する基礎知識をもち、コミュニティや都市計画条件を考慮した住環境設計を行い、論理的に説明することができる。エコロジカルな住宅建築に関する基礎知識をもち、環境性能に配慮した住環境設計を行い、論理的に説明することができる。工学的な内容と意匠的な内容を統合し、魅力的な提案図書を作成して、説得力ある口頭プレゼンテーションを行うことができる。</p>			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
<p>全3部で構成する。まず、コミュニティや都市計画条件を考慮した地域住環境の設計を行い、人々が集い、くらす場のあり方を総合的に探求し、作品にまとめあげる(第1部・職住コミュニティハウジング)。次いで、喫緊の課題となっているエコロジカルな住宅建築のあり方を考え、環境性能と高齢者福祉に配慮した住環境設計を行う(第2部・シルバーエコハウジング)。最後に、両者のうち履修者の個性に合わせて代表作品を選び、これに工学的な内容と意匠的な内容を統合した魅力的な提案図書を作成し、プレゼンテーションを行う(第3部・住まいデザイン・ポートフォリオ)。</p> <p>授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。</p>			<input type="checkbox"/> 教職科目(工業) <input type="checkbox"/> 教職科目(情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目
実務経験を活かした教育について			<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
<p>当科目は、一級建築士としての建築設計実務に携わった教員が担当する。とくに現地調査については、実習を現場で行い、実際的な知見・技術を含めながら、実務で通用する調査シートの作成を指導する。</p>			
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(予習・復習)	時間(時)
第1回	第1部・職住コミュニティハウジング1・建築企画	建築企画を立案し、対象地域の現地調査計画をたてる。(予習:コミュニティに関する講義系科目のノートを復習しておく/復習:現地調査の行動予測をたて、必要物を準備しておく)	3
第2回	第1部・職住コミュニティハウジング2・現地調査	計画対象地の現地調査を行い、以降の設計に必要な情報を収集する。(予習:調査シートに目を通し行動計画を明確化する/復習:収集した情報をもとに基本計画を開始する)	3
第3回	第1部・職住コミュニティハウジング3・空間設計	調査内容をもとに空間設計を進める。模型製作を行い、3次元的な空間構成と整合性を調整していく。(予習:プランニング案を複数用意して効率よい決定案をめざす/復習:開口部や上下移動など詳細部分の整合を図る)	3
第4回	第1部・職住コミュニティハウジング4・設計製図	設計内容を確定し、配置図・平面図・断面図等から製図を進めていく。(予習:設計内容の確定に至らない場合には事前に教員と相談する/復習:製図の進捗度が上がるよう自習的に進めておく)	3
第5回	第1部・職住コミュニティハウジング5・製図仕上	立面や外構、さらに視覚的表現など、魅力的な製図・プレゼン表現を心がけ、進めて行く。(予習:製図内容の進捗度を上げておく/復習:次回の講評会に備えて発表シナリオを筆耕する)	3
第6回	第1部・職住コミュニティハウジング6・講評会	講評会にて作品発表を行い、他の作品から反省・修正点を学ぶ。(予習:発表準備をしておく/復習:反省点をふまえて作品を修正する)	3
第7回	第2クール・シルバーエコハウジング1・学習と企画	環境設備の基礎を学び、シルバーハウジングにおける省エネ計画を含めた建築企画を行う。簡易CASBEE的観点を導入し、環境性能・内部快適性・コストの総合指標を学ぶ。(予習:環境工学や設備に関する講義系科目を復習しておく/復習:以降の環境設計の目標を定める)	3
第8回	第2クール・シルバーエコハウジング2・空間計画	平面・断面的な空間計画を行い、整合を図る。(予習:過去の自分の作品群からプランニング手法を復習しておく/復習:次回の詳細設計に先立ち、開口部などの造りを確認しておく)	3
第9回	第2クール・シルバーエコハウジング3・外皮と開口	建物の仕様を設計する。ここで、選択できる建材等の情報を与え、外皮や開口を指定して行く。(予習:環境工学や設備に関する講義系科目を復習しておく/復習:環境設計の詳細を定め、仕様として確定していく)	3
第10回	第2クール・シルバーエコハウジング4・外構と設備と表面積	住宅計画に付与する外構計画や設備、家具類を決め、とくに設備の効率等に配慮して、省エネ設計を進めて行く。(予習:環境工学や設備に関する講義系科目を復習しておく/復習:環境設計の詳細を定め、仕様として確定していく)	3
第11回	第2クール・シルバーエコハウジング5・熱性能の計算	確定した仕様書にもとづき、建物の熱的性能を試算する。(予習:環境工学や設備に関する講義系科目を復習しておく/復習:環境設計の詳細を定め、設計の詳細を確定し、不具合を修正していく)	3
第12回	第2クール・シルバーエコハウジング6・講評会	環境設計の総合的観点から講評会を行い、省エネ性における優劣を相互に評価する。(予習:発表準備をしておく/復習:反省点をふまえて作品を修正する)	3
第13回	第3クール・住まいデザインポートフォリオ1・制作	屋台/地域木造住宅/コミュニティハウジング/シルバーエコハウスの4点から最も力作と思われるものを選び、プレゼンボードの作成を行う。(予習:発表作品を整理しておく/復習:反省点をふまえて作品を修正する)	3
第14回	第3クール・住まいデザインの総合試験	住まいの設計に関わる基礎的能力が身につけているか、早く美しく一定の設計製図ができるかを試験する。(予習:設計製図の一連の手法を復習しておく/復習:反省点をふまえて設計製図力を高めるよう復習を繰り返す)	3
教科書・参考書等			
<p>増田奏「住まいの解剖図鑑」エクスナレッジ、2009 松下希和「住宅・インテリアの解剖図鑑」エクスナレッジ、2011 日本建築学会編「第2版コンパクト建築設計資料集成 <住居>」丸善、2006</p>			
成績評価方法・基準			
各回の提出図面と取組み姿勢を総合的に評価する。			

21	基礎セミナー I	LS-F-114	必修 1単位 1年前期
	Home Seminar I		※ 2018年度以前入学生が対象
1年全組 全教員			
授業の達成目標			授業形態
資料を収集・整理し、ゼミのグループでその結果をまとめ、学年全員の前で発表するための作業を行う。その過程を通して、大学における主体的な学習の仕方、生活デザインの基本的課題について認識できるようになることを目標とする。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
各教員がそれぞれ数人の学生を担当する少人数ゼミナールである。学生は、週一度のセミナーに出席して、担当教員から、大学における主体的な学習の仕方や自律的な生活の仕方を始めとするキャンパスライフ全般についてアドバイスを受けるとともに、担当教員の専門に応じて、安心して安全な生活デザインの入門的な課題について学習する。その上で、学科共通の課題および個々の教員の課題に沿った生活デザインツアーを実施するために、グループでディスカッションやプレゼンテーションを行い、企画を練り上げ、実行する。			<input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	全体セミナー (ガイダンス)	これからの大学生活について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習復習する。	1
第2回	全体セミナー (学生生活)	これからの大学生活について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習復習する。	1
第3回	全体セミナー (教務関係)	履修登録や教務関係について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習復習する。	1
第4回	全体セミナー (適正検査)	適正検査について予習を行い、適正検査を受け、自己分析を行う。自己分析について復習を行う。	1
第5回	全体セミナー (適正検査の解説)	適正検査について予習を行う。適正検査の結果を受け、自己分析を行う。自己分析結果を復習する。	1
第6回	全体セミナー (振り返り)	これまでのセミナーをまとめることで予習を行う。これまでのセミナーの内容を振り返り、復習する。	1
第7回	キャリア教育 (ガイダンスの確認)	進路について自分で調べ、予習を行う。取得できる資格や進路を確認する。キャリアについて復習を行う。	1
第8回	個別セミナー (文献調査)	新聞や日頃の関心を持つ文献を予習する。不足している文献を集める。集めた文献をもとに復習を行う。	1
第9回	個別セミナー (フィールド調査計画)	調査の進め方を自分なりに考え提案する準備・予習をする。計画書の一連を整理する。計画書をもとに復習を行う。	1
第10回	個別セミナー (フィールド調査)	計画に沿って実施できるように振り返り予習を行う。実施結果やグループ(他学生)の意見をまとめる。フィールド調査結果をもとに復習を行う。	1
第11回	個別セミナー (振り返り)	フィールド調査を振り返り予習を行う。反省点や課題を整理する。個別セミナー全体をとおして振り返り、整理した資料をもとに復習を行う。	1
第12回	全体セミナー (聞き取る力を養う)	新聞や日頃の生活に関心をもつことで予習を行う。聞いたことを整理する。全体セミナー(聞き取る力を養う)について整理した資料をもとに復習を行う。	1
第13回	全体セミナー (まとめる力を養う)	新聞や日頃の生活に関心をもち予習を行う。聞いたこと読んだことをまとめる。まとめた資料をもとに復習を行う。	1
第14回	全体セミナー (話す力を養う)	新聞や日頃の生活に関心をもち予習を行う。聞いたこと読んだことを言葉にする。まとめた資料をもとに復習を行う。	1
第15回	全体セミナー (伝える力を養う)	これまでにまとめた資料をもとに予習を行う。新聞や日頃の生活に関心をもち読んだことを誰かに伝える。伝えた結果をもとに復習を行う。	1
教科書・参考書等			
教科書なし、参考書は自作資料とする。			
成績評価方法・基準			
グループ課題、個人課題の内容、理解度や達成度を総合して評価を行う。			

22	基礎セミナーⅡ LS-F-115	必修 1単位 1年後期	
	Home Seminar Ⅱ ※ 2018年度以前入学生が対象		
1年全組 全教員			
授業の達成目標		授業形態	
資料を収集・整理し、ゼミのグループでその結果をまとめ、学年全員の前で発表する。その過程を通して、大学における主体的な学習の仕方、生活デザインの基本的課題について認識できるようになることを目標とする。併せて、学生は、それぞれ自己の将来の進路を考える。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一組に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
少人数ゼミナールである生活デザインセミナーⅠに引き続き、ここでは、学科共通の課題および個々の教員の課題に沿った生活デザインツアーの結果について、グループでディスカッションやプレゼンテーションを行いながら、安全で安心な生活デザインのさまざまな課題に対する眼を養う。また、学生は、検査結果の分析と学生自身の将来像に関するレポート作成を行う。これらを通して、分析力と構想力を養うことを狙いとする。そして、今後の学習の方法と内容および将来の進路や職業を展望する。		<input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	全体セミナー (ガイダンス)	これからの学生生活について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習復習する。	1
第2回	全体セミナー (学生生活・教務)	学生生活・教務関係について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習復習する。	1
第3回	個別セミナー (フィールドワークの結果のまとめ)	基礎セミナーⅠでのフィールドワークの結果を振り返り予習を行う。結果をまとめる。まとめた結果をもとに復習を行う。	1
第4回	個別セミナー (発表資料作成)	基礎セミナーⅠでのフィールドワークの結果をもとに予習を行う。発表資料を作成する。作成した資料をもとに復習を行う。	1
第5回	個別セミナー (発表練習)	発表資料をもとに予習を行う。基礎セミナーⅠでのフィールドワークの発表練習を行う。練習結果をもとに復習を行う。	1
第6回	全体セミナー (フィールドワークの発表)	発表練習をもとに予習を行う。基礎セミナーⅠでのフィールドワークの発表を行う。発表結果をもとに復習を行う。	1
第7回	全体セミナー (発表の評価)	発表結果をもとに予習を行う。他グループとともに発表内容の評価を行う。評価の結果をもとに復習を行う。	1
第8回	全体セミナー (振り返り)	フィールドワークの内容や評価をもとに予習を行う。活動の内容を振り返り復習を行う。	1
第9回	学外活動	学外での活動内容について事前に調べ予習を行う。学外活動に参加する。活動の結果をまとめ復習を行う。	1
第10回	全体セミナー (自己分析)	自己分析について予習を行う。自己分析を行い、今後の進路について展望する。展望をもとに復習を行う。	1
第11回	全体セミナー (社会人としての心構え)	社会人になることを考え社会人生活について予習を行う。社会人としての心構えを確認する。心構えを復習する。	1
第12回	全体セミナー (自己紹介・他者紹介)	自己分析の結果をもとに予習を行う。自己紹介をするとともに、他者を紹介することで改めて自己を評価する。評価結果を復習する。	1
第13回	SPI 適正検査対策 (言語分野)	言語能力について課題に目を通し予習を行う。講座の内容を整理・理解する。言語分野について復習を行う。	1
第14回	SPI 適正検査対策 (非言語分野)	非言語能力について課題に目を通し予習を行う。講座の内容を整理・理解する。非言語分野について復習を行う。	1
第15回	全体セミナー (振り返り)	基礎セミナーⅡ全体を振り返り予習を行う。振り返りをまとめる。まとめた結果をもとに復習を行う。	1
教科書・参考書等			
教科書なし、参考書は自作資料とする。			
成績評価方法・基準			
グループ課題、個人課題の内容、理解度や達成度を総合して評価を行う。			

23	基礎セミナーⅢ LS-F-116	必修 1単位 2年前期	
	Home Seminar Ⅲ	※ 2018年度以前入学生が対象	
2年全組 全教員			
授業の達成目標		授業形態	
適性検査による自己分析より進路を考える。インターシップに関する情報やこれらを通して、「実践するための方法と内容の把握」や「自らの専門性の適性判断」などを、自ら実践出来る様になることを目指す。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
適性検査は1年間の学生生活を踏まえた「自己プログレスレポート」とし、自己の成長度合いや今後の適正な進路を、ある程度確認できるものである。更に、進路を考えるために、インターシップの実習やグループディスカッションを実践する。		<input checked="" type="checkbox"/> 教職科目(工業) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(予習・復習)	時間(時)
第1回	全体セミナー(ガイダンス)	大学生生活について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習復習する。	1
第2回	全体セミナー(学生生活・教務)	学生生活や教務関係について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習復習する。	1
第3回	本学が行う適性検査「自己プログレスレポート」を受検する。	適性検査について予習を行う。適性検査を受け、自己分析を行う。自己分析結果をもとに復習を行う。	1
第4回	学外活動	学外での活動内容について事前に調べ予習を行う。学外活動に参加する。参加した活動内容をまとめ復習を行う。	1
第5回	適性検査の解説	適性検査について予習を行う。適性検査の解説を受け、自己分析を行い将来を展望する。展望をもとに復習を行う。	1
第6回	インターンシップの紹介	インターンシップについて情報を集め予習を行う。インターンシップについて学び、進路先を展望する。展望をもとに復習を行う。	1
第7回	インターンシップ実習先の選択	自己分析をもとに予習を行う。インターンシップの実習先をこれまでの自己分析を踏まえ選択する。選択した結果をもとに復習を行う。	1
第8回	インターンシップに向けての準備	インターンシップについて予習を行う。インターンシップの実習に向けての準備を行う。準備をもとに復習を行う。	1
第9回	全体セミナー(聞き取る力を養う)	将来の進路を見据え予習を行う。新聞や日頃の生活に関心をもち聞いたことを整理する。整理した資料をもとに復習を行う。	1
第10回	全体セミナー(まとめる力を養う)	将来の進路を見据え予習を行う。新聞や日頃の生活に関心をもち聞いたことを読んだことをまとめる。まとめた資料をもとに復習を行う。	1
第11回	全体セミナー(話す力を養う)	将来の進路を見据えた予習を行う。新聞や日頃の生活に関心をもち聞いたことを読んだことを言葉にする。言葉にしたものをもとに復習を行う。	1
第12回	全体セミナー(伝える力を養う)	将来の進路を見据え予習を行う。新聞や日頃の生活に関心をもち読んだことを誰かに伝える。伝えた結果をもとに復習を行う。	1
第13回	グループディスカッション	グループディスカッションについて予習をする。グループディスカッションの方法を学び、新たな考え方を身につける。ディスカッションの内容をもとに復習を行う。	1
第14回	個別セミナー(進路相談)	セミナー全体を振り返り進路先について予習を行う。進路相談を個別で相談を行う。相談の内容をもとに復習を行う。	1
第15回	個別セミナー(振り返り)	セミナー全体を振り返り予習を行う。基礎セミナーⅢ全体を振り返る。振り返った内容をもとに復習を行う。	1
教科書・参考書等			
教科書なし、参考書は自作資料とする。			
成績評価方法・基準			
グループ課題、個人課題の内容、理解度や達成度を総合して評価を行う。			

24	キャリアセミナー I	LS-F-216	必修 1単位 2年後期
	Carrier Seminar I		※ 2018年度以前入学生が対象
2年全組 全教員			
授業の達成目標			授業形態
自分に相応しい業種・職種の分析を踏まえ、その上でキャリアビジョンシートが作成できること。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
地域福祉系・住まい系・暮らし系の分野に関わって活動する実践者からの講話を通して、各自の進路の方向性を見極めることを目指す。具体的には、キャリアビジョンシートを作成し各セミナー担当教員からの指導・助言を受ける。また、適性検査としてSPI検査を実施し、その結果からキャリアビジョンシートに反映できるようにする。これらを通して、社会が求める人物像や将来の姿を思考する力を身につけることを目指す。			<input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス (授業の全体の流れを解説)	シラバスの学習目標や学習内容の予習	1
第2回	SPI 適性検査対策講座1 (言語能力 語句の関係と熟語)	言語能力についての課題の予習 / 講座の内容 (言語能力 語句の関係と熟語) を復習	1
第3回	SPI 適性検査対策講座2 (言語能力 長文読解)	言語能力についての予習 / 講座の内容 (言語能力 長文読解) を復習	1
第4回	SPI 適性検査対策講座3 (非言語能力 表・資料の読み取り)	非言語能力についての課題の予習 / 講座の内容 (非言語能力 表・資料の読み取り) を復習	1
第5回	SPI 適性検査対策講座4 (非言語能力 数的推理)	非言語能力についての課題の予習 / 講座の内容 (非言語能力 数的推理) を復習	1
第6回	SPI 適性検査を受検する	SPI 適性検査を受検するために前回までの講座の予習 / 適性検査の内容を復習	1
第7回	「暮らし分野」：地方自治体の方の講話を聞きレポートにまとめる	地方自治体についての予習 / 地方自治体の方の講話の内容を復習	1
第8回	「暮らし分野」：地場産業の企業家の講話を聞きレポートにまとめる。	地場産業についての予習 / 地場産業の企業家の方の講話の内容を復習	1
第9回	「住まい分野」：住宅産業界の方の講話を聞きレポートにまとめる。	住宅産業界についての予習 / 住宅産業界の方の講話の内容を復習	1
第10回	「住まい分野」：不動産産業界の方の講話を聞きレポートにまとめる。	不動産産業界についての予習 / 不動産産業界の方の講話の内容を復習	1
第11回	「地域福祉分野」：介護事業の実践者の講話を聞きレポートにまとめる。	介護事業についての予習 / 介護事業の実践者の講話の内容を復習	1
第12回	「地域福祉分野」：介護機器製作業の実践者の講話を聞きレポートにまとめる。	介護機器についての予習 / 介護機器製作業の実践者の講話の内容を復習	1
第13回	SPI 適性検査結果の解説を受ける	SPI の事前調査と予習 / 解説を受けて自己分析や進路について復習	1
第14回	キャリアビジョンシートを作成準備を行う	キャリアビジョンシートを作成するのと発表の準備と予習 / 講座の内容を復習	1
第15回	前回提出されたキャリアビジョンシートに基づいた発表会	前回提出されたキャリアビジョンシートの予習 / 他の人の発表内容を復習	1
教科書・参考書等			
SPI 適性検査解説書 講話者の概要書			
成績評価方法・基準			
SPI 対策講座の小テスト、各講話のレポートとキャリアビジョンシートによる評価を行う。			

25	キャリアセミナーⅡ LS-F-217	必修 1単位 3年前期	
	Carrier Seminar II	※ 2018年度以前入学生が対象	
3年全組 全教員			
授業の達成目標		授業形態	
キャリア形成支援科目の最終年科目（前期）として、進路開拓に必要なスタディ・スキルとキャリアアップ・レクチャを織り交ぜながら、日常の修学の補完と人間力形成を図る。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
ホームルーム / インターンシップ / キャリアアップ・レクチャ / スタディ・スキルの4カテゴリーから、様々な内容の修得をする。		<input checked="" type="checkbox"/> 教職科目（工業） <input type="checkbox"/> 教職科目（情報） <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	スタディ・スキル 01：言語系	言語系の課題の予習 / スタディ・スキル言語系の内容の復習	1
第2回	スタディ・スキル 02：非言語系	非言語系の課題の予習 / スタディ・スキル非言語系の内容の復習	1
第3回	スタディ・スキル 03：総合系	総合系の課題の予習 / スタディ・スキル総合系の内容の復習	1
第4回	ホームルーム 01：インターンシップの紹介	自分の興味のある職種や企業についての予習 / インターンシップの内容について復習	1
第5回	ホームルーム 02：キャリア・アプローチ試験	キャリア・アプローチ試験のための予習 / 試験の内容の復習	1
第6回	キャリアアップ・レクチャ 01：自分を見つける	自分の進路についての構想とその予習 / 自分の興味のある職種についての調査とその復習	1
第7回	キャリアアップ・レクチャ 02：業界研究	業界研究について事前に提示されたキーワードについて予習 / 配付された業界研究についての資料を復習	1
第8回	キャリアアップ・レクチャ 03：資格のはなし	資格について事前に提示されたキーワードについて予習 / 配付された資格についての資料を復習	1
第9回	ホームルーム 03：インターンシップ実習先の選択	インターンシップ実習先について事前に提示されたキーワードについて予習 / 配付されたインターンシップ実習先についての資料を復習	1
第10回	ホームルーム 04：キャリア・アプローチ解答と解説	キャリア・アプローチについて事前に提示されたキーワードについて予習 / 配付されたキャリア・アプローチについての資料を復習	1
第11回	キャリアアップ・レクチャ 04：企業のはなし	企業のはなしについて事前に提示されたキーワードについて予習 / 配付された企業のはなしについての資料を復習	1
第12回	キャリアアップ・レクチャ 05：制度のはなし	制度のはなしについて事前に提示されたキーワードについて予習 / 配付された制度のはなしについての資料を復習	1
第13回	キャリアアップ・レクチャ 06：経済のはなし	経済のはなしについて事前に提示されたキーワードについて予習 / 配付された経済のはなしについての資料を復習	1
第14回	ホームルーム 05：進路開拓を考える	進路開拓について事前に提示されたキーワードについて予習 / 配付された進路開拓についての資料を復習	1
教科書・参考書等			
指定しない。必要な情報は適宜配付・周知する。			
成績評価方法・基準			
授業の目的に照らし、その取り組み状況と達成度合いから総合的に評価する。			

26	キャリアセミナーⅢ LS-F-316	必修 1単位 3年後期	
	Carrier Seminar Ⅲ	※ 2018年度以前入学生が対象	
3年全組 全教員			
授業の達成目標		授業形態	
前期に引き続き、進路開拓に必要なスタディ・スキル、キャリアアップ・レクチャを織り交ぜつつ、キャリア形成支援科目の最終段階として、社会人を身につける。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
ホームルーム / インターンシップ / キャリアアップ・レクチャ / スタディ・スキルの4カテゴリーから、様々な内容の修得をする。		<input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ホームルーム 01 : 就職とは何か	自分の興味のある職種について調査し復習	1
第2回	スタディ・スキル 01 : 言語系	言語系の課題の予習 / スタディ・スキル言語系の復習	1
第3回	スタディ・スキル 02 : 非言語系	非言語系の課題の予習 / スタディ・スキル非言語系の復習	1
第4回	スタディ・スキル 03 : 総合系	総合系の課題の予習 / スタディ・スキル総合系の復習	1
第5回	キャリアアップ・レクチャ 01 : 進路と履歴	進路と履歴について事前に提示されたキーワードについての予習 / 配付された進路と履歴についての資料の復習	1
第6回	キャリアアップ・レクチャ 02 : 就活支援講座 1	就活支援講座 1 について事前に提示されたキーワードについての予習 / 配付された就活支援講座 1 についての資料の復習	1
第7回	キャリアアップ・レクチャ 03 : 就活支援講座 2	就活支援講座 2 について事前に提示されたキーワードについての予習 / 配付された就活支援講座 2 についての資料の復習	1
第8回	キャリアアップ・レクチャ 04 : 就活支援講座 3	就活支援講座 3 について事前に提示されたキーワードについての予習 / 配付された就活支援講座 3 についての資料の復習	1
第9回	キャリアアップ・レクチャ 05 : 就活支援講座 4	就活支援講座 4 について事前に提示されたキーワードについての予習 / 配付された就活支援講座 4 についての資料の復習	1
第10回	キャリアアップ・レクチャ 06 : 就活支援講座 5	就活支援講座 5 について事前に提示されたキーワードについての予習 / 配付された就活支援講座 5 についての資料の復習	1
第11回	キャリアアップ・レクチャ 07 : 履歴書作成とマナー	履歴書作成とマナーについて事前に提示されたキーワードについての予習 / 配付された履歴書作成とマナーについての資料の復習	1
第12回	ホームルーム 02 : 冬季インターンシップ 1	冬季インターンシップ 1 について事前に提示されたキーワードについての予習 / 配付された冬季インターンシップ 1 についての資料の復習	1
第13回	ホームルーム 03 : 冬季インターンシップ 2	冬季インターンシップ 2 について事前に提示されたキーワードについての予習 / 配付された冬季インターンシップ 2 についての資料の復習	1
第14回	ホームルーム 04 : 進路個別相談	個別面談に向けて自分の進路のまとめとその予習復習	1
教科書・参考書等			
指定しない。必要な情報は適宜配付・周知する。			
成績評価方法・基準			
授業の目的に照らし、その取り組み状況と達成度合いから総合的に評価する。			

27	卒業研修 I LS-D-408	必修 3単位 3年後期	
	Graduation Works and Thesis I		
3年全組 全教員			
それぞれの教員が教員に配属する学生を担当する。			
授業の達成目標		授業形態	
指導教員のゼミに分かれ、教員が提示するテーマに取り組み、その専門的な手法を習得することを目的とする。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
卒業研修に向けて必要な知識と技術を、研修を通して習得する。各教員の研究室に所属して、教員指導のもと、個人または共同で、特定のテーマに関する実習を行う。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	4年生の卒業研究中間発表会 (前半) の聴講及びレポート提出	予習: 事前周知される発表テーマ (前半) の下調べを行う。復習: 聴講後発表内容をまとめる。	3
第2回	4年生の卒業研究中間発表会 (後半) の聴講及びレポート提出	予習: 事前周知される発表テーマ (後半) の下調べを行う。復習: 聴講後発表内容をまとめる。	3
第3回	ゼミの既往研究理解1: 内容把握	予習: ゼミ毎のガイダンス資料を基に重要事項について下調べを行う。復習: ゼミの既往研究理解1: 内容把握についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第4回	ゼミの既往研究理解2: 質疑応答および課題の抽出	予習: 質問事項を準備する。質疑応答などの討論内容をまとめる。復習: ゼミの既往研究理解2: ゼミ内の討論と教員のアドバイスから課題を抽出し、今後の展開を考える。	3
第5回	ゼミの研究関連知識習得1: 知識の紹介	予習: 各自の課題について文献調査を行う。復習: ゼミの研究関連知識習得1: 知識の紹介についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第6回	ゼミの研究関連知識習得2: 質疑応答	予習: 各自の課題設定を試行的に行う。復習: ゼミの研究関連知識習得2: 質疑応答についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第7回	ゼミの研究技術習得1: 技術の紹介	予習: 各自の課題について研究手法の調査を行う。復習: 技術の紹介で学んだ調査技術などについて教員のアドバイスをまとめる。	3
第8回	ゼミの研究技術習得2: 技術の練習	予習: 各自の課題について研究手法の試行実践を行う。復習: 技術の練習で学んだ調査技術などについて教員のアドバイスをまとめる。	3
第9回	知識と技術の総合化のための基礎的課題1: 課題理解と準備作業	予習: 各自の課題設定を統一的に行う基礎的準備をする。復習: 課題理解と準備作業についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第10回	知識と技術の総合化のための基礎的課題2: 調査または制作	予習: 各自の課題設定を統一的に行うための予備調査や予備制作の準備をする。復習: 調査または制作についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第11回	知識と技術の総合化のための基礎的課題3: 成果の報告	予習: 各自の予備調査や予備制作のまとめを準備をする。復習: 成果の報告についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第12回	知識と技術の総合化のための応用的課題1: 課題理解と準備作業	予習: 各自の課題設定を統一的に行う準備をする。復習: 課題理解と準備作業についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第13回	知識と技術の総合化のための応用的課題2: 調査または制作	予習: 各自の課題設定を統一的に行うための調査や制作の準備をする。復習: 調査または制作についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第14回	知識と技術の総合化のための応用的課題3: 成果の報告	予習: 各自の調査や制作のまとめを準備をする。復習: 成果の報告についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
教科書・参考書等			
各研究室の教員が、実習のテーマに応じて提示する。			
成績評価方法・基準			
提出物 (作品またはレポート) を総合的に勘案して評価する。			

28	卒業研修Ⅱ LS-D-409	必修 3単位 4年前期	
	Graduation Works and Thesis Ⅱ		
4年全組 全教員			
それぞれの教員が教員に配属する学生を担当する。			
授業の達成目標		授業形態	
特定のテーマに基づいた「論文」または「作品」を主体的にまとめる作業を通じて、「目的設定→方法の検討とその実行→結果と考察」という論理的な研究方法を修得し、活用できるようになること。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
本科目は卒業研修の実践であり、4年間の学習の総仕上げである。具体的には、各教員の研究室に所属して、教員指導のもと、個人もしくは共同で、特定のテーマに基づいた研究または制作を行う。ここでは、研究テーマに関するガイダンスに始まり、テーマに関連する資料の収集、基礎理論の学習を通して研究テーマを決定し、研究方法または制作手段の検討、実験、調査、制作の計画立案、それらの準備と予備実験や予備調査の実施、中間報告書の作成とその口頭発表までを行う。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	テーマに関するガイダンス	予習：事前周知されるテーマの下調べを行う。復習：テーマについてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第2回	テーマの背景・目的について	予習：各自のテーマ設定の意義や背景・目的をまとめる。復習：テーマの背景・目的についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第3回	テーマに関する資料の収集	予習：各自のテーマに関する既往の研究や利用する資料の収集先などを調べる。復習：テーマに関する資料の収集についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第4回	テーマに関する基礎理論の学習	予習：各自のテーマに関する分析・制作などの方法論の基礎を下調べする。復習：テーマに関する基礎理論の学習についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第5回	研究方法または制作手段の検討	予習：各自のテーマに関する分析・制作などの方法論をまとめる。復習：研究方法または制作手段の検討についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第6回	実験、調査、制作等の計画立案	予習：実験、調査、制作等の計画を立てる。復習：実験、調査、制作等の計画立案についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第7回	基礎理論のまとめ	予習：計画に沿って必要な基礎理論をまとめる。復習：基礎理論のまとめについてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第8回	研究または制作のための諸準備	予習：計画に沿った準備内容を書き出す。復習：研究または制作のための準備についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第9回	予備実験、予備調査、制作など	予習：予備調査や予備制作の準備をする。復習：予備実験、予備調査、制作などについてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第10回	予備実験、予備調査、制作などのまとめ	予習：予備調査や予備制作のまとめを準備する。復習：予備実験、予備調査、制作などのまとめについてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第11回	中間報告書の準備	予習：中間報告書の準備を行う。復習：中間報告書の準備についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第12回	中間報告書の作成・提出	予習：中間報告書をまとめる。復習：中間報告書の作成・提出についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第13回	中間発表の準備	予習：発表の準備をする。復習：中間発表の準備についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第14回	中間発表 (口頭発表) と講評	予習：発表の準備をする。復習：講評を参考にリファインをする。	3
教科書・参考書等			
各研究室の教員が、研究課題の進捗状況に応じて提示する。			
成績評価方法・基準			
テーマの設定、方法や手段の妥当性。テーマの分野、性格、位置づけの認識度。進捗状況と後期への準備状況。口頭発表の明快度。以上を総合して評価する。			

29	卒業研修Ⅲ LS-D-410	必修 3単位 4年後期	
	Graduation Works and Thesis Ⅲ		
4年全組 全教員			
それぞれの教員が教員に配属する学生を担当する。			
授業の達成目標		授業形態	
特定のテーマに基づいた「論文」または「作品」を主体的にまとめる作業を通じて、「目的設定→方法の検討とその実行→結果と考察」という論理的な研究方法を修得し、活用できるようになること。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
本科目は卒業研修の実践であり、4年間の学習の総仕上げである。具体的には、各教員の研究室に所属して、教員指導のもと、個人もしくは共同で、特定のテーマに基づいた研究または制作を行う。ここでは、研修Ⅱで行った予備実験や予備調査または制作の中間報告結果に基づき、本実験や本調査または作品制作の計画立案からその実行までを行い、結果の分析を深めるとともに、追加実験、追加調査を経て、論文の構成や制作内容を検討し、卒業論文または卒業制作としてまとめる。さらに、内容梗概を作成して口頭発表やパネル展示発表などを行う。		教職科目 (工業) 教職科目 (情報) 地域志向科目 実務経験のある教員担当 アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	中間報告結果の吟味とテーマの内容および方法の再検討	予習：リファインされた研修成果を準備する。復習：テーマの内容および方法の再検討についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第2回	実験、本調査または作品制作の計画準備	予習：調査や制作の計画準備をする。復習：実験、本調査ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第3回	実験、本調査または作品制作の計画立案	予習：調査や制作の計画をする。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第4回	本実験、本調査または作品制作の実施準備	予習：調査や制作の実施準備をする。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第5回	本実験、本調査または作品制作の実施	予習：調査や制作の実施をする。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第6回	本実験、本調査または作品制作の実施と検証	予習：調査や制作の実施結果をまとめる。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第7回	分析と追加実験、追加調査または再制作の計画準備	予習：調査や制作の結果を踏まえ追加調査や追加制作の準備計画を行う。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第8回	分析と追加実験、追加調査または再制作の実施	予習：追加調査や追加制作を行う。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第9回	論文構成または制作ノート構成の検討	予習：論文や制作ノートの章立てを計画する。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第10回	論文の総括または制作の仕上げ	予習：論文や制作のフィニッシュワークを行う。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第11回	内容梗概の作成	予習：論文や作品制作を梗概原稿にまとめる。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第12回	予備審査会口頭発表と講評	予習：予備審査会発表の準備を行う。復習：講評を基に、リファインや修正を行う。	3
第13回	本審査会での研究発表または制作発表の準備	予習：本審査会発表 (研究発表または制作発表) の準備を行う。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第14回	本審査会の口頭発表と講評	予習：本審査会発表 (口頭発表) の準備を行う。復習：講評を基に、リファインや修正を行う。	3
教科書・参考書等			
各研究室の教員が、研究課題の進捗状況に応じて提示する。			
成績評価方法・基準			
実験、調査の内容およびその分析または制作の学習度。内容構成の妥当性。目的とゴールの関連度。論文または作品の完成度。内容梗概の完成度。口頭発表の明快度と完成度。以上を総合して評価する。			

30	公民と地域自治 LS-A-301	選択 2単位 3年前期	
	Civics and Community Governance		
3年全組 教 授 岸本 誠司 非常勤講師 並河 浩一			
授業の達成目標		授業形態	
地域自治を担う首長、議会、住民等のそれぞれの役割が把握でき、その上に立った地域の安全安心な姿を描きつつ、これからの地域の自立（自律）の途を模索する力を身につけられるようにする。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
安全で安心な生活に関する問題は、その時々国内外の社会情勢や地域自治のすすめ方と密接に関係する。講義では、特に「地域の自立（自律）」を主課題とした内容を、宮城・仙台の実践事例も交えて講話する。特に東日本大震災の被災自治体の復興への途の描き方の現状を解説。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。		<input type="checkbox"/> 教職科目（工業） <input type="checkbox"/> 教職科目（情報） <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
担当者は民間団体、NPOなどで活動し、若者の起業等にも関わってきたことから、そうした経験をふまえて解説する。			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	ガイダンス（地方自治の意義を踏まえた総論）	予習：地方自治に関する情報を収集しておくこと 復習：意義に関して再確認しておくこと	4
第2回	地方自治体の長と議会の権限と役割について	予習：自治体の長と議会に関する情報を収集しておくこと 復習：長と議会の権限と役割について再確認しておくこと	4
第3回	首長の役割に関する最近の問題提起について	予習：首長の役割に関して最近の問題等の情報を収集しておくこと 復習：最近の首長の問題は何に起因しているか再確認しておくこと	4
第4回	議会の現状について	予習：議会運営に関しての情報を収集しておくこと 復習：議会運営の実態を再確認しておくこと	4
第5回	監査委員の権限と役割について	予習：監査委員の役割に関して情報収集しておくこと 復習：監査委員の役割に関して再確認しておくこと	4
第6回	地方自治と住民の権利について	予習：住民の権利に関して情報を収集しておくこと 復習：住民の権利に関して再確認しておくこと	4
第7回	情報公開の意義について	予習：情報公開に関する情報を収集しておくこと 復習：情報公開に関して再確認しておくこと	4
第8回	東日本大震災の自治体の実態に関して	予習：東日本大震災の実態を事前に情報収集しておくこと 復習：被災実態内容を再確認しておくこと	4
第9回	東日本大震災直後の首長・議会の対応に関して	予習：各自治体の首長・議会の対応の情報を収集しておくこと 復習：緊急対応の内容を再確認しておくこと	4
第10回	東日本大震災直後の被災住民と自治体との関係について	予習：被災自治体の復興にむけての各施策等の情報を収集しておくこと 復習：自治体と地域住民の関係を再確認しておくこと	4
第11回	震災復興にむけての自治体の産業再生の取り組みについて	予習：被災自治体の産業再生に向けての情報収集をおこなっておくこと 復習：産業再生の取り組みに関して再確認しておくこと	4
第12回	被災地区の中核施設の再生のための取り組みについて	予習：震災前の情報を収集しておくこと 復習：震災後の地域資源等をまとめておくこと	4
第13回	被災地区の現在の復興の進捗状況と住民との関係について	予習：復興状況の情報を収集しておくこと 復習：復興内容を再確認しておくこと	4
第14回	まとめ／被災自治体と・国及び県との関係	予習：被災地に対しての国・県の取り組みに関して情報収集しておくこと 復習：今後の国や県が復興にむけてどのような施策を講じようとしているのかを整理しておくこと	4
教科書・参考書等			
教科書は自作製作もので対応する。参考書はその都度対応する。現在の日本社会の地方自治に関する諸課題をマスコミや関係する文献等の資料収集に努め、授業に臨むこと。			
成績評価方法・基準			
レポートを総合的に評価する。			

31	障害者福祉論 LS-A-302	選択 2単位 3年前期	
	Theory of Welfare of Disabled Persons		
3年全組 非常勤講師 末田 耕司 ほか			
授業の達成目標		授業形態	
日本における障害者を取り巻く社会的環境を理解し、障害者が一住民として地域社会で生活するための課題とその解決の状況や、障害者を含めた社会的包摂に向けた現代的意義を学ぶ。また講義全般を通じて、障害をもちながら生きていくことの意義や、障害者を含めた共生型の地域社会のありかたを考える力を身につける。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input checked="" type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
障害をもちながら社会の構成員として、地域で暮らすことは、当然の権利である。しかしながら、歴史的背景や制度の未熟さ、支援体制の不足により、いまだその実現にほど遠いのが、社会の実状である。この現状を変えるには、多様な問題群をまずは認識し、その根本にはいかなる要因があるのかを理解しながら、障害者自身の視点に立って考える力が求められる。本講義では、障害者福祉に関して多様な角度から理解を進めると共に、地域社会での暮らし方をテーマごとに論じていく。また、社会参加のひとつの方法として、障害者スポーツに着目して、その可能性についても考えていきたい。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。担当教員は、福祉団体において長きに渡り障害者の支援・指導に従事した実績と経験を活かして、授業に還元する。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、社会福祉士として、障害者の支援・指導に従事した実績と経験を活かし、より実践的な授業構成とする。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	障害者, 福祉を考える	障害者や福祉について予習する。障害者や福祉の現状と課題について理解し、復習する。	4
第2回	障害者福祉の思想と理念 ～障害の概念と国際生活機能分類～	障害者福祉の代表的な思想を予習する。思想の変遷を学び、ICF (交際生活機能分類) に関する知識を習得し、復習する。	4
第3回	ノーマライゼーションの理念と共生社会	ノーマライゼーションの基本的な背景について予習する。ノーマライゼーションの思想化の背景や内容と日本への受容について学び、復習する。	4
第4回	障害者福祉の対象	身体、知的、精神の3障害のおおまかな区別を予習する。3障害の特徴と、そのほかの種類の障害について学び、復習する。	4
第5回	障害者福祉の制度	障害者基本法について簡単にその内容を予習する。基本法と関連法、また障害者総合支援法について法の目的と概要を学び、復習する。	4
第6回	障害福祉サービスの体系	障害者の福祉サービスのうち一つをとりあげ予習する。障害者福祉サービスについてその種類と概要について学び、復習する。	4
第7回	障害者への差別禁止の取り組み	障害者差別の具体的な事例を予習する。差別解消法制定の背景を学び、重要概念である合理的配慮について理解し、復習する。	4
第8回	障害者福祉にかかわる主体	行政の障害者福祉担当部署の仕事や予習する。障害者福祉を提供する様々な事業主体やその体系について学びとともに、当事者組織の意義と役割について理解し、復習する。	4
第9回	障害者とバリアフリー	バリアフリーとは何かを簡単に予習する。新バリアフリー法の概要について学び、移動の自由を保障するバリアフリーの取り組みについて学び復習する。	4
第10回	障害者の就労支援	障害者の雇用の実態について知識を深め、就労へ向けた企業や地域の取り組みについて学ぶ。	4
第11回	障害者と居住支援	障害者の住まいの課題について予習する。教授支援の内容を理解し、グループホームなどの居住を支援する取り組みについて学び、復習する。	4
第12回	障害者とレクリエーション	観光地における障害者への取り組みについて予習する。日々の余暇活動の実態と効果や、観光ユニバーサルデザインの実態について理解し復習する。	4
第13回	障害者とスポーツ	パラリンピックの成り立ちを予習する。障害者の生活におけるスポーツの役割と意義について学び、復習する。	4
第14回	日本における障害者福祉についてまとめ	これまでの講義内容を予習する。日本における障害者福祉の現状と課題をまとめ、今後の障害者福祉の姿について考えて、復習する。	4
教科書・参考書等			
大曾根寛、小澤温 (2005)『障害者福祉論』放送大学出版			
成績評価方法・基準			
授業で実施するレポートと、まとめの試験で評価する。			

32	デザイン史 LS-B-204	選択 2単位 2年前期	
	History of Design 2年全組 教授 梅田 弘樹		
授業の達成目標		授業形態	
デザインを行う上で最低限必要な教養としてのデザインの歴史を学ぶ。すなわち歴史の延長である今現在においてデザインを行う際の指針となるような知識を各時代のデザイン思想とその成果の中から見出し学び取る。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
19世紀から現在に至るデザイン史の流れを人物とムーブメントを軸に、概ね時系列順に紹介する。題材はヨーロッパのプロダクトデザインを中心に、時にアメリカや日本の、また空間デザインやグラフィックデザインまでを含む。各時代のデザインムーブメントを当時の社会背景と対比すること、それぞれの様式が今日のデザインに影響を与えている例を確認することで、現代あるいはこれからの社会に対して行うデザインに活用できる生きた知識としての歴史の習得を目指す。		○ 教職科目 (工業)	
		○ 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		○ 実務経験のある教員担当	
担当教員は、プロダクトデザイナーとして様々な製品のデザイン業務に従事した実績と経験にもとづき、デザインの意義やその根本思想を考える際に歴史から学ぶことの重要性を説く。		○ アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス：デザイン史を学ぶ意義	予習：身の回りのものとデザインとの関連について考える。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。	4
第2回	予備知識：ヨーロッパの地理・歴史・文化の概観	予習：ヨーロッパの地図を見て主要な国の場所を確認しておく。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。	4
第3回	アーツ・アンド・クラフツ運動	予習：アーツ・アンド・クラフツ運動に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第4回	アール・ヌーヴォー	予習：アール・ヌーヴォーに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第5回	バウハウス	予習：バウハウスに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第6回	アール・デコ・ロシア構成主義	予習：アール・デコ、ロシア構成主義に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第7回	ここまでの復習	予習：第1回から第6回までのキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第8回	モダニズム・合理主義	予習：モダニズム・合理主義に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第9回	アメリカ：コマーシャルリズムとデザイン	予習：アメリカのデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第10回	日本：工芸と大企業のデザイン	予習：日本の工芸とデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第11回	20世紀後半のデザイン	予習：20世紀後半のデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第12回	ポストモダンとそれ以降	予習：ポストモダンに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第13回	北欧のデザイン	予習：北欧のデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第14回	現在とこれから	予習：現在のデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第15回	まとめと試験	予習：試験に備え、これまでの授業内容をまとめる。 復習：試験問題でわからなかったところを調べる。	4
教科書・参考書等			
参考書 世界デザイン史カラー版 阿部公正ほか著 美術出版社 デザイン史を学ぶクリティカル・ワーズ橋本優子ほか編 フィルムアート社			
成績評価方法・基準			
毎回の講義後に課されるレポートの内容と、期末試験の点数を総合的に評価する。			

33	プロジェクトデザイン	LS-B-303	選択	2単位	2年後期
	Project Management				
2年全組 准教授 畠山 雄豪 非常勤講師 田澤 紘子 ほか					
授業の達成目標			授業形態		
プロジェクトのデザインとマネジメントについての基礎的な知識を身につける。プロジェクトの実施に伴う各種の評価手法について理解する。実践例を通して、実行的なプランニングの手法の理解を深める。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一括に担当) <input checked="" type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)		
授業の概要			該当科目		
地域で実践されている各種プロジェクト事例を題材に、プロジェクトの計画、準備、実施、評価の各フェーズにおいて必要な手法や知識を身につける。さらに、プロジェクトを進めるうえで必要な、運営の仕組みや住民参加などのプロジェクト管理や関係者の参加のすすめかたについても学んでいく。また、計画や評価の段階で重要となる各指標の理解やデータ収集分析の方法についても適宜紹介していく。なお、とりあげるプロジェクトには東北や宮城で実施されるものを含む。 授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング		
実務経験を活かした教育について			担当教員は、公益法人において地域社会の課題を市民協働で取り組む活動に従事しており、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。		
授業計画 (各回の学習内容等)					
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)		時間(時)	
第1回	プロジェクトデザインの基本的な段階	プロジェクトと計画との違いを予習する。プロジェクト実施するにあたり、各段階の基本的な作業や内容を理解し、復習する。		4	
第2回	プロジェクトに関わる運営組織のネットワーク	プロジェクトを運営とはどのようなものかを予習する。運営する各主体のネットワーク化の手法と影響について学び、それを復習する。		4	
第3回	プロジェクトの目的とプロセスのデザイン	プロジェクトの目的とはなにかを予習する。目的の設定と、短期、中期、長期的なタイムスパンごとの目標設定の方法を学び、復習する。		4	
第4回	プロジェクトの参加のデザイン	プロジェクトの参加の代表的な方法を予習する。関係者や住民を含めたプロジェクトの参加者との協働デザインの手法を学び、復習する。		4	
第5回	プロジェクトの評価	プロジェクトの具体的な結果について予習する。結果に関する指標を学び、評価と改善の方法について学び、復習する。		4	
第6回	プロジェクトのリスクマネジメント	プロジェクトのリスクの実例について予習する。プロジェクト実施時のリスクの評価やそれへの対応の仕方を学び、復習する。		4	
第7回	都市におけるプロジェクトの目的とプロセスデザイン	都市部におけるまちづくりプロジェクトの代表例を予習する。目的設定とプロセスのデザインを実践例を通して学び、復習する。		4	
第8回	都市におけるプロジェクトの参加とネットワークのデザイン	都市部におけるまちづくりプロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。参加と協働ネットワークのデザインを実践例を通して学び、復習する。		4	
第9回	都市におけるプロジェクトのリスクマネジメントと評価	都市部におけるまちづくりプロジェクトの結果や生じるリスクを予習する。プロジェクトの事後評価とリスクマネジメントを実践例を通して学び、復習する。		4	
第10回	中山間地域におけるプロジェクトの目的とプロセスデザイン	中山間地域におけるプロジェクトにおける代表例を予習する。目的設定とプロセスのデザインを実践例を通して学び、復習する。		4	
第11回	中山間地域におけるプロジェクトの参加とネットワークのデザイン	中山間地域におけるプロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。参加と協働ネットワークのデザインを実践例を通して学び、予習する。		4	
第12回	中山間地域におけるプロジェクトのリスクマネジメントと評価	中山間地域におけるプロジェクトの結果や生じるリスクを予習する。事後評価とリスクマネジメントを実践例を通して学び、復習する。		4	
第13回	広域的なプロジェクトの目的とプロセスデザイン	広域にわたる生態系維持プロジェクトにおける代表例を予習する。目的設定とプロセスのデザインを実践例を通して学び、復習する。		4	
第14回	広域的なプロジェクトの参加とネットワークのデザイン	広域にわたる生態系維持プロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。参加と協働ネットワークのデザインを実践例を通して学び、復習する。		4	
第15回	広域的なプロジェクトのリスクマネジメントと評価	広域にわたる生態系維持プロジェクトの結果や生じるリスクを予習する。事後評価とリスクマネジメントを実践例を通して学び、復習する。		4	
教科書・参考書等					
プリント等参考資料を配付予定。					
成績評価方法・基準					
レポートや試験を用いて評価する					

34	災害と復旧復興 LS-B-304	選択 2単位 3年前期	
	Disaster Recovey and Reconstruction 3年全組 准教授 畠山 雄豪		
授業の達成目標		授業形態	
災害からの復旧、復興過程で発生すること、留意すべきことを理解し、復旧活動や復興活動に寄与できる知識を得て、災害発生時に地域で実践できる意欲や行動力を身につけることを目標とする。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
災害からの復旧、復興過程について何が起きるのか、どのようなことに考慮する必要があるのか理解する。近年発生した災害からの復旧、復興事例についていくつか取り上げ、復旧活動や復興活動に寄与できる知識を得て、災害発生時に地域で実践できる意欲や行動力を身につけることを目標とする。		○ 教職科目 (工業)	
		○ 教職科目 (情報)	
		○ 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		○ 実務経験のある教員担当	
担当教員は、自治体において防災面を含めた地域社会の課題活動に従事しており、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。		○ アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	復旧と復興の違い	復旧と復興の違いについて各自の考えをまとめておくこと。講義終了後は作成したノートを読み返しておくこと。	4
第2回	災害復旧事業	比較的短期間で実施される災害復旧事業の効果と課題について (予習: 事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習: 授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第3回	復興感について	過去の災害事例から人々はどういう事象で復興を認識しているのかを紹介する (予習: 事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習: 授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第4回	住宅再建について	災害からのさまざまな住宅再建の方法について (予習: 事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習: 授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第5回	住宅の自力再建について	自力による住宅再建について (予習: 事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習: 授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第6回	基盤整備がともなう住宅再建	防災集団移転促進事業、小規模住宅地区改良事業など (予習: 事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習: 授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第7回	災害公営住宅について	阪神・淡路大震災、新潟中越地震、東日本大震災などの災害公営住宅・復興公営住宅 (予習: 事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習: 授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第8回	復興まちづくり (地域としての取り組み)	地域としての復興へのとりくみ、まちづくり協議会など (予習: 事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習: 授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第9回	復興まちづくり (復興人材について)	地域復興支援員など復興に関わる人材、しくみについて (予習: 事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習: 授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第10回	復興基金等財政的支援のしくみ	復興基金など災害復興のための財政支援制度について (予習: 事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習: 授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第11回	復興と地域経済	過去の事例から地域経済の取り組みについて (予習: 事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習: 授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第12回	学生等若者による復興支援・活動について	学生として復興過程でどのような支援、活動ができるのか (予習: 事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習: 授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第13回	災害経験の伝承等・事前復興について	語り部、災害遺構など災害の経験や教訓の発信、伝承について・事前復興という考え方について (予習: 事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習: 授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第14回	災害復興に関する総括	一連の復旧や復興に関する概念、事例について振り返る (予習: これまで作成した講義ノートを読み返しておくこと / 復習: 災害復旧・復興の流れと意味について自身の言葉で説明できるようにしておくこと)	4
教科書・参考書等			
必要に応じて授業等で紹介予定。			
成績評価方法・基準			
原則として定期試験により評価する。なお補足的にレポート、ノート提出などを課す場合もある。			

35	地域産業計画 LS-B-402	選択 2単位 3年後期	
	Regional Industrial Planning		
3年全組 教 授 岸本 誠司 非常勤講師 冬木 勝仁			
授業の達成目標		授業形態	
有形無形の地域資源を活かした産業振興の有様を学習する。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input checked="" type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
仙台・宮城と東北エリアも含めた産業振興の実践的事例を紐解き概説する。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
担当者は民間団体、NPOなどで活動し、若者の起業等にも関わってきたことから、そうした経験をふまえて解説する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス (地域産業の概要)	予習：各種地域産業振興事例を収集する 復習：地域産業の意義を再確認する	4
第2回	地域産業振興の上位計画 (長期総合計画) について	予習：長期総合計画と産業振興の関係について調べる 復習：上位計画と産業振興を再確認する	4
第3回	公的機関 (国・県・市等) の地域振興政策について	予習：公的機関の各種振興政策を調べる 復習：国の産業振興策を再確認する	4
第4回	企業誘致型産業振興の実態と課題	予習：企業誘致型産業振興事例を調べる 復習：企業誘致型産業振興の実態と課題を再確認する	4
第5回	素材提供型の農業振興の実践事例	予習：農業振興事例を収集する 復習：素材提供型農業振興の課題等を再確認する	4
第6回	流通も含めた農業の六次化産業の実践事例	予習：農業の六次化産業事例を収集する 復習：六次化の特徴と課題等も再確認する	4
第7回	素材提供型の水産業振興の実践事例	予習：水産業振興事例を収集する 復習：素材提供型の水産業振興の実態と課題を再確認する	4
第8回	独自流通を持つ水産・加工業振興の実践事例	予習：独自流通の水産・加工業事例を収集する 復習：独自流通を持つ水産・加工業振興の実態と課題を再確認する	4
第9回	林業振興の実践事例	予習：林業振興の事例を収集する 復習：林業振興の実態と課題を再確認する	4
第10回	歴史・祭事等の資源を活かした産業振興の実践事例	予習：歴史・祭事等の事例を収集する 復習：歴史・祭事等の資源を活かした産業振興の実態と課題を再確認する	4
第11回	産業の統合を目指した地域振興の実践事例	予習：他産業の統合事例を収集する 復習：産業の統合を目指した地域振興の実態と課題を再確認する	4
第12回	商品開発と販路開拓について	予習：商品開発と販路拡大の関係について収集する 復習：商品開発と販路開拓の事例内容を再確認する	4
第13回	地域資源を中核とした産業振興の実践事例	予習：地域資源事例を収集する 復習：地域資源を中核とした産業振興の事例内容を再確認する	4
第14回	まとめ・持続可能な地域産業について	予習：持続可能性について予習する 復習：地域資源と産業振興の持続性を総合的に考える	4
教科書・参考書等			
教科書：自作製作もので対応する。 参考書：その都度対応する。			
成績評価方法・基準			
レポートを総合的に評価する。			

36	地域看護論 LS-B-205	選択 2単位 2年前期	
	Regional Nursing and Community Support		
2年全組 准教授 伊藤美由紀 ほか			
授業の達成目標		授業形態	
在宅での高齢者や療養者の生活をデザインするために、その社会的背景を理解し、治療や療養をする方とともに家族全体を援助の対象とした支援方法を理解する。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
多くの高齢者や療養者が、住み慣れた家庭や地域でできる限り過ごしたいと願っている。介護保健制度も在宅や地域での生活を重視した支援体制の確立を目指している。社会的背景を理解し、在宅や地域での高齢者や療養者の生活を支えるためには、病気や障害を持った方だけに注目するのではなく、一単位としての家族全体を援助の対象としたケアが求められる。この講義では、特に宮城や仙台の方策を事例に挙げ、それらの考え方や技術をわかりやすく話す。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。総合病院で看護師の実務経験のある教員が、様々な疾病や障害のある個人や家族を支援した経験を活かし、健康寿命を延ばすための支援方法を建築や生活具のデザインにつなげられるよう教授する。		○ 教職科目 (工業)	
実務経験を活かした教育について		○ 地域志向科目	
総合病院で看護師の実務経験のある教員が、様々な疾病や障害のある個人や家族を支援した経験を活かし、健康寿命を延ばすための支援方法を建築や生活具のデザインにつなげられるよう教授する。		○ 実務経験のある教員担当	
授業計画 (各回の学習内容等)		○ アクティブラーニング	
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	家庭や地域で療養するということ	子どもから高齢者の発達や心身の変化、病気や障害について健康と生活支援で学んだことをふりかえり予習をする。復習として自宅や地域で療養する人についてまとめる。	4
第2回	家庭や地域での支援とは何か!?	介護保険制度について予習する。復習として介護保険制度と自分の身の回りの人との関連を整理する。	4
第3回	地域で療養する人を支える保健・医療・福祉	医療や福祉について予習する。復習として地域医療や福祉と自分の身の回りの人との関連を整理する。	4
第4回	認知症と看護	認知症と社会問題について予習する。復習として認知症の支援や社会問題解決に向けて復習する。	4
第5回	基本的生行動と看護 (1): 体位交換と移動の援助	身体機能に障害がある生活について予習する。復習として (1): 体位交換と移動の援助についての配付資料を再読する。	4
第6回	基本的生行動と看護 (2): 移動と寝衣交換の援助	身体機能に障害がある生活について予習する。復習として (2): 移動と寝衣交換の援助についての配付資料を再読する。	4
第7回	基本的生行動と看護 (3): 清潔の援助	身体機能に障害がある生活について予習する。復習として (3): 清潔の援助についての配付資料を再読する。	4
第8回	基本的生行動と看護 (4): 食事と排泄の援助	身体機能に障害がある生活について予習する。復習として (4): 食事と排泄の援助についての配付資料を再読する。	4
第9回	リハビリテーションと看護	身体機能に障害がある生活について予習する。復習としてリハビリテーションと看護についての配付資料を再読する。	4
第10回	高齢者や療養者を理解する	介護保険施設について予習する。復習として介護保険施設について整理する。	4
第11回	地域介護支援の現状とこれから	地域包括支援センター地域包括ケアシステムについて予習する。復習として地域包括ケアシステムについて整理する。	4
第12回	救急や災害時の看護	防災減災と社会問題について予習する。復習として防災減災の支援や社会問題解決に向けて復習する。	4
第13回	笑いの効用	笑い与健康について予習する。復習として日常生活の笑いの効果について整理する。	4
第14回	心理的危機やストレス状況と支援	心身の病気について予習する。復習として心身の病気と家族支援について整理する。	4
第15回	まとめと試験	子どもから高齢者の発達や心身の変化、病気や障害についてふりかえる。何を学んだかを具体的に言えるように整理する。	4
教科書・参考書等			
自作資料 参考書はその都度紹介する。			
成績評価方法・基準			
レポートや試験を用いて評価する。			

37	心理・行動と社会調査 LS-B-305		選択 2単位 3年前期
	Social Research with Psychology and Behavioristics		
3年全組 講師 中井 周作			
授業の達成目標			授業形態
思考力の学習について具体的方法の理解と実習を通して身につけること。社会心理学の知識を学ぶこと。また社会問題の解決に対する調査方法と社会心理学の知見の適用・応用方法を身につけること。社会問題の捉え方を学ぶ。			○ 単独 (1人が全回担当)
			複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)
			オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)
			クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
知情意の発達過程を概説し、とくに思考力の発達を実習を通して理解を深める。また心の発達については幼児期から青年期まで発達課題の観点から解説する。個人の発達の観点から心理学を学ぶとともに集団の心理（社会心理学）の知見を解説する。最後に社会に潜在している問題を調査より明らかにし、社会心理学を用いたアプローチよりその問題の解決策を探り、より安全で安心で快適な生活を営める社会のあり方を追求します。			教職科目（工業）
			教職科目（情報）
			地域志向科目
実務経験を活かした教育について			実務経験のある教員担当
			アクティブラーニング
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	序章	心の理解とケアの講義ノートをもとに予習を行う。「心の理解とケア」で学んだ心理学の理論や検査を振り返る。講義ノートを作成し復習をする。	4
第2回	心の発達	発達心理学について予習を行う。発達心理学の概要を学ぶ。心の発達について講義ノートを作成し復習をする。	4
第3回	幼児期における人格形成	幼児期について予習する。幼児期の課題と自分の生活を当てはめて考える。幼児期における人格形成について講義ノートを作成し復習をする。	4
第4回	児童期における人格形成	児童期について予習する。児童期の課題と自分の生活を当てはめて考える。児童期における人格形成について講義ノートを作成し復習をする。	4
第5回	青年期における人格形成	青年期について予習する。青年期の課題と自分の生活を当てはめて考える。青年期における人格形成について講義ノートを作成し復習をする。	4
第6回	学習理論と行動療法	学習理論と行動療法について予習を行う。学習理論、行動療法について学ぶ。学習理論と行動療法について講義ノートを作成し復習をする。	4
第7回	社会心理学の概要	社会心理学について予習を行う。社会心理学の知識を学ぶ。社会心理学の概要について講義ノートを作成し復習をする。	4
第8回	集団の心理	集団の心理について予習を行う。集団の心理の知識を学ぶ。集団の心理について講義ノートを作成し復習をする。	4
第9回	社会問題（社会的ジレンマ）	社会的ジレンマについて予習を行う。社会問題の構造を学ぶ。社会問題（社会的ジレンマ）について講義ノートを作成し復習を行う。	4
第10回	社会調査方法の概要	社会調査について予習を行う。社会調査の概要を学ぶ。社会調査方法の概要について講義ノートを作成し復習を行う。	4
第11回	アンケート調査の概要	アンケートについて予習を行う。アンケート調査方法の概要を学ぶ。アンケート調査の概要について講義ノートを作成し復習を行う。	4
第12回	ヒアリング調査・フィールド調査	ヒアリング調査・フィールド調査について予習を行う。ヒアリング調査・フィールド調査方法の概要を学ぶ。ヒアリング調査・フィールド調査について講義ノートを作成し復習を行う。	4
第13回	調査事例の紹介（アンケート調査）	調査事例（アンケート調査）を探し予習を行う。調査事例を学ぶ。調査事例の紹介（アンケート調査）について講義ノートを作成し復習を行う。	4
第14回	理解のまとめ	講義ノートを用いて予習を行う。これまで学んだ知識を講義ノートを通して総復習し、理解を深める。	4
教科書・参考書等			
自作資料。			
成績評価方法・基準			
授業中に実施する小テストや定期試験を用いて評価する。			

38	身体生理と医科学 LS-B-306	選択 2単位 3年後期	
	Outline of Physiology and Medical Science		
3年全組 非常勤講師 古林 俊晃			
授業の達成目標		授業形態	
日本における健康問題を理解するとともに、エビデンスを基にした運動の効果について医学的な知識や理論の習得を目標とする。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
超高齢化社会で見られる健康問題について学ぶとともに、運動がこれらの健康問題の予防や改善に貢献することを生理学・生化学的背景から概説する。また実際のエビデンスを基にした運動処方の効果についても学ぶ。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	現代社会の健康問題	予習として、事前に授業内で提示された現代社会の健康問題のキーワードについて調べる。復習として、配付資料を再読する。	4
第2回	骨格筋の機能・肥大と萎縮	予習として、事前に授業内で提示された骨格筋の機能・肥大と萎縮のキーワードについて調べる。復習として、配付資料を再読する。	4
第3回	神経系と運動	予習として、事前に授業内で提示された神経系と運動のキーワードについて調べる。復習として、配付資料を再読する。	4
第4回	呼吸・循環系と運動	予習として、事前に授業内で提示された呼吸・循環系と運動のキーワードについて調べる。復習として、配付資料を再読する。	4
第5回	運動と栄養	予習として、事前に授業内で提示された運動と栄養のキーワードについて調べる。復習として、配付資料を再読する。	4
第6回	効果的な運動	予習として、事前に授業内で提示された効果的な運動のキーワードについて調べる。復習として、配付資料を再読する。	4
第7回	これまでのまとめと中間試験	予習として、これまでの内容を振り返りまとめを行う。復習として、中間試験でわからなかったところを確認し、不十分な部分を補う。	4
第8回	各種スポーツの生理学	予習として、事前に授業内で提示された各種スポーツの生理学のキーワードについて調べる。復習として、配付資料を再読する。	4
第9回	子どもの発達とスポーツ・運動	予習として、事前に授業内で提示された子どもの発達とスポーツ・運動のキーワードについて調べる。復習として、配付資料を再読する。	4
第10回	女性とスポーツ・運動	予習として、事前に授業内で提示された女性とスポーツ・運動のキーワードについて調べる。復習として、配付資料を再読する。	4
第11回	高齢者とスポーツ・運動	予習として、事前に授業内で提示された高齢者とスポーツ・運動のキーワードについて調べる。復習として、配付資料を再読する。	4
第12回	運動能力と環境 (高所、喫煙、アルコール)	予習として、事前に授業内で提示された運動能力と環境のキーワードについて調べる。復習として、配付資料を再読する。	4
第13回	生活習慣病と運動	予習として、事前に授業内で提示された生活習慣病と運動のキーワードについて調べる。復習として、配付資料を再読する。	4
第14回	まとめと試験	「試験の要点」のプリントを配付するので、それを基にして他の配付資料とともに予習と復習を進めておく。	4
教科書・参考書等		適宜資料を配付する。	
成績評価方法・基準		2回のまとめの試験 (各 50%) により評価する。	

39	公衆衛生学 LS-B-307	選択 2単位 4年前期	
	Public Health		
4年全組 非常勤講師 未定			
授業の達成目標		授業形態	
健康と社会、環境を相互に関連させながら理解できるようになる。具体的には、衣食住、労働環境、家庭、学校、職場、地域、地球全体までの広範囲な「環境」と保健、医療、福祉の「制度とサービス」が相互に関連して成り立っている社会システムが、「健康」とどのような枠組みや組織の中でつながっているのかを理解し、様々な状況変化に対応した評価方法や健康支援が必要な対象者への情報伝達の方法について考えられる基礎的能力を養う。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
少子・高齢化の進む我が国では、健康をキーワードとした社会のしくみや安全に生活するための環境について、いままです以上に重要視する状況となっている。このような社会情勢の中、人口構造や疾病構造の変化や社会経済システムの変化に伴い、保健医療の内容も生命倫理から健康づくりの方策まで幅広く理解していく必要がある。本講義では、健康の維持と増進を求めて展開される様々な計画や活動の基本となるものの見方や考え方、具体的な方法を基盤として、個々の状況や問題を理解していくための知識を習得する。そのための法律、基準値などその時々々の社会状況により変化する可能性の高い情報や統計数値を外観しながら学習を進めていく。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	授業の概要説明	予習として健康の諸問題に対して自身の考えや対策について考えておくこと。配付した資料の内容を復習し、興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第2回	保健統計、衛生の主要指標	保健統計、衛生の主要指標をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、保健統計、衛生の主要指標において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第3回	疫学	疫学をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、疫学において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第4回	疾病予防と健康管理概論	疾病予防と健康管理概論をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、疾病予防と健康管理概論において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第5回	生活習慣病の予防	生活習慣病の予防をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、生活習慣病の予防において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第6回	環境保健	環境保健をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、環境保健において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第7回	地域保健と保健行政	地域保健と保健行政をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、地域保健と保健行政において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第8回	母子保健	母子保健をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、母子保健において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第9回	学校保健	学校保健をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、学校保健において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第10回	労働衛生	労働衛生をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、労働衛生において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第11回	老人保健・福祉	老人保健・福祉をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、老人保健・福祉において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第12回	精神保健	精神保健をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、精神保健において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第13回	保健医療制度と法規	保健医療制度と法規をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、保健医療制度と法規において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第14回	授業の総括	レポート結果を元にこれまでの学習で不足していた部分を補う。	4
教科書・参考書等			
毎回の授業では資料を配付する。 参考書 シンプル衛生公衆衛生学 2019 (南江堂) 厚生省の指標増刊・国民衛生の動向 2018/2019 (厚生統計協会)			
成績評価方法・基準			
レポート等の試験の成績を踏まえて総合的に評価する。			

40	住まいの造形意匠 LS-C-110	選択 2単位 1年後期	
	Residential Architectural Design 1年全組 教授 大沼 正寛		
授業の達成目標		授業形態	
国内外における住まいの造形意匠の多様な事例を知り、関心を深め、説明することができる。住まいの空間・場と構成部位における造形的特徴、全体と部分の関係について、その意味・目的を理解し、説明することができる。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
生活者や地域社会の視点にたつて空間構成やプランニングを学ぶ「住まいの計画（1年前期）」に続いて、生活を包み込むハードウェアとしての住宅建築の空間および造形意匠に関する基礎知識を概説する。屋根や壁や柱や窓は、なぜそのような形態・素材で造られているのか。その意味や技術的な特徴とは何か。あるいは、まちや集落、市街地、都市といった地域的広がりにはどのような特徴が認められ、仙台・宮城・東北の特徴としてほんのり点が挙げられるのか。序論・住宅歴史地理・造形意匠論の全3部で構成し、住まいを観察する面白さを、主に建築歴史地理学的な観点から多角的に論じていく。 授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。		○ 教職科目（工業）	
		○ 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		○ 実務経験のある教員担当	
当科目は、一級建築士としての建築設計実務や文化財等の保存業務に携わった教員が担当する。すなわち、文化・デザイン史から構成材料まで、住まいの造形意匠に関わる実際的な知見・技術を含めながら、事例的に解説する。		○ アクティブラーニング	
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	原初の住まいと屋根	序論・第1講として、住まいの普遍的形態として屋根に注目し、その概略と特徴・多様性を学ぶ。(予習:前期・住まいの計画の学習内容を復習しておく/復習:講義で採り上げた事例をWEB検索して関心を広げる)	4
第2回	住まいの配置と部位	序論・第2講として、住まいの構成を論じるための基礎知識を学ぶ、とくに敷地内の配置や、建築部位の基礎用語を修得する。(予習:住まいの配置について身の回りを観察しておく/復習:講義で採り上げた事例を書籍検索などを行い関心を広げる)	4
第3回	住宅と建築	造家から建築へ。序論・第3講として、明治初期に先人が探求した住宅と建築の問題を例示し、今日的な課題と比較考察する。(予習:近代の歴史について関連図書を一通り読んでおく/復習:講義で採り上げた事例をもとに関心を広げる)	4
第4回	住宅建築と歴史地理	住宅歴史地理・第1講として、建築学・住居学・家政学の成立背景から、その視点と国内外における諸課題を整理する。(予習:世界および日本の地図を一通り読んでおく/復習:講義で採り上げた事例をもとに関心を広げる)	4
第5回	西洋の住まい	住宅歴史地理・第2講として、西洋の住宅や都市の特徴を断片的に紹介し、その見所を概説する。(予習:世界地図を一通り読んでおく/復習:講義で採り上げた事例をもとに関心を広げる)	4
第6回	東洋の住まい	住宅歴史地理・第3講として、東洋の住宅や都市の特徴を断片的に紹介し、その見所を概説する。(予習:世界地図を一通り読んでおく/復習:講義で採り上げた事例をもとに関心を広げる)	4
第7回	日本の住宅と都市	住宅歴史地理・第4講として、日本の邸宅や都市の特徴を断片的に紹介し、その見所を概説し、3年次「住まいの文化史」への導入とする。(予習:日本地図を一通り読んでおく/復習:講義で採り上げた事例をもとに関心を広げる)	4
第8回	日本民家の多様性	住宅歴史地理・第5講として、日本各地の民家について概説し、3年次「住まいの文化史」への導入とする。(予習:日本地図を一通り読んでおく/復習:講義で採り上げた事例をもとに関心を広げる)	4
第9回	働く住まいー小屋の系譜	住まいとは本来、専用住宅部分を指すのではない。生活・生産に供する全てが重要な要素である。住宅歴史地理・第6講として、そのような付属空間の特徴を考察する。(予習:自宅や実家の住まいの構成を振り返っておく/復習:住まいの配置計画について講義をもとに考察を深める)	4
第10回	家と庭	住まいとは、建物部分のみを指すのではない。家庭の語が示すように、庭園や菜園や外構は極めて重要な要素である。住宅歴史地理・第7講として、それらの特徴を観察する。(予習:自宅や実家の住まいの構成を振り返っておく/復習:住まいの配置計画について講義をもとに考察を深める)	4
第11回	名作住宅の造形意匠	造形意匠論・第1講として、世界的な名作といわれる住宅建築の事例を紹介し、その見所を概説する。(予習:好きな建築や建築家について考察しておく/復習:講義で採り上げた事例をもとに関心を広げる)	4
第12回	文化財建造物の造形意匠	造形意匠論・第2講として、我が国で文化財指定された住宅建築の事例を紹介し、その見所を概説する。(予習:文化財とは何か、WEBで調べておく/復習:講義で採り上げた事例をもとに関心を広げる)	4
第13回	床の間と窓辺の造形意匠	造形意匠論・第3講として、日本住宅・インテリア史における重要な造形意匠要素である床の間と窓辺について、考察を深める。(予習:自宅や実家の和室を観察し記録しておく/復習:講義で採り上げた事例をもとに関心を広げる)	4
第14回	東北の住まいと造形意匠	造形意匠論・第4講として、東北の住まいの造形意匠的特徴として、茅葺き民家とスレート民家を採り上げ、見所を概説する。(予習:自宅や実家の構成を観察し記録しておく/復習:講義で採り上げた事例をもとに関心を広げる)	4
第15回	住まいがつくる「場」	本講義のまとめとして、住まいが育む暮らしと、その場所性について考察を深める。また、それに果たす造形意匠の意味について考える。(予習:自宅や実家の構成を観察し記録しておく/復習:講義で採り上げた事例をもとに関心を広げる)	4
教科書・参考書等			
建築史編集委員会 「コンパクト版 建築史 日本・西洋・近代」 彰国社			
成績評価方法・基準			
講義のなかで行うレポート等の素点と期末試験の得点をもとに、総合的に評価する。			

41	インテリアデザイン LS-C-207	選択 2単位 2年前期	
	Interior Design		
2年全組 教授 武山 倫			
授業の達成目標		授業形態	
インテリアデザインは、空間を室内側からとらえ、生活する人間の側に立って思考し造形する行為である。このため、人間の心理や行動といったソフト面から、人間的スケールでとらえた規模・形態・素材などのハード面まで、広範な知識を総動員する必要がある。当科目では、これを体系的に学び、基礎知識を身につけるとともに、室内空間計画の基礎的な技術を修得することをめざす。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一組に担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
以下の5編で構成する。 1) 歴史編：インテリアデザインの発生から近現代の日本／西洋の住まい・インテリアまで、その変遷過程を概説する。2) デザイン原論編：美しく快適な環境をデザインするための造形原論の要点を概説する。3) 人間工学編：住まいやインテリアの各種要素の規模形態を導出する人間工学と人体寸法、および安全性や空間の心理、形・色・テクスチャーについて解説する。4) エレメント編：家具、テキスタイル、照明、材料と仕上について解説する。5) 材料構成編：インテリアの材料と構成法について解説する。		○ 教職科目（工業）	
		○ 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		○ 実務経験のある教員担当	
当科目は、一級建築士、インテリアデザイナーとして、実務に携わった教員が担当する。すなわち、文化・デザイン史から構成材料まで、インテリアデザインに関わる実際的な知見・技術を含めながら、事例的に解説する。		○ アクティブラーニング	
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	インテリアデザインとは何か：歴史編(1)	インテリアデザインの基本事項と講義予定について概説する。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに自宅のインテリアを確認する)	4
第2回	日本の住まいとインテリア・家具の変遷：歴史編(2)	日本の住まいとインテリア・家具の変遷について概説する。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の和室空間を確認する)	4
第3回	西洋の住まいとインテリア・家具の変遷：歴史編(3)	西洋の住まいとインテリア・家具の変遷について概説する。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の洋室空間を確認する)	4
第4回	デザインの流れと日本の現代家具	スカンジナビア・アメリカ・イタリア・西ドイツ・ポストモダンの流れと著名デザイナーの作品を知る(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに参考図書に掲載された作品群を鑑賞・評価する)	4
第5回	人間工学と人体寸法	設計に必要な人間工学と人体寸法について学ぶ。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに参考図書に掲載された作品群を鑑賞・評価する)	4
第6回	家具・設備への人間工学の応用	椅子・ベッド・室内の高さ寸法について学ぶ。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに参考図書に掲載された作品群を鑑賞・評価する)	4
第7回	インテリアの安全性	人間工学と人体および生理について概説する。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の家具や設備と人体寸法を確認する)	4
第8回	形・色・テクスチャーの心理	デザインの三要素を知り、見え方の心理と色彩の効果について考察する。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の人間の尺度と空間の心理について再考する)	4
第9回	人間的尺度と空間の心理	モジュールと木割りを学び行動動作特性と退避距離などの心理について考察する。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の形・色・テクスチャーと心理について再考する)	4
第10回	家具デザイン：インテリアエレメント(1)	家具デザインについて名作といわれる作品を知る(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに汎用されている家具や設備について再考する)	4
第11回	家具とテキスタイル：インテリアエレメント(2)	インテリアデザインの要素(エレメント)として、家具とテキスタイルのデザインの基礎を学ぶ。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の家具やテキスタイルのデザインを観察・考察する)	4
第12回	照明とサイン：インテリアエレメント(3)	インテリアデザインの要素(エレメント)として、照明とサインのデザインの基礎を学ぶ。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の照明や市街地のサインのデザインを観察・考察する)	4
第13回	グリーン・アート：インテリアエレメント(4)	インテリアデザインにおける材料と仕上の基礎を学ぶ。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに自宅のインテリアエレメントの材料・仕上を観察・考察する)	4
第14回	インテリアの構成法：インテリア材料・構成	インテリアデザインにおける構成法の基礎を学ぶ。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに自宅のインテリアエレメントの構成法を観察・考察する)	4
第15回	インテリアデザイン・まとめ	これまでの講義内容を総括し、インテリアデザインへの関心を深める。(予習：講義ノートを再読しておく／復習：講義内容を総括し試験等に備える)	4
教科書・参考書等			
[インテリアデザイン教科書] 彰国社 ISBN978-4-395-00890-2			
成績評価方法・基準			
毎回のミニ演習および期末試験等をもとに総合的に評価する。			

42	住まいの文化史 LS-C-208	選択 2単位 2年後期	
	History and Culture of Dwelling Houses		
2年全組 教授 小山 祐司			
授業の達成目標		授業形態	
居住空間を中心とした空間造形及び空間概念の変容について、そのバックグラウンドとともに理解できること。居住空間に関わる諸現象・諸概念を基礎的専門用語を用いて記述できること。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一組に担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
日本における住まいを中心に、その生活様式や空間に対する感性の変遷を、古代から現代までについて概説する。更に、西欧の住まいとの比較も行う。これらを通して、住まいにおける、より質の高いアメニティーの在り方を考える。具体的には、まず、古代から近代そして現代までの居住空間がどのように変容してきたのかを学び、現代の住まいの在り様を考える。更に、空間概念の変遷を、①主体と客体の空間構成の変化、②ハレとケの分節と「しつらい」による場の転換、③上位・下位、表・奥などの空間序列や空間概念、④モダニズム以後の空間概念、などを中心にして考える。さらに、江戸時代の多様な住まいの展開の事例として、東北地方と宮城県や仙台市近郊の住宅遺構について学ぶ。		○ 教職科目 (工業)	
		○ 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	住宅の今日的な問題点について	予習:日本の現代住宅について参考書などを利用し調べておくこと。復習:配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4
第2回	住宅における空間デザイン手法について	予習:講義要録や参考書を基に、住宅の空間デザインについて調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第3回	原始時代から奈良時代	予習:講義要録や参考書を基に、奈良時代までの住宅について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第4回	平安時代における寝殿造の完成	予習:講義要録や参考書を基に、寝殿造りまでの住宅について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第5回	平安時代における寝殿造の変容	予習:講義要録や参考書を基に、寝殿造りの変化について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第6回	平安時代における空間概念ハレとケ、礼について	予習:講義要録や参考書を基に、寝殿造りにおけるハレとケについて調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第7回	中世における主殿造について	予習:講義要録や参考書を基に、主殿づくり住宅について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第8回	中世における主殿造から書院造への変容	予習:講義要録や参考書を基に、書院造りまでの住宅について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第9回	中世から近世における空間概念 上と下について	予習:講義要録や参考書を基に、書院造りにおける「上と下」について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第10回	中世から近世における空間概念 表と奥について	予習:講義要録や参考書を基に、書院造りにおける「表と奥」について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第11回	草庵茶室と数寄屋造について	予習:講義要録や参考書を基に、茶室と数寄屋について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第12回	近世における様々な階層の居住空間の様態農民と町人の住まい	予習:講義要録や参考書を基に、江戸時代の種々の住宅について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第13回	近世における様々な階層の居住空間の様態侍の住まい	予習:講義要録や参考書を基に、江戸時代の侍住宅について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第14回	近代における西欧化から住宅改良へ	予習:講義要録や参考書を基に、日本の近代住宅について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第15回	まとめと試験	予習:第14回までの講義内容を復習し試験の準備を行うこと。復習:試験の講評を参考に不十分だった内容を復習すること。	4
教科書・参考書等			
教科書	特に指定しない。適時、教員自作資料を配付する。		
参考書	「日本デザイン論」伊藤ていじ著 SD 選書 「日本建築の空間」井上充夫著 SD 選書 「図説・近代日本住宅史」内田青蔵 他著 鹿島出版会		
成績評価方法・基準			
まとめの試験(定期試験)により評価を行う。			

43	都市計画 LS-C-308	選択 2単位 3年前期	
	City and Regional Planning		
3年全組 非常勤講師 未定			
授業の達成目標		授業形態	
人々の暮らしを包み込む様々な地域と、より高密度に集合・連動する都市。都市の複雑な事象を把握するには、世界から日本まで、その風土・産業・制度、まちづくり、コミュニティ論に至る広範な知識を必要とする。本講義では、現代の都市計画とその制度を概説しつつ、身近な地方都市・仙台のまちづくり事例を採りあげ、そのかたちとしくみを説明できるようになることを目標とする。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
全3部で構成する。第1部では、古今東西の都市・地域の成立ちを参照しつつ、都市計画に関わる基礎概念と諸制度を学ぶ。第2部では、まちづくりと地域コミュニティに視点を移し、仙台・宮城・東北の各地を具体事例として紹介・観察し、内在する構成要因、現場の課題と解決策を考える。第3部では、現代的な課題である市街地の再編や都市再生の課題に触れ、新たな都市づくりについて関心を深めていく。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="radio"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	現代都市と都市計画の課題	第1部(1)。現代都市の抱える諸問題と都市計画の重要性を考える。(予習:都市とは何か、関連講義の手近な資料から予習しておく/復習:都市計画の課題を地元の例に照らして考察を深める)	4
第2回	古代・近代の都市計画	第1部(2)。古代・近代の都市の歩みと、その背景および計画内容について学ぶ。(予習:世界地図を予習する/復習:古代・近代都市の事例を想起できるよう講義内容を復習する)	4
第3回	居住地・人口動態と土地利用	第1部(3)。都市計画の前提となる、居住地・人口動態および土地利用の基本的考え方を学ぶ。(予習:仙台市の人口構成を調べ、また地図を一読しておく/復習:居住地や土地利用に関する講義内容を復習する)	4
第4回	日本の都市計画	第1部(4)。日本の都市計画の特徴について、歴史地理的背景や近代都市基盤の成立過程から考察を深める。(予習:日本各地の主要都市の地理について予習をしておく/復習:講義内容をもとに諸都市の特徴を比較考察する)	4
第5回	農村地域の計画	第1部(5)。かつて都市と対比され、現在は共生が期待されている農村地域特有の計画概念を学ぶ。(予習:地方の人口減少と地域おこしの事例について下調べをしておく/復習:農村地域の人口減少と再生計画に関する講義内容を復習する)	4
第6回	都市計画法－計画とゾーニング	第1部(6)。前5回をふまえ、現在運用されている都市計画法の基本について、とくに計画とゾーニングの観点から学ぶ。(予習:仙台市の地図を一読しておく/復習:計画とゾーニングに関する講義内容を復習する)	4
第7回	都市計画法－事業と規制	第1部(7)。前回に続き、現在運用されている都市計画法の基本について、とくに事業と規制の観点から学ぶ。(予習:仙台市の地図を一読しておく/復習:事業と規制に関する講義内容を復習する)	4
第8回	ミクロの都市計画	第2部(1)。前7回の広域的な計画論に対して、より詳細な地域的観点が必要となる計画概念について学ぶ。(予習:仙台市の地図を眺め、より小さな単位の地域がどのように違うかを推察しておく/復習:ミクロの都市計画に関する講義内容を復習する)	4
第9回	景観計画とまちづくり	第2部(2)。地域計画の典型的な課題として、景観計画を採りあげ、まちづくりの考え方と課題について学ぶ。(予習:日本各地の景観まちづくりに関する時事的話題を予習しておく/復習:景観まちづくりに関する講義内容を復習する)	4
第10回	仙台の都市交通と景観まちづくり (前編)	第2部(3)。仙台の都市交通の特徴について、実地見学を通して学ぶ。(予習:仙台市の地図を眺め、交通計画と地域の特徴を予習しておく/復習:実地と講義内容の合致点や相違点を考察する)	4
第11回	仙台の都市交通と景観まちづくり (後編)	第2部(4)。仙台の景観まちづくりの特徴について、実地見学を通して学ぶ。(予習:仙台市の地図を眺め、交通計画と地域の特徴を予習しておく/復習:実地と講義内容の合致点や相違点を考察する)	4
第12回	都市交通とまちづくり	第2部(5)。国内外の都市交通とまちづくりの多様なあり方について、比較考察を通して学ぶ。(予習:国内外各地の時事的都市問題について予習しておく/復習:都市交通とまちづくりに関する講義内容を復習する)	4
第13回	コミュニティとまちづくり	第2部(6)。まちづくりにおける重要課題である地域コミュニティの育成プロセスや諸課題について、その基礎論を学ぶ。(予習:各地のまちづくりとコミュニティに関する時事的話題について予習しておく/復習:コミュニティ形成・育成とその課題について講義内容をもとに考察を深める)	4
第14回	市街地の開発と再編	第3部。市街地の再編に関わる課題を解決するための行政中心の都市計画と、民間中心のまちづくり、およびその共創について考える。(予習:市街地再編について予習しておく/復習:市街地の開発・再編に関する講義内容を復習する)	4
教科書・参考書等			
「都市計画学：変化に対応するプランニング」 学芸出版社 2018年			
成績評価方法・基準			
筆記試験、レポート等を総合的に評価する予定			

44	都市と住宅の法制度 LS-C-309	選択 2単位 3年後期	
	Low Systems for Housing and City Planning		
3年全組 非常勤講師 増田 豊文			
授業の達成目標		授業形態	
住まいの計画や建築に必要な法令の概要を認識し、安全性や快適性に関する基本的知識の養成と備えるべき社会的責任について理解する。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
建築基準法および関連法規を理解するうえで重要な用語や定義について、図や写真等を交え解説するとともに、法制定の背景や課題等について概説し、理解の補助に資する。授業運営は、理解度を高めるため、随時演習を交える。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
講師は、民間建築から公共建築まで、豊富な建築設計の実務経験を有しており、住宅だけでなく公的な建築物についても、幅広く教育を行っていく。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	建築・住宅関連法令の概要と読解ルール	講義の全体像と基本となる法令の位置づけを学ぶ。(予習:憲法や民法の基本について下調べをしておく/復習:配付資料を再読し法令制定の背景・必要性を認識する)	4
第2回	建築基準法の概要と基礎用語	建築基準法とは何か、その基礎について学ぶ。(予習:建築基準法第1条および第2条を読み予習する/復習:配付資料「法の目的・用語の定義」を再読し学習内容の復習をする)	4
第3回	単体規定1 敷地・構造および設備	建築基準法における単体規定のうち、建築物の敷地・構造および設備に関する条項について学ぶ。(予習:配付資料「単体規定の概要」を読み/予習する/復習:参考書「構造強度・建築設備に関する規定」を読み、学習内容で不確実な部分を復習する)	4
第4回	単体規定2 外力に対する構造安全	建築基準法における単体規定のうち、建築物に対する外力・荷重と、これに対する構造安全に関する条項について学ぶ。(予習:配付資料「構造耐力上の安全性」を読み、予習する/復習:配付資料により木造の壁量計算を解き、学習内容で不確実な部分を復習する)	4
第5回	単体規定3 一般構造と建築設備	建築基準法における単体規定のうち、建築物の一般構造と建築設備に関する条項について学ぶ。(予習:配付資料「一般構造・建築設備関係規定の目的」を読み、予習する/復習:演習問題の解答例を読み、学習内容で不確実な部分を復習する)	4
第6回	単体規定4 防火と避難	建築基準法における単体規定のうち、建築物の防火と避難に関する条項について学ぶ。(予習:配付資料「防火・避難規定の構成」を読み、予習する/復習:演習問題を解き、学習内容で不確実な部分を復習する)	4
第7回	単体規定5 避難施設その他	建築基準法における単体規定のうち、避難施設その他に関する条項について学ぶ。(予習:配付資料「防火・避難規定の構成」を読み、予習する/復習:配付資料「避難施設等」を読み、学習内容で不確実な部分を復習する)	4
第8回	集団規定1 都市計画区域と建築制限	建築基準法における集団規定のうち、都市計画区域と建築制限について学ぶ。(予習:配付資料「集団規定の趣旨」を読み、予習する/配付資料「都市計画法と建築基準法等」を読み、学習内容で不確実な部分を復習する)	4
第9回	集団規定2 用途地域・防火地域	建築基準法における集団規定のうち、用途地域や防火地域について学ぶ。(予習:配付資料「用途地域の種類と特色」を読み、予習する/演習課題「自分の住むまちの建物群と特色」についてレポートし、用途地域等に関する学習内容と比較考察する)	4
第10回	集団規定3 建築物の形態制限(1)面積と高さ	建築基準法における集団規定のうち、面積と高さに着目した建築物の形態制限について学ぶ。(予習:配付資料「形態規制の方法と目的」を読み、予習する/復習:演習問題の解答例を読み、学習内容で不確実な部分を復習する)	4
第11回	集団規定4 建築物の形態制限(2)斜線・日影と外壁後退	建築基準法における集団規定のうち、斜線制限や日影斜線、外壁後退に着目した建築物の形態制限について学ぶ。(予習:配付資料「建築物の高さ制限」を読み、予習する/復習:配付資料「建築物の高さ制限」を再読し、学習内容の復習をする)	4
第12回	集団規定5 住まいとまちづくり	建築基準法における集団規定のうち、斜線制限や日影斜線、外壁後退に着目した建築物の形態制限について学ぶ。(予習:配付資料「土地利用に関する計画の種類」を読み、予習する/復習:配付資料「制度一覧」を読み、学習内容の復習をする)	4
第13回	建築工事と建築確認	まとめの第1回分として、建築工事と建築確認および申請業務について学ぶ。(予習:配付資料「建築基準法の手続き」を読み、予習する/復習:演習問題の解答を読み、学習内容の復習をする)	4
第14回	住まいの関連法規	まとめの第2回分として、住まいと都市・地域にかかる関係法令の概要と体系について学ぶ。(予習:参考書「住宅・宅地関係法・建築士法」を読み、予習する/復習:演習問題の解答を読み、学習内容の復習をする)	4
教科書・参考書等			
図説 やさしい建築法規 (学芸出版社)			
成績評価方法・基準			
学期末試験と中間試験及び、授業中に随時実施する演習課題を総合的に判断する。			

45	住まいの施工と積算 LS-C-310	選択 2単位 4年前期	
	Building Construction and Estimation		
4年全組 非常勤講師 野津 弘			
授業の達成目標		授業形態	
住宅・建築を具現化するための建築施工・建築施工管理および建築積算について、その考え方と基礎知識・技術を修得し、当該関連分野における探求力を涵養するとともに、実務遂行力の素地を形成する。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
建築施工の概要、管理の実際、工種と職種、契約と見積および積算手法について、具体的な資料や施工写真を見ながら学習する。 授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。		<input type="radio"/> 教職科目 (工業) <input type="radio"/> 教職科目 (情報) <input type="radio"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
担当教員は、建築士として、また建築設計事務所における設計実務に従事した実績と経験を活かして、授業において企画・設計・デザイン等の建築設計にかかわる実務への対応力を養成する。		<input type="radio"/> アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	建築施工・建築施工管理・建築積算	住宅を含む建築物の施工と管理および積算に関する基礎概念を学ぶ。(予習: シラバスおよび教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに基礎用語を整理し復習する)	4
第2回	工種と職種	建築施工における工種と職種に関する基礎概念、建築技術者の特徴について学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読し、建築職人について事前に考察しておく/復習: 講義をもとに工種と職種について復習する)	4
第3回	建設事業における契約・見積	建設事業のしくみ、ステークホルダーと、これを取り結び契約および見積のしくみについて学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに契約と見積について復習する)	4
第4回	建築施工の計画と管理/監理	建築施工における計画と管理/監理に関する基礎概念について学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読し、建築職人について事前に考察しておく/復習: 講義をもとに工種と職種について復習する)	4
第5回	各種工事 (1) 仮設工事	建築施工における各種工事のうち、仮設工事の実際について学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
第6回	各種工事 (2) 土工事・地業工事	建築施工における各種工事のうち、土工事・地業工事の実際について学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
第7回	各種工事 (3) 鉄筋コンクリート工事・鉄骨工事	建築施工における各種工事のうち、鉄筋コンクリート工事・鉄骨工事の実際について学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
第8回	各種工事 (4) 木工事・木質系工事	建築施工における各種工事のうち、木工事・木質系工事の実際について学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
第9回	各種工事 (5) 内外装工事・仕上工事	建築施工における各種工事のうち、内外装工事・仕上工事の実際について学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
第10回	各種工事 (6) 設備その他附帯工事	建築施工における各種工事のうち、設備その他附帯工事の実際について学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
第11回	積算の基礎 (1) 建築工事のマネジメントと人件費の考え方	建築工事の全体的なマネジメントについて考察し、とくに人工と人件費の考え方について学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
第12回	積算の基礎 (2) 鉄筋コンクリート工事における部材の数量化	建築積算の具体例として、とくに鉄筋コンクリート工事における部材の数量化を題材として、その扱いと概算を体験的に学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
第13回	積算の基礎 (3) 木造住宅における部材の数量化	建築積算の具体例として、とくに木造住宅における部材の数量化を題材として、木扱いと材積および工事費の関係を体験的に学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
第14回	積算の基礎 (4) 仕上工事における材料の数量化 施工と積算のまとめ。	建築積算の具体例として、とくに仕上工事における材料の数量化を題材として、工事面積の扱いや人工数の計算を体験的に学ぶ。施工と積算のまとめ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
教科書・参考書等			
「建築構法」市ヶ谷出版 内田祥哉・他 「建築施工」彰国社 建築施工教科書研究会			
成績評価方法・基準			
授業中に出席する課題レポートをもとに、総合的に評価する。			

46	住まいの環境工学 LS-C-311	選択 2単位 3年後期	
	Engineering of Energy Saving House 3年全組 准教授 高木 理恵		
授業の達成目標		授業形態	
音、光、色彩の物理量としての表し方とその意味、それらの物理量と人間の感覚量との関係、音環境と光環境のデザインに必要な計算方法（残響計算、照明計算など）について理解する。また、空気のきれいな住まい、静かな住まい、明るい住まいを実現するための手法、住まいの色彩計画などを考察する。		○ 単独 (1人が全回担当) ○ 複数 (1回の授業を2人以上が一纏めに担当) ○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) ○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
住まいは過酷な自然環境の中につくられる一種のシェルターと捉えることができ、生活空間に適切な物理的環境をデザインするための学問が「建築環境工学」である。本講では、自然環境の物理的環境要素である空気、音、光をどのように利用または制御して快適で健康的な住まいの環境を作り出すのかを取り上げる。		○ 教職科目（工業） ○ 教職科目（情報） ○ 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		実務経験のある教員担当 アクティブラーニング	
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	空気のきれいな住まい（1）室内空気汚染とシックハウス	予習として、自分の身の周りの空気環境問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、室内空気汚染物質とシックハウス問題についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第2回	空気のきれいな住まい（2）換気計画の重要性	予習として、換気の意義について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、換気の種類と方式についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第3回	静かな住まい（1）音と聴覚	予習として、自分の身の周りの音環境問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、音の性質についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第4回	静かな住まい（2）音の三要素とその表し方	予習として、音の三要素について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、音の物理量としての表し方とその意味、その物理量と人間の感覚量との関係についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第5回	静かな住まい（3）室内音響	予習として、室内で正しい音情報を得るための方法について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、室内音響における残響の重要性と残響計算法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第6回	静かな住まい（4）騒音の評価	予習として、住まいにおける騒音問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、騒音の評価と防止策についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第7回	静かな住まい（5）音環境のデザイン	予習として、音環境のデザインについて考える。復習として、授業で配付された資料を再読み、静かな住まいを実現する手法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第8回	明るい住まい（1）光と視環境	予習として、自分の身の周りの光環境問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、光の性質、物理量としての表し方とその意味、その物理量と人間の感覚量についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第9回	明るい住まい（2）昼光光源と採光	予習として、太陽による昼間の明るさの表し方について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、昼光率と採光率の計算法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第10回	明るい住まい（3）人工光源と照明	予習として、人工光源の種類と用途について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、人工光源を用いた照明設計法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第11回	明るい住まい（4）グレアとその防止	予習として、快適な光環境について考える。復習として、授業で配付された資料を再読み、グレアとその防止策についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第12回	明るい住まい（5）光環境のデザイン	予習として、光環境のデザインについて考える。復習として、授業で配付された資料を再読み、明るい住まいを実現する手法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第13回	住まいの色彩計画	予習として、自分の身の周りの色彩の問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、色彩の心理的な効果とデザインについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第14回	まとめと試験	予習として、全ての授業内容を整理する。復習として、試験問題をおさらいする。	4
教科書・参考書等			
参考書 田中俊六ほか：最新建築環境工学 井上書院 乾 正男：建築の色彩設計 鹿島出版会			
成績評価方法・基準			
課題レポートの提出と試験で総合的に判断する。			

47	住まいの設備計画 LS-C-312	選択 2単位 3年後期	
	House Equipment Design		
3年全組 教授 武山 倫 ほか			
授業の達成目標		授業形態	
空気調和設備、給排水衛生設備、電気設備の仕組み、設備の省エネルギー計画の必要性を理解し、住まいの設計を行う際に各設備の位置づけを考察できるようになる。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input checked="" type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
<p>「住環境の基礎科学」「住まいの環境工学」で学んだ生活空間の環境デザインと関連づけながら、快適で健康的な住まいの環境を作り出すために必要な空気調和設備、日々の生活に必要な給排水衛生設備、電気設備について基礎事項を学び、設備の省エネルギー計画の必要性に対する理解を深める。</p> <p>授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。</p>		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当	
本科目では、一級建築士ら、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。		<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	住まいの設備の概要	予習として、自分の住まいの設備について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、講義の目的と設備計画の意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第2回	空気調和設備 (1) 空気調和設備の概要	予習として、自分の身の周りにおける空気調和設備について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、空気調和設備の役割についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第3回	空気調和設備 (2) 空気調和プロセス	予習として、「住環境の基礎科学」で学んだ空気線図の読み方を確認する。復習として、授業で配付された資料を再読し、暖房・冷房時の空気線図上の動きについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第4回	空気調和設備 (3) 熱負荷の計算法	予習として、「住環境の基礎科学」で学んだ熱負荷について確認する。復習として、授業で配付された資料を再読し、暖房負荷と冷房負荷の計算法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第5回	空気調和設備 (4) 空気調和の方式と特徴	予習として、自分の身の周りにおける空気調和設備の方式について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、空気調和の方式と特徴についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第6回	空気調和設備 (5) 熱源設備とダクト設備	予習として、自分の身の周りにおける空気調和設備の熱源設備について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、熱源設備とダクト設備の役割と方式についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第7回	給排水衛生設備 (1) 給排水衛生設備の概要	予習として、自分の身の周りにおける給排水衛生設備について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、給排水衛生設備の役割についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第8回	給排水衛生設備 (2) 給水設備と給湯設備の種類と特徴	予習として、自分の身の周りにおける給水設備と給湯設備の種類について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、給水設備と給湯設備の種類と特徴についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第9回	給排水衛生設備 (3) 排水の種類と排水方式	予習として、自分の身の周りにおける排水設備について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、排水の種類と排水方式についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第10回	電気設備 (1) 電気設備の概要	予習として、自分の身の周りにおける電気設備について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、電気設備の役割についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第11回	電気設備 (2) 照明・コンセント設備	予習として、自分の身の周りにおける照明・コンセント設備について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、照明・コンセント設備の種類としくみについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第12回	省エネルギー設備	予習として、自分の身の周りにおける省エネルギー設備について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、省エネルギー設備の意義と種類についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第13回	自然エネルギー利用設備	予習として、自分の身の周りにおける自然エネルギー利用設備について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、自然エネルギー利用設備の意義と種類についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第14回	設備の図面表現/まとめと最終レポート	予習として、自分の住まいの設備の設置場所について調べる。全ての授業内容を整理する。復習として、授業で配付された資料を再読し、設備の図面表現についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。最終課題を振り返る。	4
教科書・参考書等			
参考書 田中俊六ほか：最新建築環境工学 井上書院 「建築の設備」入門編集委員会編著：「建築の設備」入門 彰国社 日本建築学会編：建築環境工学用教材 設備編 日本建築学会			
成績評価方法・基準			
課題レポートの提出で判断する。			

48	地域環境の保全とエネルギー	LS-C-403	選択 2単位 4年前期
	Energy and Ecology of Regional Environment		
4年全組 教授 未定			
授業の達成目標		授業形態	
地域を取り巻く環境の理解のため、地球システム（気圏・水圏・地圏）と地域との関わりを理解し、環境保全および省資源・省エネルギーのために、私達自身が地域で考え対処しなければならないことを学ぶ。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
近年の産業経済社会の変化、とくに情報技術の飛躍的な発展は、我々の生活様式を多様化させる一方で、都市といわず農村といわず、生活水準だけは横並びの高度化を求める傾向を作り出し、その結果、エネルギー消費を増大させ、全体として地域環境の保全とは逆行する環境上の悪循環を招いている。そこで、本講では、地域環境を良好に維持しながら環境負荷を低減できるような生活デザイン手法について、環境共生の考え方を織り交ぜながら解説する。		<input type="radio"/> 教職科目（工業） <input type="radio"/> 教職科目（情報） <input type="radio"/> 地域志向科目 <input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="radio"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	地域と環境	予習として、自分の身の周りの地域と環境について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、地域と環境の関わりについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第2回	気圏の概要	予習として、気圏について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、気圏の構造と循環についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第3回	大気汚染と地域	予習として、大気汚染問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、大気汚染と地域の関わり、大気汚染の防止策についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第4回	地球温暖化とエネルギー消費	予習として、地球温暖化問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、地球温暖化とエネルギー消費の関わり、地球温暖化の防止策についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第5回	水圏の概要	予習として、水圏について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、水圏の構造と循環についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第6回	水汚染と地域	予習として、水汚染問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、水汚染と地域の関わり、水汚染の防止策についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第7回	地圏の概要	予習として、地圏について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、地圏の構造と循環についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第8回	土壌汚染・資源循環と地域	予習として、土壌汚染問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、土壌汚染・資源循環と地域の関わり、土壌汚染の防止策、省資源の意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第9回	生態系保全と地域	予習として、生態系について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、生態系と地域の関わり、生態系保全の意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第10回	地域景観の保全	予習として、自分の身の周りの地域景観について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、地域景観の保全の意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第11回	都市のインフラ・ストラクチャー	予習として、自分の身の周りのインフラ・ストラクチャーについて調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、都市のインフラ・ストラクチャーのしくみについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第12回	気候風土と地域のデザイン	予習として、自分の身の周りの気候風土について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、気候風土と地域のデザインの関わりについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第13回	気候風土と住まいのデザイン	予習として、気候風土と自分の住まいのデザインの関わりについて考える。復習として、授業で配付された資料を再読み、気候風土と住まいのデザインの関わりについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第14回	環境共生のための生活デザイン	予習として、環境共生の意義について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、環境共生のための生活デザインの手法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
教科書・参考書等			
教科書 「ニッポン景観論」(アレックス・カー) 「里山資本主義」(藻谷浩介) 以上2点 参考書等 「地球環境建築のすすめ」(日本建築学会編) 「歩きたくなるまちづくり」(伊藤滋) ほかに適宜資料を配付します。			
成績評価方法・基準			
課題レポートの提出で判断する。			

49	住まいの力学基礎 LS-C-113	選択 1単位 2年前期 (集中講義)	
	Basic Mechanics of Building Structure		
2年全組 非常勤講師 益野 英昌			
授業の達成目標		授業形態	
住まいの安全を保つために必要な工学的知識技術の素養として、建築物に働く様々な外力・荷重と、これに対する反力・応力およびひずみ・変位といった力学的挙動を理解するために必要な力学の基礎的内容を修得する。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
まず、基礎物理における力学の内容をふまえながら、力の合成・分解やつり合い、示力図、連力図、偶力、力のモーメントなどを理解する。次いで、建物の主要部材に働く外力・荷重と、力の釣合い、支点と支点反力、片持ち梁や単純梁の応力といった基本問題を解きながら理解する。授業においては、内容についての講義とともに、演習を積み重ね、理解度をチェックしながら進める。		教職科目 (工業)	
		地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	力学における単位と換算	基礎物理および建築構造力学系統における単位と換算について学ぶ。(予習:力学系の単位について調べておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第2回	速度と加速度、質量と力	基礎物理における速度、加速度、質量、力について確認し、住まいの力学を学ぶための素養を身につける。(予習:速度、加速度、質量、力に関する基礎物理について調べておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第3回	運動量とエネルギー	基礎物理における運動量とエネルギーについて確認し、住まいの力学を学ぶための素養を身につける。(予習:運動量とエネルギーに関する基礎物理について調べておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第4回	弾性力・摩擦力・浮力	基礎物理における弾性力(フックの法則)や摩擦力、浮力について確認し、住まいの力学を学ぶための素養を身につける。(予習:弾性力・摩擦力・浮力に関する基礎物理について調べておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第5回	構造物の安全と構造モデル	構造物の安全と構造モデルについて、その基本を学ぶ。(予習:建築部位と構造安全について事前に考察しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第6回	地震被害と耐震・免震・制振構造の原理	地震被害と耐震・免震・制振構造の原理について、その基本を学ぶ。(予習:耐震・免震・制振構造について事前に考察しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第7回	建築物に働く力	建築物に働く外力・荷重や、これに対応して生じる力について、その基本を学ぶ。(予習:建築物に働く力について、教科書を予習しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第8回	力と力のモーメント	建築物に働く力と力のモーメントについて、その基本を学ぶ。(予習:力と力のモーメントについて、教科書を予習しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第9回	力の合成と分解	力の合成と分解について、その基本を学ぶ。(予習:力の合成と分解について、教科書を予習しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第10回	力学問題の解法と示力図・連力図・偶力	力学問題の解法と示力図・連力図・偶力について、その基本を学ぶ。(予習:示力図・連力図・偶力について、教科書を予習しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第11回	力のつり合いと支点・支点反力	力のつり合いと支点・支点反力について、その基本を学ぶ。(予習:力のつり合いと支点・支点反力について、教科書を予習しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第12回	反力の計算	反力の計算について、その基本を学ぶ。(予習:反力の計算について、教科書を予習しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第13回	部材に働く応力	部材に働く応力について、その基本を学ぶ。(予習:部材に働く応力について、教科書を予習しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第14回	反力と応力	構造物の反力と部材に働く応力について、反復的に学ぶ。(予習:反力・応力について復習しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第15回	構造モデル・梁とトラスとラーメン	前14回までの講義内容を総括しつつ、後期「住まいの構造力学」に備え、構造モデルの基本について学ぶ。(予習:前14回までの講義内容を復習しておく/復習:演習問題を中心に、講義の全容をふりかえる)	1
教科書・参考書等			
教科書:和田章ほか「First Stage シリーズ 建築構造設計概論」実教出版 このほか適時、教員自作資料を配付する。 参考書 未定			
成績評価方法・基準			
期末試験もしくはこれに相当する総合演習と、随時実施する演習により、総合的に評価する。			

50	住まいの構造力学 LS-C-210	選択 2単位 2年後期 (集中講義)	
	Mechanics of Building Structure		
2年全組 非常勤講師 益野 英昌			
授業の達成目標		授業形態	
前期「住まいの力学基礎」に続いて、住まいの安全を保つために必要な工学的知識技術を身につける。住まいを含む建築の主要な構造モデルおよび構成部材に加わる外力・荷重と反力、内部に生じる応力の原則を理解し、梁の反力や応力に代表される構造力学問題を解くことができる。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
まず、梁材やトラス、ラーメンといった構造力学モデルとその応力について、演習問題を解きながら学ぶ。的挙動について学ぶ。次いで、応力が生じている部材の断面に着目し、設計に必要な各種係数・数値等を学ぶ。さらに、外力に対する力学的挙動としてのたわみや座屈に触れ、構造設計の学びに必要な基礎知識・技術を修得していく。		教職科目 (工業)	
		地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	構造力学モデルと応力	「住まいの力学基礎」に続き、構造力学モデルとその応力に関する基礎知識を学び、以降の準備とする。(予習:住まいの力学基礎の学習内容を復習しておく/復習:教科書・参考書を一読し学習計画をたてる)	4
第2回	片持梁の応力	構造力学モデルの一つとして片持梁を挙げ、荷重に対して生じる反力と応力について、演習を交えて学ぶ。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第3回	静定トラスの応力	構造力学モデルの一つとして静定トラスを挙げ、荷重に対して生じる反力と応力について、演習を交えて学ぶ。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第4回	静定梁の応力	構造力学モデルの一つとして静定梁(片持梁と単純梁)を挙げ、荷重に対して生じる反力と応力およびその解法について、演習を交えて学ぶ。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第5回	トラス骨組みの応力	構造力学モデルの一つとしてトラス骨組みを挙げ、荷重に対して生じる反力と応力およびその解法について、演習を交えて学ぶ。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第6回	静定ラーメンの応力	構造力学モデルの一つとして静定ラーメンを挙げ、荷重に対して生じる反力と応力およびその解法について、演習を交えて学ぶ。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第7回	不静定骨組み	構造力学モデルの一つとして不静定骨組みを挙げ、荷重に対して生じる反力と応力およびその解法について、演習を交えて学ぶ。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第8回	部材の断面と応力・応力度	構造部材の断面に着目し、生じている応力・応力度の基礎概念について、演習を交えて学ぶ。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第9回	断面積・図心・断面1次モーメント	構造部材の断面に着目し、断面積・図心・断面1次モーメントの基礎概念について、演習を交えて学ぶ。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第10回	断面2次モーメント・断面係数・断面2次半径	構造部材の断面に着目し、断面2次モーメント・断面係数・断面2次半径の基礎概念について、演習を交えて学ぶ。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第11回	梁のたわみ	荷重を受ける梁材の挙動としての「たわみ」と生じている応力の関係について、演習を交えて学ぶ。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第12回	柱の座屈と引抜き	柱材に作用する軸方向の荷重に着目し、圧縮時の座屈、引張時の引抜き(端部や金物の破壊・外れ)とその力学的挙動について、演習を交えて学ぶ。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第13回	崩壊荷重と固有周期	構造物にかかる荷重の限界や、水平力に対する振動および周期について、演習を交えて学ぶ。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第14回	木造住宅の耐力壁設計と構造計算	木造住宅の耐震性を高める簡易な耐力壁設計の基本と、本来的な構造設計の違いについて、演習を交えて学ぶ。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第15回	構造設計について	構造力学および耐震・制振構造設計の概要について理解し、構造設計の実際について考察しながら、これまでの学習内容を総括する。(予習:前14回の学習内容をふりかえっておく/復習:15回の学習内容をふりかえり、とくに力学問題の解法を反復的に復習する)	4
教科書・参考書等			
教科書:和田章ほか「First Stage シリーズ 建築構造設計概論」実教出版 このほか適時、教員自作資料を配付する。			
成績評価方法・基準			
期末試験もしくはこれに相当する総合演習と、随時実施する演習により、総合的に評価する。			

51	住まいの材料実験 I	LS-C-211	選択 1単位 3年前期
	Experiments in Building Materials I		
3年全組 非常勤講師 北辻 政文			
授業の達成目標			授業形態
建築物の構造材料として用いられるコンクリート・木材・鋼材の基本的な性質を経験的に理解する。また、各材料の試験方法及びデータのまとめ方を習得する。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
「建築材料Ⅰ・Ⅱ」で学んだコンクリート、鋼材、木材を対象として、これらに求められている「構造安全性に係わる性質」について、所定の材料試験を実際に行いながら、経験的に学んでゆく。また、実験で得られたデータをもとにして、外力に対する性状を把握するための様々な項目について、計算演習を行いながら、実践的に学ぶ。			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	プロローグ	教科書・資料を通読しながら予習する。これまでに学んだ建築構造材料の特質に関する部分について復習しておく。	1
第2回	木材の曲げ試験① (測定)	教科書「木材の曲げ試験」に関わる項を参照しながら予習する。講義の際に記した講義ノートをまとめながら復習する。	1
第3回	木材の曲げ試験② (計算)	教科書「木材の曲げ試験」に関わる項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第4回	鋼材の引張試験① (測定)	教科書「鋼材の引張試験」に関わる項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第5回	鋼材の引張試験② (計算)	教科書「鋼材の引張試験」に関わる項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第6回	コンクリートの調合設計	教科書「コンクリート」に関わる項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第7回	コンクリートの練り混ぜと打設	教科書「コンクリート」に関わる項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第8回	フレッシュコンクリートの試験	教科書「コンクリート」に関わる項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第9回	コンクリートの1週強度試験	教科書「コンクリート」に関わる項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第10回	コンクリートの4週強度試験	教科書「コンクリート」に関わる項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第11回	コンクリートの弾性係数の測定	教科書「コンクリート」に関わる項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第12回	解説① (木材のまとめ)	教科書「木材の曲げ試験」に関わる項を参照しながら予習する。講義の際に記した講義ノートをまとめながら復習する。	1
第13回	解説② (鋼材のまとめ)	教科書「鋼材の引張試験」に関わる項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第14回	解説③ (コンクリートのまとめ)	教科書「コンクリート」に関わる項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
教科書・参考書等			
日本建築学会編「建築材料実験用教材」丸善 このほか、必要に応じて講義資料を配付する。			
成績評価方法・基準			
演習やレポートの得点などにより、総合的に評価する。			

52	住まいの材料実験Ⅱ LS-C-212		選択 1単位 3年後期
	Experiments in Finishing Materials Ⅱ		
3年全組 非常勤講師 北辻 政文			
授業の達成目標			授業形態
建築物の仕上材料として用いられているボード類の基本的な性質を経験的に理解する。また、各ボードの試験方法及びデータのまとめ方を習得する。			□ 単独 (1人が全回担当)
			○ 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)
			□ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)
			□ クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
主に住宅の部位の仕上材料として用いられているボード類を対象として、「曲げ強度」、「耐水性」、「難燃性」、「耐衝撃性」などの試験を行い、それらのデータのまとめ方や計算演習を通して、各性質のとらえ方や解釈の仕方を経験的に学ぶ。			□ 教職科目 (工業)
			□ 教職科目 (情報)
			□ 地域志向科目
			□ 実務経験のある教員担当
実務経験を活かした教育について			□ アクティブラーニング
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	プロローグ	教科書の「建築用ボード類」に関わる項を参照しながら予習する。これまでに学んだ仕上材料の特質について復習しておく。	1
第2回	ボード類の性質の解説	教科書の「建築用ボード類」に関わる項を参照しながら予習する。これまでに学んだ仕上材料の特質について復習しておく。	1
第3回	曲げ試験① (測定)	教科書の「建築用ボード類」に関わる項を参照しながら予習する。これまでに学んだ仕上材料の特質について復習しておく。	1
第4回	曲げ試験② (観察)	教科書の「建築用ボード類」に関わる項を参照しながら予習する。これまでに学んだ仕上材料の特質について復習しておく。	1
第5回	曲げ試験③ (試験)	教科書の「建築用ボード類」に関わる項を参照しながら予習する。これまでに学んだ仕上材料の特質について復習しておく。	1
第6回	耐水試験① (測定)	教科書「材料の特性試験等」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第7回	耐水試験② (観察)	教科書「材料の特性試験等」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第8回	耐水試験③ (試験)	教科書「材料の特性試験等」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第9回	難燃性試験① (測定)	教科書「材料の特性試験」「防火性・耐火性」に関する項を予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第10回	難燃性試験② (観察)	教科書「材料の特性試験」「防火性・耐火性」に関する項を予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第11回	難燃性試験③ (試験)	教科書「材料の特性試験」「防火性・耐火性」に関する項を予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第12回	耐衝撃性試験① (測定)	教科書「材料の特性試験等」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第13回	耐衝撃性試験② (観察)	教科書「材料の特性試験等」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第14回	耐衝撃性試験③ (試験)	教科書「材料の特性試験等」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
教科書・参考書等			
日本建築学会編「建築材料実験用教材」丸善 このほか、必要に応じて講義資料を配付する。			
成績評価方法・基準			
演習やレポートの得点などにより、総合的に評価する。			

53	設計基礎演習 LS-E-213	選択 2単位 1年後期	
	Basic Practice of Architectural Design		
1年1組 非常勤講師 渡邊 武海 1年2組 非常勤講師 佐藤 充			
授業の達成目標		授業形態	
国内外の模範的な住宅設計作品を探求し、その特徴を捉えた模型を作成、表現することができる。住環境の構成要素を理解し、その製図表記法を理解・習得し、正確に図解することができる。住環境に対する観察眼を養い、透視図の基本を修得し、手描きパースペクティブを正確に描くことができる。		単独 (1人が全回担当) 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
第1部では、住宅建築作品を研究し、これを評価する眼を養う。第2部では、住宅製図のトレースを通して、住まいの設計製図法を学び、以降の住まい設計系の実習演習科目に備える。第3部では、透視図法の演習を通して、住まい空間の表現方法を探求する。 授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。		教職科目 (工業) 地域志向科目 <input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	第1部(1) 住宅の名作を探そう	住まいの設計製図を学ぶ導入として、国内外の住宅の名作を題材として選択し、その評価眼を養う。(予習:住宅建築作品に関する書籍を一読しておく/復習:次週の模型づくりの要点をグループで話し合う)	2
第2回	第1部(2) 住宅の名作と模型づくり1	住まいの設計製図を学ぶ導入として、国内外の住宅の名作を模型に表現する。1週目は、敷地・配置・平面部を製作する。(予習:模型製作の道具・材料について予習する/復習:次週の模型づくりの要点をグループで話し合う)	2
第3回	第1部(3) 住宅の名作と模型づくり2	住まいの設計製図を学ぶ導入として、国内外の住宅の名作を模型に表現する。2週目は、屋根・壁体・開口部を製作する。(予習:模型製作の道具・材料について予習する/復習:次週の模型づくりの要点をグループで話し合う)	2
第4回	第1部(4) 住宅の名作と模型づくり3	住まいの設計製図を学ぶ導入として、国内外の住宅の名作を模型に表現する。3週目は、内部および外部の詳細部分を製作する。(予習:模型製作の道具・材料について予習する/復習:次週の講評会に向けて作品の修正を行う)	2
第5回	第1部(5) 講評会および住宅の名作と図面	住まいの設計製図を学ぶ導入として、住宅模型をもとに作品研究成果を発表しあう。また、建築図面の意味について学ぶ。(予習:発表準備を行う/復習:住宅図面の意義について考える)	2
第6回	第2部(1) 図判と敷地境界と進入路	住まいの設計製図の基礎を学ぶ。1週目は線の表記法の復習を兼ねつつ敷地図を製図する。(予習:建築図面とは何かを調べしておく/復習:製図ワークを反復する)	2
第7回	第2部(2) 平面記号・文字表現	住まいの設計製図の基礎を学ぶ。2週目は線の表記法の復習を兼ねつつ平面記号・文字表現を製図する。(予習:図面の諸要素を調べしておく/復習:製図ワークを反復する)	2
第8回	第2部(3) 断面・立面・高さ	住まいの設計製図の基礎を学ぶ。3週目は線の表記法の復習を兼ねつつ断面・立面・高さ関係部分を製図する。(予習:図面の諸要素を調べしておく/復習:製図ワークを反復する)	2
第9回	第2部(4) 外構図面その他	住まいの設計製図の基礎を学ぶ。4週目は線の表記法の復習を兼ねつつ外構図面その他を製図する。(予習:図面の諸要素を調べしておく/復習:製図ワークを反復する)	2
第10回	第2部(5) 製図表記法のミニテスト	住まいの設計製図の基礎を修得するため、ミニテストを行う。線の表記法とともに三面図の復習を兼ねる。(予習:製図表記法を復習しておく/復習:製図ワークを反復する)	2
第11回	第3部(1) アクソノメトリック	住まいの設計表現手段として、アクソノメトリックの描画法を修得する。(予習:アクソノメトリックとは何かを予習しておく/復習:製図ワークを反復する)	2
第12回	第3部(1) インテリアの一点透視図	住まいの設計表現手段として、一点透視図の描画法を修得する。(予習:透視図とは何かを予習しておく/復習:製図ワークを反復する)	2
第13回	第3部(2) インテリアの一点透視図・続き	住まいの設計表現手段として、一点透視図の描画法を修得する。(予習:透視図とは何かを予習しておく/復習:製図ワークを反復する)	2
第14回	第3部(3) 外観の二点透視図	住まいの設計表現手段として、二点透視図の描画法を修得する。(予習:透視図とは何かを予習しておく/復習:製図ワークを反復する)	2
第15回	第3部(4) 外観の二点透視図・続き	住まいの設計表現手段として、二点透視図の描画法を修得する。(予習:透視図とは何かを予習しておく/復習:製図ワークを反復する)	2
教科書・参考書等			
大脇賢次「イラストでわかる建築模型の作り方」彰国社、2007 中山繁信「スケッチ感覚でパースが描ける本」彰国社、2012			
成績評価方法・基準			
3課題の提出作品の出来映えから総合的に評価する。			

54	設計CAD演習 I LS-E-313	選択 2単位 2年前期	
	Architectural Design and CAD Practice I		
2年全組 教 授 小山 祐司 2年1組 非常勤講師 渡邊 武海 2年2組 非常勤講師 佐藤 充			
授業の達成目標		授業形態	
住宅建築構法の基礎を理解し、配置・平面・断面・立面・展開の各図面や、屋根・開口・階段等が整合した設計図面をまとめることができること。 住宅設計図をCADで正確に描画し、図版レイアウトや色調、写真等に美的感性をもち、適切なアプリケーションツールを使用して、美しいプレゼンテーション・ボードを作成できること。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一組に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input checked="" type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
住宅レベルの建築図面の種類を学び、相互に整合する図面の重要性を演習形式で学ぶ。次にこれをCADに移し替え、その操作法を学び、製図していく。また、これらをコンテンツとしたレイアウト図面の作成法を学び、そのセンスを磨く。 授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、建築士として、また建築設計事務所における設計実務に従事した実績と経験を活かして、授業において企画・設計・デザイン等の建築設計にかかわる実務への対応力を養成する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	手書き編1：平面プランニング	予習：平面図について配付資料を基に理解する。復習：教員のアドバイスをまとめ、不十分な箇所を補う。	2
第2回	手書き編2：各階の整合と断面計画	予習：断面図について理解する。復習：教員のアドバイスをまとめ、不十分な箇所を補う。	2
第3回	手書き編3：立面図と外構	予習：正面と側面の立面図および配置図について理解する。復習：教員のアドバイスをまとめ、不十分な箇所を補う。	2
第4回	手書き編4：階段と開口と屋根・庇	予習：階段断面、窓や戸口、屋根形状について理解する。復習：教員のアドバイスをまとめ、不十分な箇所を補う。	2
第5回	CAD編1：操作法の基礎	建築CADについて参考図書を読んで予習を行い、操作法の基礎について復習を行う。	2
第6回	CAD編2：平面図	予習：平面図について配付資料をもとに予習する。復習：図面上の諸要素の表現について理解するように復習する。	2
第7回	CAD編3：断面と立面	予習：断面図と立面図について配付資料をもとに予習する。復習：図面上の諸要素の表現について理解するように復習する。	2
第8回	CAD編4：展開	予習：室内展開図について配付資料をもとに予習する。復習：図面上の諸要素の表現について理解するように復習する。	2
第9回	CAD編5：各部詳細	予習：詳細図について配付資料をもとに予習する。復習：図面上の諸要素の表現について理解するように復習する。	2
第10回	CAD編6：レンダリング	予習：レンダリング手法を予習する。復習：教員のアドバイスを基にリファイン作業を行う。	2
第11回	CAD編7：外構・添景その他	予習：添景描写手法を予習する。復習：教員のアドバイスを基にリファイン作業を行う。	2
第12回	DTP編1：Illustrator	予習：プレゼンボードにまとめる内容を精査し、Illustrator表現の予習。復習：教員のアドバイスを基に、不十分な箇所を補う。	2
第13回	DTP編2：Photoshop	予習：Photoshop表現の予習。復習：教員のアドバイスを基に、不十分な箇所を補う。	2
第14回	DTP編3：その他のツール等	予習：プレゼンボード製作に向け、複数の案を準備しておくこと。復習：教員のアドバイスを基に、リファイン作業を行う。	2
第15回	DTP編4：レイアウト図面の講評会	予習：プレゼンボードを作成する。復習：講評を基にリファインし、ポートフォリオを作成する。	2
教科書・参考書等			
教科書	必要に応じて教員自作資料のプリントを配付する。		
参考書	増田奏「住まいの解剖図鑑」エクスナレッジ、2009 松下希和「住宅・インテリアの解剖図鑑」エクスナレッジ、2011 日本建築学会編「第2版コンパクト建築設計資料集成 <住居>」丸善、2006		
成績評価方法・基準			
複数の課題に対する提出作品により総合的に評価する。			

55	設計CAD演習Ⅱ LS-E-401		選択 2単位 3年後期
	Architectural Design and CAD Practice Ⅱ		
3年全組		教授 武山 倫 教授 大沼 正寛 非常勤講師 野津 弘	非常勤講師 渡邊 武海
授業の達成目標			授業形態
都市計画的観点に配慮し、短時間に諸条件を満たした住宅設計をまとめ、各種図面を作成することができる。地域の可能性や課題に着眼し、斬新な発想をもって、その解決法を建築設計図面に表現し、説得力ある提案書としてまとめ、解説することができる。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
即日設計課題3題。コンペを想定した創作性のつよい設計課題2題。仙台・宮城・東北の諸課題や地域性を念頭におきながら課題を構成する。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目
実務経験を活かした教育について			<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
当科目は、一級建築士としての建築設計に携わった教員が担当する。すなわち、計画、構法から構成材料まで、設計に関わる実際的な知見・技術を含めながら、創作性の高い提案をまとめることができるよう指導する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス・社会と都市と建築	古今東西の建築デザイン史と、発想、構想の重要性を学ぶ。(予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第2回	第1ルール・即日設計演習1	公衆便所を併設した公園の東屋を設計する。(予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第3回	第1ルール・即日設計演習2	空き店舗を利用した和風カフェを設計する。(予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第4回	第1ルール・即日設計演習3	県産品を展示する仮設パビリオンを設計する。(予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第5回	第1ルール・即日設計演習4 講評会	3作から代表作を選んで発表する。	2
第6回	第2ルール・創作設計1-1	問題の発見と建築企画 (予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第7回	第2ルール・創作設計1-2	構想とドローイング (予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第8回	第2ルール・創作設計1-3	建築企画書の提示 (予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第9回	第2ルール・創作設計2-1	問題の発見と建築企画 (予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第10回	第2ルール・創作設計2-2	構想とドローイング (予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第11回	第2ルール・創作設計2-3	建築企画書の提示 (予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第12回	第2ルール・創作設計総合講評会	2作品から代表作を発表 (予習:講評会の発表内容を練る/復習:発表における反省点をみつけ改善する)	2
第13回	第3ルール・プレゼンテーション図面の作成	上記全てのなかから代表作を選んで製図、描画 (予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第14回	第3ルール・プレゼンテーション図面の作成	図面を掲示して、学科外の教員・学生らに解説し講評を受ける。(予習:講評会の発表内容を練る/復習:発表における反省点をみつけ改善する)	2
教科書・参考書等			
増田奏「住まいの解剖図鑑」エクスナレッジ、2009 松下希和「住宅・インテリアの解剖図鑑」エクスナレッジ、2011 日本建築学会編「第2版コンパクト建築設計資料集成 <住居>」丸善、2006			
成績評価方法・基準			
各回の提出作品のポイントを総合的に評価する。			

56

S D 特別課外活動 LS-D-001

選択 1～4 単位 1 年前期～4 年後期

Extracurricular Activities in Life Design for Safety and Amenity

全学年全組 学科長 大沼 正寛

●授業の達成目標

正規授業内では得られない経験や知識を課外で修得し、本学科の理念や目的をより広く、より深く達成させる。
本学科の専門に関連深い資格取得、検定等の合格、及び学科が指定する課外活動（教育的な意味、効果が得られるもの）、各種デザインコンペ等への応募に対して本人が単位申請を行った場合、学科で審査の上、上限4単位で専門科目としての単位認定を行う。

●授業の概要

単位認定を希望する学生は、教務学生課又は長町キャンパス事務室に申し出て「生活デザイン特別課外活動単位認定申請書」を受け取り、必要事項を記入の上、以下に示す1から3それぞれの単位認定の方法に応じて必要となる申請書類とともに、教務学生課又は長町キャンパス事務室に提出すること。提出の締切は、学期末の7月末日と1月末日とする。

1. 資格取得による単位認定

本学科の専門に関連のある資格を取得した場合、あるいは検定に合格した場合は、専門教育科目に申請できる。どのような資格や検定が「生活デザイン特別課外活動」の対象となるか、また、それら資格や検定の評価については、下記の認定例を参考とされたい。また前期および後期のオリエンテーション等で説明する。

<申請書類>

- ・生活デザイン特別課外活動単位認定申請書：取得した資格または合格した検定の名称、及び取得年月日を記入すること
- ・資格の取得や検定の合格を証明する書類のコピー（合格証や資格証明書）

2. 学科が指定する課外活動による単位認定

学科が指定する課外活動は、以下の（1）から（4）の4項目である。

- （1）学科内の各研究室が単独または合同で実施する調査研究・各種ゼミへの参加。
- （2）企業実習などへの参加。
- （3）自主的に行う国内・国外の生活デザイン見聞旅行の計画・実施。
- （4）その他、学科で認めた活動。

これらの活動日数によって、単位数を判定する。1単位は5日以上、2単位は10日以上とする。評価は、「活動における自主性、能動性の度合い」「活動内容の充実度」「活動の成果の大きさ」の3つの観点から行う。

<申請書類>

- ・生活デザイン特別課外活動単位認定申請書：課外活動を行った場所、期間、内容等について記入すること
- ・活動報告書：A4用紙で10枚程度。企業実習の場合は大学所定の「実習報告書」が良い。
- ・参加を証明する資料：企業実習の場合は大学所定のインターンシップ「評価票」が良い。

3. 各種デザインコンペ・学会発表等への応募による単位認定

各種デザインコンペ・学会発表等の応募に対する評価は、顕彰の程度を適正に考慮し行う。申請方法については、ゼミの指導教員と相談の上決定する。

4. 認定の方法

単位認定の審査は、生活デザイン学科の学科会議で行い、学科長が単位認定する。

資格取得または検定等の主な認定例

資格等名称	単位
福祉住環境コーディネーター検定2級	2
商業施設士補	2
PL 検定3級	2
インテリアコーディネーター	
福祉住環境コーディネーター検定2級	2
カラーコーディネーター検定3級	
商業施設士補	2
色彩検定3級	
PL 検定3級	2

※認定希望者は事前に教務学生課又は長町キャンパス事務室に問合せること。

57

他学科開講科目群 AA-X-001

選択 4単位 1年後期～4年後期

Subjects offered by other departments

●授業の達成目標
選択する科目により異なる。

●授業の概要
学生が本学科における専門知識をより深く理解するため、他学科の開講科目を履修する機会を設けている。他学科の専門科目として開講されている講義等を履修することにより、単位が認定される。受講に際しては、長町キャンパス事務室（八木山キャンパス・学生サポートオフィス）から、専用の申込用紙を受け取る。まず、科目担当教員の了解を得て、本学科教務委員に提出すること。詳細は、当該科目のシラバスを参照のこと。

●成績評価方法・基準
それぞれ当該科目における方法、基準による。（当該科目のシラバス参照）

58

他大学開講科目群 AA-X-002

選択 4単位 1年後期～4年前期

Subjects offered by other universities

●授業の達成目標
履修する科目により異なる。

●授業の概要
詳細については学生便覧の「他大学開講科目」、キャンパスライフの「学都仙台単位互換ネットワーク協定および国内外の大学等との単位互換に関する協定に基づく東北工業大学特別聴講学生取扱要項」などを参照のこと。